

# 自己点検・評価報告書

(令和元年度分)



# 目 次

## 序 章

学長あいさつ	1
長野県看護大学の概要	3

## 第1章 学事と組織

第1節 教育理念・教育目標	5
第2節 大学組織	9
第3節 学生の状況	16

## 第2章 年間の活動状況

第1節 学部・研究科の行事及び教授会活動	20
第2節 学部の教育活動	24
第3節 研究科の教育活動	27
第4節 看護実践国際研究センターの活動	29

## 第3章 教員の研修・研究、社会活動

第1節 研修	30
第2節 研究活動	33
第3節 社会・地域貢献活動	42

## 第4章 社会貢献

第1節 公開講座	46
第2節 分野の活動	46

## 第5章 学内委員会等の活動

第1節 運営委員会	48
第2節 広報・交流委員会	48
第3節 教務委員会	51
第4節 実習委員会	54
第5節 入試検討委員会	57
第6節 図書委員会	60
第7節 紀要委員会	62
第8節 学生委員会	64
第9節 ネットワーク推進委員会	67
第10節 FD・SD委員会	69
第11節 評価委員会	70
第12節 倫理委員会	72
第13節 ハラスメント防止委員会	73
第14節 動物実験委員会	75
第15節 感染症対策委員会	77
第16節 コンソーシアム信州運営	78
第17節 防災委員会	79

第 18 節	安全衛生委員会	8 2
第 19 節	研究科委員会教務部会	9 3
第 20 節	研究科委員会入試部会	8 6
<b>第 6 章 学生生活及び学生への支援</b>		
第 1 節	学生支援活動	8 9
第 2 節	キャリア形成支援	9 2
第 3 節	保健厚生	9 6
第 4 節	修学資金等	9 8
第 5 節	サークル活動及び大学祭	1 0 0
第 6 節	関係団体の活動	1 0 1
<b>第 7 章 施設の管理運営</b>		
第 1 節	施設の状況	1 0 6
第 2 節	財政の状況	1 1 1
<b>第 8 章 点検・評価総括</b>		
		1 1 4

## 自己点検・評価報告書（令和元年度）の刊行にあたって

平成 23 年度に自己点検・評価報告書（報告書）が刊行されて以来、今回で 9 回目の発刊にあたります。大学の年間活動の概況をまとめることは大変な作業ですが、1 年間の取り組みを整理・点検することは、社会のニーズを踏まえた自らの手による「教育の質の保証と向上」につながることから、報告書の刊行は自学の「自律」と「自治」の取り組みの証といえます。

今日、私たちは急激な社会変革の只中におり、大学教育の分野においても同様の変革が求められています。「社会は大学に何を求めているか？」この問い掛けを絶えず自問し誠実かつ的確に応えるためには、本学の教育理念や教育目標、いわゆる 3P (Admission Policy、Curriculum Policy, Diploma Policy)、中期構想等に基づく教育研活動に対する適切な評価基準・評価方法が求められます。すなわち、入学から卒業・修了までの、大学・大学院教育を充実させるために教育評価を行ない、教育研究、地域貢献活動や大学運営の PDCA サイクルを回し、その積み重ねが確かな歩みとなるよう努力しなければなりません。こうしたプラスのスパイラルを生起させるためには、PDCA サイクルの、特に P(実施計画)と C(自己点検・評価)を結び付けることが必要不可欠です。2020 年には、看護学の認証評価がスタートする予定であることから、本学においても、教育科目の適切性並びに教育目的・目標に対する学生自身の到達評価を可能とする仕組みの構築・検証と学修成果の可視化に向けた検討を進めていく必要があります。

本学は開学以来、学校教育法第 109 条の認証評価機関である大学基準協会の 2 回目の審査を平成 23 年に終え、平成 30 年 10 月には 3 回目の受審を終えました。第 3 回受審では、①教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備が不十分なこと、②内部質保証システムの整備が不十分なこと、が改善課題として指摘されました。今後、①については、教育理念や教育目標と教育科目との整合性・適切性の全学的な確認作業を行うこと、②については、内部質保証を推進する組織改革と権限や責任の範囲を明確化すること、に速やかに取り組みたいと思います。

平成 30 年度学長に就任して、第 3 次中期構想指針の策定(2019 年度～2023 年度)に取り組みました。令和元年度はその初年度にあたることから、激変する地域社会の保健医療福祉領域のニーズに応えるために、まずは懸案の基礎看護学講座に新たに「看護管理学・看護教育学」分野を立ち上げて看護管理者の人材育成に取り組みました。加えて、令和 2 年度に本庁からの委託による「看護教員養成事業」を引き受けたことから、看護実践国際研究セ

ンター内に「看護教員・看護管理者教育部門」を新たに創設するための準備を進めてきました。また、令和元年度3月末日を持って「認定看護師教育部門」を廃止した後のあり方についても検討を進めてきました。

令和2年の年初以来、中国由来の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、多くの大学運営や学内委員会の活動等が3密回避、県境・県域を跨いだ移動の自粛等から深刻な影響を受けました。しかし、教育改革として全学的に取り組むべき「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」(2017年)に基づく教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備や令和4年度(2022年度)の入学生から適用される改正指定規則(文部科学省と厚生労働省の共同省令である保健師助産師看護師学校養成所指定規則)による新カリキュラムの準備を着実に進める必要があります。加えて、県内に新たに2つの看護学部が開設(2019年度)されたことから、本学のオリジナリティ・ブランド化の取り組みがより一層求められています。

今回、報告書の作成に取り組むことを通して、教職員が本学の特長、現状と課題等を改めて認識し、「社会は大学に何を求めているか？」という根本的な問いに教職員ひとり一人が真摯に向き合うための貴重な機会となったことと思います。引き続き本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指した看護人材育成や社会・地域貢献活動等を推進して、公立大学としての使命を果たしていきたいと思いをします。

令和2年9月30日

長野県看護大学  
学長 北山秋雄

## 長野県看護大学の概要

### 1 設置の趣旨・目的

人口の少子高齢化等の社会環境の変化、医療の専門化・多様化・高度化等の対応に指導的役割を果たし得る資質の高い人材を育成するとともに、看護学の発展に寄与し、看護学の研究・研修の拠点となることを目的とする。

### 2 学部・学科の構成、入学定員等

構 成	修業年限	定 員	総定員	卒業（修了）時取得可能資格
看護学部看護学科	4年	入学定員 80名 編入学定員 (3年次10名) (H28から募集停止)	340名	学士（看護学） 看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 助産師国家試験受験資格（選択） 養護教諭二種（保健師免許取得後）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	2年	16名	32名	修士（看護学）
大学院看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	3年	4名	12名	博士（看護学）

### 3 施 設

1) 所在地 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地

2) 敷地面積 75,733.00㎡

3) 建物延床面積 19,144.54㎡

[建物等の面積及び主な施設・設備]

区 分	面 積 (㎡)	主 な 施 設 ・ 設 備
管 理 棟	2,242.13	学長室 事務室 保健室 会議室 食堂 売店
教育研究棟	9,079.39	講義室 演習室 実習室 実験室 情報処理教室 研究室
図 書 館	1,200.62	閲覧室68席 キャレール12席 グループ学習室 AVルーム
体 育 館	893.68	バスケットボール1面 バレーボール2面
屋内プール棟	1,131.64	25m6コース（内スロープコース1）健康増進研究室
講 堂	962.43	511席 AV設備 ピアノ
学 生 棟	802.21	学生ホール 自治会室 クラブ室
非常勤講師宿舎	328.00	1棟8室
学生寄宿舍	2,504.44	2棟80室
グラウンド	15,948.00	250mトラック テニスコート4面
有酸素運動研究コース	12,505.00	コース延長600m
語らいの並木		90m×2

### 4 沿 革

昭和60(1985)年	5月	・県行政審議会答申「看護婦養成体制の質的強化を図るため、看護専門学校は、将来一校体制(看護大学等)として充実すべきである。」
平成2(1990)年	10月	・県看護婦等養成確保対策研究会報告「高度な看護教育を行なうため4年生大学を設置する必要がある。」
平成3(1991)年	6月	・看護大学設置決定
	8月	・県立看護大学設置準備委員会の設置
平成5(1993)年	4月	・看護大学設立準備室の設置

平成 6(1994)年	12月	・看護学部看護学科設置認可
*****		
平成 7(1995)年	4月	・長野県看護大学開学(看護学部看護学科定員 80 名)
		・第1回入学式
	6月	・開学式
平成 9(1997)年	4月	・3年次編入制度(定員 10 名)開始
平成 10(1998)年	4月	・科目等履修生制度開始
	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士前期課程設置認可
平成 11(1999)年	3月	・第1回卒業式
	4月	・大学院博士前期課程(定員 16 名)開設
	11月	・屋内プール棟完成
平成 12(2000)年	12月	・長野県看護大学大学院看護学専攻博士後期課程設置認可
平成 13(2001)年	3月	・第1回大学院修了式
	4月	・大学院博士後期課程(定員 4 名)開設
	7月	・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する協定の締結
平成 15(2003)年	2月	・大学院小児看護分野 CNS コース認定申請承認
	4月	・社会人特別選抜制度開始
	7月	・長野県看護大学と放送大学との間における単位互換に関する協定の締結
	12月	・大学院老年看護分野 CNS コースの認定申請承認
平成 16(2004)年	7月	・長野県看護大学とカリフォルニア大学サンフランシスコ校との相互協力に関する協定の締結
	11月	・創立 10 周年記念式典
平成 17(2005)年	1月	・長野県内 7 大学単位互換に関する協定締結
平成 18(2006)年	4月	・大学院に里山・遠隔看護学分野を開設
平成 19(2007)年	4月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成 19 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)
平成 20(2008)年	4月	・長野県組織規則に看護実践国際研究センターを位置付け
平成 22(2010)年	3月	・駒ヶ根市と災害時における協力体制に関する協定を締結
	11月	・健康センター開設
平成 23(2011)年	2月	・大学院小児看護分野の CNS コースの更新申請承認
	4月	・講座の再編
	6月	・認定看護師教育課程開講(皮膚・排泄ケア分野、感染管理分野)
平成 24(2012)年	3月	・大学院老年看護分野の CNS コースの更新申請承認
		・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成 24 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)
	4月	・大学院長期履修制度開始
平成 25(2013)年	6月	・認定看護師教育課程認知症看護分野開講、皮膚・排泄ケア分野休講
平成 26(2014)年	2月	・駒ヶ根市と長野県看護大学との包括的連携に関する協定締結
	3月	・大学院精神看護分野 CNS コース(38 単位)の認定申請承認
	11月	・創立 20 周年記念式典
	12月	・長野県立こころの医療センター駒ヶ根、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、飯田市立病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 28(2016)年	4月	・3年次編入生募集停止
平成 29(2017)年	4月	・認定看護師教育課程感染管理分野休講
		・伊那神経科病院と看護連携型ユニフィケーション事業基本協定締結
平成 30(2018)年	3月	・大学院小児看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
		・大学院老年看護分野の CNS コース(38 単位)の認定申請承認
	9月	・長野県看護大学と中国揚州大学との相互協力に関する協定の締結
		・長野県看護大学とサモア国立大学との相互協力に関する覚書の締結
平成 31(2019)年	3月	・大学基準協会の大学基準に適合していると認定(平成 31 年 4 月 1 日～平成 38 年 3 月 31 日)
令和 2(2020)年	3月	・認定看護師教育課程認知症看護分野閉講に伴う同教育課程閉講

## 第1章 学事と組織

### 第1節 教育理念・教育目標

#### 1 教育理念

本学は、1995年に長野県立では初めて設立された4年制の看護の単科大学であり、学年進行に沿って、大学院博士前期課程、博士後期課程を開設してきた。それらの時期、および2006年の学部新カリキュラム導入時には、教育理念および教育目標の見直しを行なった。教育理念の見直しは、これまでの学生個人個人の資質を向上させることに加えて、看護職者としての基本である人間理解、特に人間の生のありようを理解すること（「さまざまな生を営む人間を深く理解し」）を盛り込んでおり、その教育理念は学部・研究科とも共通である。

#### ○本学の教育理念

学生個人個人のもつ可能性が最大限に開花することを目指し、自立性、主体性を育むとともに、さまざまな生を営む人間を深く理解し、人々への配慮が自然にできる豊かな人間性と幅広い視野を養う。

これらを基盤として、看護実践に関する総合的な能力を養成し、看護の社会的機能を担い人々の健康福祉の向上に貢献する人材を育成する。さらに、看護の発展に寄与する実践者、教育者及び研究者を育成する。

#### 2 学部の教育目標

(1) 豊かな人間性と幅広い視野を養う。

- 1) 学びの体験を通して命の尊さに触れ、人間の理解を深める。
- 2) 豊かな感受性を養い、想像力と洞察力を身につける。
- 3) さまざまな文化や社会の中で生活する人々を理解し、多様な価値を尊重できる。

(2) 看護専門職者として社会に貢献できる能力を養う。

- 1) 生命の尊厳を理解し、人間としての権利を尊重して主体的に行動できる。
- 2) 看護の対象となる人を身体的、精神的、社会文化的側面から全人的に理解できる。
- 3) 対象となる人の主体性を尊重し、協力して援助関係を築くことができる。
- 4) あらゆる健康段階にある人々に対して、よりよい社会生活を支援する看護実践を展開できる。
- 5) 科学的な根拠に基づいて適切な判断を下し、問題を解決することができる。
- 6) 自らの看護実践をふりかえり、新たな課題に取り組むことができる。
- 7) 専門職としての責任を自覚して行動し、リーダーシップを発揮できる。
- 8) 保健・医療・福祉等に携わる人々と協働し、看護をより有効に機能させることができる。

(3) 看護実践における課題の究明に取り組む能力を養う。

- 1) 看護実践における課題を見出すことができる多角的な視点を身につける。
- 2) 課題解決にむけた創造的で論理的な思考能力を身につける。

### 3 学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤となる豊かな人間性と幅広い視野を備え、深い人間理解にもとづいた看護を創造的に実践する能力を有すると認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

- 看護の対象となる人と援助関係を築くことができる
- 科学的なアセスメントに基づいて看護を実践することができる
- ケアに関わる人々と協働することができる
- 看護職者としての専門性を生涯にわたって高めていくことができる

### 4 学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

学生個々の可能性を最大限開花させるという教育理念のもと、深く人間を理解し豊かな人間性を持った看護専門職の育成のために、4年間のカリキュラムを以下のように構成しています。

#### 【 人間理解の基礎科目 】

看護を学ぶ上で必要不可欠である、人を深く知るための能力、幅広い視野と創造性を養うことを目的としています。

生物学的な存在としての「ヒト」のみならず、自然・文化・社会の中でさまざまな環境と深く関わりながら生活を営む「人」を総体として理解する能力を育むために、以下の2つの科目群で構成されます。

1. 生命を維持する仕組みと機能
2. 人と人を取り巻く環境

#### 【 看護専門科目 】

看護専門職者としての基盤となる力を育み、看護に関わる諸問題をとらえて論理的に説明し、問題解決に向けた実践・研究能力を養うことを目的としています。以下の4つの科目群で構成されます。

1. 人と健康
2. 看護の基本
3. 看護の実践
4. 看護の実践と統合

このようなカリキュラムをとおして、看護職者としての基礎的な能力を養うとともに、主体性と自律性をもった専門職として生涯にわたり学び続ける力を育みます。

また、長野県民の健康長寿を支える県内の豊かな健康資源について学生が理解し、多様な場で様々な健康レベルに合わせた看護実践能力を身に付けることができるよう、地域交流を積極的に取り入れています。

さらに、国際的な視野を持って地域社会に貢献できる看護実践者の育成を目指し、海外の大学との教育協定等により国際的に看護を学ぶ場を提供しています。

分類	科目群	1 学 年		2 学 年		3 学 年		4 学 年	
		前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
人間理解の基礎科目	生命を維持する仕組みと機能	生物学 化学 運動実技・理論Ⅰ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 情報処理科学	生化学 薬理学 人体の構造と機能演習 <i>生命科学演習</i>		運動実技・理論Ⅱ	運動理論			
	人と人を取り巻く環境	統計学 英文読解の基礎 英会話の基礎 教育学 社会学 信州学 教の語と教養数学 仏語 コミュニケーション論 心理学	倫理学 医療英文読解演習Ⅰ 医療英会話の基礎Ⅰ	医療英文読解演習Ⅱ 医療英会話の基礎Ⅱ 哲学 文化人類学 経済学 人間工学	法学 生命倫理	保健統計学 英会話演習 英語文化研究 論理学	芸術と人間		仏語
看護専門科目	人と健康	保健・医療・福祉システム看護論Ⅰ	病理学 病理学演習 保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 公衆衛生学	疾病学Ⅰ 疾病学Ⅱ 感染学 疫学	感染学演習	看護栄養学	遺伝と人間		
	看護の基本	看護学概論 基礎看護方法Ⅰ 基礎看護実習Ⅰ	フィジカルアセスメント 基礎看護方法Ⅱ	看護過程の理論と展開	基礎看護実習Ⅱ	症状マネジメント論	看護倫理		
	看護の実践		慢性期看護概論 老年看護概論Ⅰ 精神看護概論Ⅰ 母性看護概論Ⅰ 小児看護概論Ⅰ 地域看護概論 在宅ケア論	慢性期看護方法 急性期看護概論 老年看護方法Ⅰ 精神看護概論Ⅱ 母性看護方法Ⅰ 小児看護概論Ⅱ 小児看護方法Ⅰ 地域看護方法Ⅰ 在宅ケア方法Ⅰ 家族援助論 多文化共生看護学	急性期看護方法 老年看護方法Ⅱ 精神看護方法 母性看護方法Ⅱ 小児看護方法Ⅱ	成人看護実習 老年看護実習 精神看護実習 母性看護実習 小児看護実習 地域看護実習 在宅看護実習	地域母子保健 助産方法Ⅰ 助産方法Ⅲ	助産方法Ⅱ 助産実習	
	看護の実践と統合					保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ 国際看護学Ⅰ 国際看護学Ⅱ 国際看護実習	看護研究方法 医事法学	看護管理論 看護統合実習 助産業務管理	看護論 看護教育論 卒業研究

## 5 学部のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

### 【求める学生像】

本学は、看護師、保健師、助産師として長野県をはじめ日本各地の医療・保健機関や自治体において、多様な文化を理解し地域社会の人々の健康と幸せを守ることに貢献できる看護実践者の育成を目指しています。

このような看護実践者の育成を目指す本学では、以下のような人を求めています。

- ①自然や人間の様々な現象に興味を持ち、積極的に学ぼうとする人
- ②相手の話に耳をよく傾け、自分の考えを適切に表現しようとする人
- ③人間の尊厳を重んじ、相手の個性を尊重して協調しようとする人
- ④問題に自ら進んで向き合い、柔軟な考え方で解決しようとする人
- ⑤看護専門職として社会に貢献しようとする人

### 【選抜方法】

本学の教育理念、求める学生像に見合った人を選抜するため、一般選抜入試(前期日程、後期日程)と特別選抜入試(推薦、社会人)を実施しています。

一般選抜入試では、入学者の選抜は、看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人を求めるため大学入試センター試験を課し、本学が実施する小論文及び面接並びに調査書の審査の結果を総合して行います。特別選抜入試(推薦)では、本学が実施する小論文(英語の課題文の読解を含む。)及び面接並びに調査書等の審査の結果を総合して行います。

## 6 研究科の教育目標

### (1) 博士前期課程

- 1) 専門分野に関連する理論と技術を学び、質の高い看護実践能力を養う。
- 2) 研究のプロセスを修得し、研究に必要な基礎的能力を養う。
- 3) 国内外の学術的な場において研究成果を公表する能力を養う。
- 4) 専門性を基盤にして他職種と協働し、調整する能力を養う。

### (2) 博士後期課程

- 1) 看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力を養う。
- 2) 国内外で学術的な交流をする能力を養う。
- 3) 学際的な視野に立ち、研究活動および保健医療福祉活動に貢献する能力を養う。
- 4) 専門性を基盤に、優れた人材を育成する教育能力を養う。

## 7 研究科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### (1) 博士前期課程

課程修了の要件を満たし、次に該当する者に修士（看護学）の学位を授与する。

広い視野を持ち看護学に関する専門分野の学識を深め、科学的な思考力を身に付け、保健医療福祉の現場において、研究成果を活用できる高度な専門知識と実践能力を有する者。

修士論文コースにおいては、看護の質向上に貢献できる研究能力を備えた者。

専門看護師コースにおいては、高度な専門知識と実践能力に基づき、多様な健康課題を解決でき、看護の質向上に貢献できる者。

### (2) 博士後期課程

学際的な視野を持ち、看護学の発展に寄与する研究を独立して行う能力ならびに優れた人材を育成する教育能力を有し、課程修了の要件を満たした者に博士（看護学）の学位を授与する。

## 8 研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### (1) 博士前期課程

博士前期課程では、看護学に関する理論と実践を専門的かつ学際的に探求することを目指し、修士論文コースと専門看護師コースを設け、以下のようにカリキュラムを編成している。

- 1) 広い視野と創造性を養うための科目から編成される「共通選択科目」（8単位）、修士論文コース・専門看護師コースどちらのコースにおいても看護学の基礎的能力と倫理観を養うための「必修科目」（修士論文コース12単位、専門看護師コース8単位）を置いている。
- 2) 専門性を深め研究遂行能力を養う、または専門職の実践力を育てるための4領域11分野において、特論（4単位以上）、演習（6単位）を置いている。
- 3) 修士論文の作成にあたっては「修士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、論文作成に着手する手続きを課している。
- 4) 修士論文コースにおいては、学際的な視野から教育を行うために主指導教員に加え副指導教員を配置し、「看護学課題研究」（6単位）を課している。
- 5) 専門看護師コースにおいては、卓越した専門的能力を育成し、保健医療福祉分野でのケアと倫理的課題について調整する能力を養うため、「専門科目」の特論、演習、実習を置いている。

これに加え、実践者としての分析・考察力を養うため「看護実践課題研究」（2単位）を課し

ている。

- 6) 修士論文審査の透明性と客観性を確保するため「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## (2) 博士後期課程

博士後期課程では、看護学の発展に貢献する教育者・研究者を養成するために、以下のようにカリキュラムを編成している。

- 1) 学際的視野を広げるため、「共通選択科目」(4単位以上)を置いている。
- 2) 領域別専門科目9分野において、専門的な研究能力と倫理観を養うため、特論(2単位)、演習(4単位)を置いている。
- 3) 博士論文の作成にあたっては、「博士論文の指導・審査の流れ」に基づき、倫理委員会の承認を得た後、博士論文作成に着手する手続きを課している。
- 4) 博士論文審査の透明性と客観性を確保するために「学位規程に関する内規」を設け、これに基づいた指導と審査を行うことで論文の質保証に努めている。

## 9 研究科のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

### 【修士課程】

1. 臨床現場の課題を探求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
2. 基礎的研究能力を培い、看護学の探求を目指す人
3. 看護の専門性を基に他職種と協働し、地域の人々の健康への貢献を目指す人

### 【博士課程】

1. 基礎的な研究能力を有し、人々の健康の保持・増進および生活の質の向上に関連した研究に自立して取り組む人
2. 専門分野で修得した高度な看護実践能力を国際的・学際的な視点から養い、理論的・実践的に発展させる人
3. 高度な研究能力や看護実践能力を看護実践の質の向上や人材の育成に役立てられる人

## 第2節 大学組織

### 1 組織

#### (1) 組織図

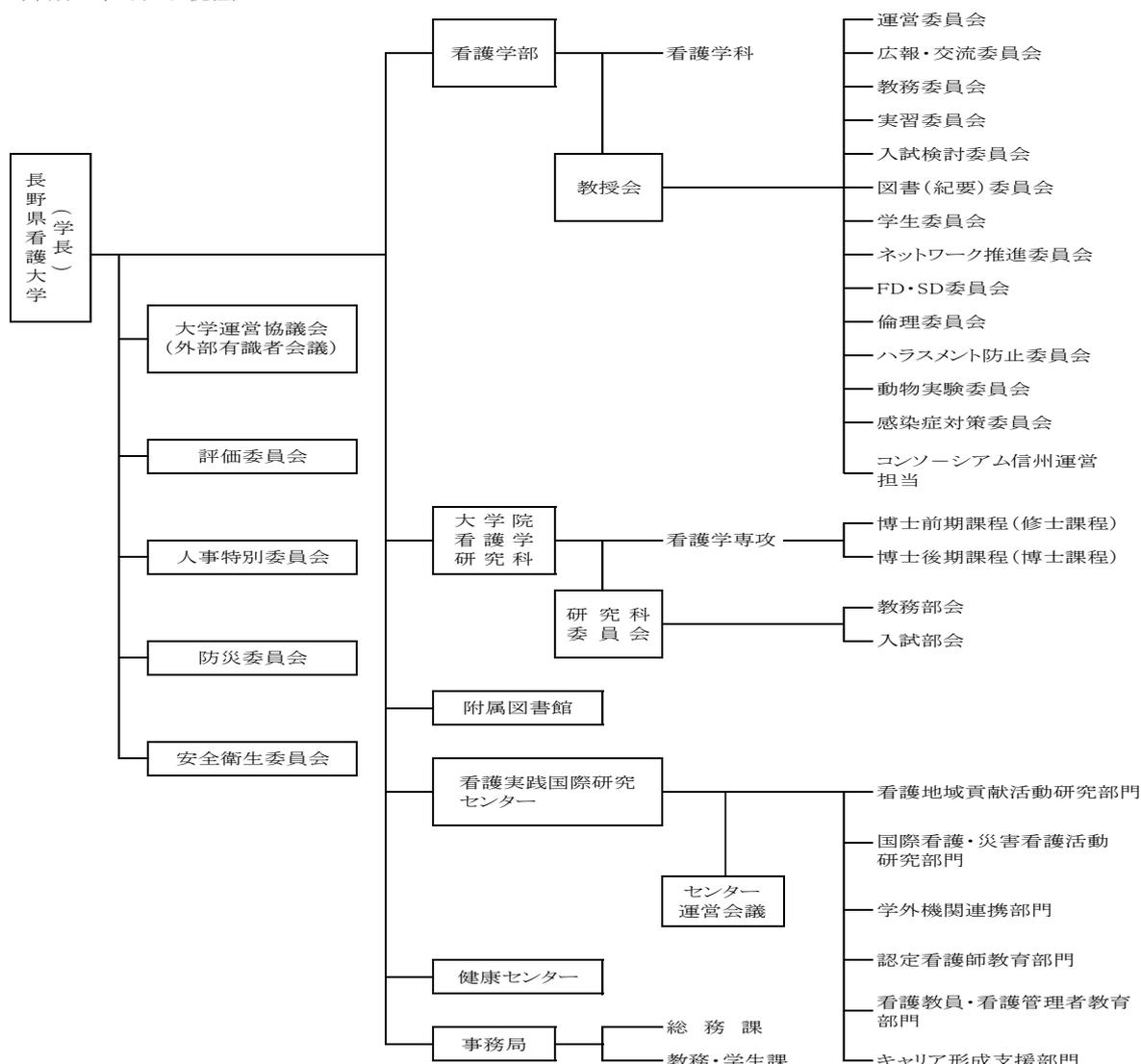
本学の管理運営体制については、設置主体が県であり、知事の指揮監督の下に置かれ、予算については毎年県議会の承認を得るとともに、執行状況について監査委員の監査を受けている。

こうした体系の中で、学内体制は表2-1のとおりとなっており、大学全体の管理運営責任を負う学長の下、大学運営に関する重要事項を審議する機関として教授会及び研究科委員会がある。

また、本学では、教員、大学院生等が専門領域・講座を超えて研究プロジェクトに参画、地域貢献を行う看護実践国際研究センターを設置しており、看護地域貢献活動研究部門他4つの部門が置かれ、各々活動を行っている。

事務局の体制は、大学運営全般を行う総務課と学生支援及び教務全般を業務とする教務・学生課との2つの課で成り立っている。

(表2-1)  
(平成31年4月1日現在)



(2) 組織構成

1) 学部は、平成 22 年度に看護学体系における各専門分野間の連携を深めるため、学部講座制の見直しを行い、平成 23 年度から新たに 4 つの大講座に再編を行ったものである。組織構成は、表 2-2 のとおりである。

2) 研究科は、基本的には学部の教育研究組織の上へのせる形で組織されているが、学部の講座を超えた 5 つで構成している。(表 2-3) そのうち、広域看護学領域の里山・遠隔看護

護学分野は、本学が立地する長野県の地域特性に配慮した地域貢献の視点からの看護研究の領域・分野として平成 18 年度から開設している。

表2-2 学部の組織構成

人間基礎科学講座	哲学・倫理学分野
	心理学分野
	社会・人類学分野
	健康・保健学分野
	生物・化学分野
	英語・英米文化学分野
	基礎医学・疾病学分野
	病態・治療学分野
基礎看護学講座	基礎看護学分野
	看護管理学・看護教育学
発達看護学講座	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
広域看護学講座	成人看護学分野
	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野

表2-3 研究科の組織構成

看護基礎科学領域	病態機能学分野
	病態治療学分野
基礎看護学領域	基礎看護学分野
	看護管理学分野
発達看護学領域	母性・助産看護学分野
	小児看護学分野
	成人看護学分野
広域看護学領域	老年看護学分野
	精神看護学分野
	地域・在宅看護学分野
	里山・遠隔看護学分野
専門関連領域	哲学・倫理学
	心理学
	社会・人類学
	健康・保健学
	生物・化学
	英語・英米文化学

また、研究科には、質の高い看護実践能力を養うという本学研究科博士前期課程の教育目標に基づいて、平成 13 年度に小児看護学分野・老年看護学分野、平成 24 年度に精神看護学分野の専門看護師（以後「CNS」と省略する。）コースを開設している。

### (3) 大学運営協議会

#### 1) 概要

県立大学としてその運営に広く県民の意見を反映させるため、運営協議会を設置している。本協議会は、下表のとおり学外の委員で構成されている。学内規程として「長野県看護大学運営協議会規程」を設けて、協議会の審議結果等を大学運営に反映させるよう定めている。

運営協議会委員名簿（任期：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月）

区分	職	氏名	所 属
地方公共団体	駒ヶ根市長	杉 本 幸 治	市長会
看護現場	看護部長	代 田 とみ子	飯田市立病院
〃	副院長 看護部長	中 村 敦 子	長野県立木曾病院
〃	会長	渡 邊 由 夏	長野県訪問看護ステーション連絡協議会
保健現場	課長	中 村 杏 子	飯島町健康福祉課
教育研究機関	学部長	坂 江 千寿子	佐久大学看護学部
〃	衛生学院長	笠 原 悦 男	松本歯科大学
〃	学部長	川 島 良 雄	長野大学社会福祉学部
地域経済界	副会頭	春 日 俊 也	駒ヶ根商工会議所
学識経験者	院長	藪 原 明 彦	やぶはら小児科医院
卒業生	看護師長	久保 貴三子	諏訪中央病院

（令和元年 11 月 8 日現在、敬称略）

#### 2) 令和元年度の開催概要

開催日	開催場所	協 議 事 項 等
令和元年 11 月 8 日	看護大学 大会議室	(1)看護大学の概要について (2)第 3 次中期構想(2019 年度～2023 年度)について (3)大学基準協会による大学評価(認証評価)結果について (4)令和 3 年度(2021 年度)入学者選抜について (5)看護管理・看護教育部門の充実について

## 2 教職員

### (1) 教職員名簿

#### ① 学部専任教員

(令和元年5月7日現在)

講座	分野	職位	氏名
		学 長	北 山 秋 雄
		学 部 長	渡 辺 み どり
人間基礎科学講座	哲学・倫理学	准 教 授	屋 良 朝 彦
	心理学	准 教 授	松 本 淳 子
	社会・人類学	准 教 授	座 馬 耕 一 郎
	健康・保健学	准 教 授	秋 山 剛
	生物・化学	教 授	太 田 克 矢
	英語・英米文化学	教 授	西 垣 内 磨 留 美
		准 教 授	井 村 俊 義
	基礎医学・疾病学	教 授	喬 炎
		講 師	三 浦 大 志
		助 教	島 袋 梢
病 態・治療学	教 授	坂 田 憲 昭	
	講 師	中 畑 千 夏 子	
基礎看護学講座	基礎看護学	教 授	伊 藤 祐 紀 子
		教 授	望 月 経 子
		助 教	近 藤 恵 子
		助 教	那 須 淳 子
		助 教	上 條 こ づ え
		助 教	田 中 真 木
		助 教	伊 藤 郁 恵
		助 手	飯 嶋 勇 貴
	看護管理学・看護教育学	教 授	金 子 さ ゆ り
		講 師	井 本 英 津 子
発達看護学講座	母性・助産看護学	教 授	藤 原 聡 子
		准 教 授	河 内 浩 美
		講 師	西 村 理 恵
		助 教	水 主 洋 子
		助 手	林 陽 子
		助 手	井 出 彩 織
		助 手	高 柳 実 希
		助 手	藤 井 あ ゆ み

講座	分野	職位	氏名	
発達看護学講座	小児看護学	准 教 授	竹 内 幸 江	
		講 師	高 橋 百 合 子	
		助 教	白 井 史	
		助 教	足 立 美 紀	
	成人看護学	助 手	小 原 綾 香	
		教 授	安 東 由 佳 子	
		講 師	江 頭 有 夏	
		講 師	浦 野 理 香	
		助 教	熊 谷 理 恵	
		助 手	伊 藤 佑 季	
		助 手	青 木 駿 介	
		助 手	長 谷 川 志 保	
	広域看護学講座	老年看護学	教 授	渡 辺 み どり
			准 教 授	千 葉 真 弓
講 師			細 田 江 美	
講 師			曾 根 千 賀 子	
精神看護学		助 教	有 賀 智 也	
		准 教 授	有 賀 美 恵 子	
		講 師	東 修	
		助 教	星 幸 江	
		助 教	森 野 貴 輝	
		助 手	福 嶋 洋 子	
地域・在宅看護学	教 授	安 田 貴 恵 子		
	講 師	柄 澤 邦 江		
	講 師	御 子 柴 裕 子		
	助 教	小 野 塚 元 子		
	助 教	酒 井 久 美 子		
	助 手	村 井 ふ み		
認定看護師教育課程		助 手	下 村 聡 子	
		助 手	富 田 美 雪	
		助 手	白 川 あ ゆ み	
		主任教員	高 山 陽 子	
		専任教員	吉 澤 理 恵	

### ② 大学院の領域別科目担当専任教員

(令和元年5月1日現在)

領域	分野	氏名等	領域	分野	氏名等
	研究科長	安 田 貴 恵 子	広域看護学	老年看護学	教 授 渡 辺 み どり ※
看護基礎科学	病態機能学	教 授 喬 炎 ※			准 教 授 千 葉 真 弓
		教 授 太 田 克 矢 ※			講 師 細 田 江 美
		講 師 三 浦 大 志			講 師 曾 根 千 賀 子
		病態治療学		教 授 坂 田 憲 昭 ※	精神看護学
講 師 中 畑 千 夏 子	講 師 東 修				
基礎看護学	基礎看護学	教 授 伊 藤 祐 紀 子 ※		地域・在宅看護学	教 授 安 田 貴 恵 子 ※
	看護管理学	教 授 望 月 経 子 ※			講 師 柄 澤 邦 江
発達看護学	母性・助産看護学	教 授 金 子 さ ゆ り ※			講 師 小 野 塚 元 子
		講 師 井 本 英 津 子		里山・遠隔看護学	教 授 北 山 秋 雄 ※
	教 授 藤 原 聡 子 ※	准 教 授 座 馬 耕 一 郎 ※			
	小児看護学	准 教 授 河 内 浩 美	准 教 授 秋 山 剛 ※		
		講 師 西 村 理 恵	専門関連	倫理学・哲学	准 教 授 屋 良 朝 彦 ※
	准 教 授 竹 内 幸 江	心理学		准 教 授 松 本 淳 子 ※	
	講 師 高 橋 百 合 子	英語・英米文学		教 授 西 垣 内 磨 留 美 ※	
	成人看護学	教 授 安 東 由 佳 子 ※	准 教 授 井 村 俊 義 ※		
講 師 江 頭 有 夏					
	講 師 浦 野 理 香				

※ 博士後期課程の科目担当専任教員

### ③非常勤講師

看護学部非常勤講師 (令和元年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
統計学	中村 寛志	信州大学農学部特任教授
保健・医療・福祉システム看護論Ⅱ	豊永 誠	信州豊南短期大学非常勤講師
教育学	加藤 和之	下條村児童館館長
数の話と教養数学	二宮 晏	信州大学名誉教授
ドイツ語	浜 泰子	信州大学高等教育システムセンター非常勤講師
感染学演習	碓井 之雄	東京医療保健大学名誉教授
経済学	樋口 均	信州大学経済学部名誉教授
人間工学	加藤 麻樹	早稲田大学人間科学部教授
法学	成澤 孝人	信州大学経法学部教授
医療経済学	今野 広紀	日本大学スポーツ科学部准教授
看護栄養学	志塚ふじ子	長野県短期大学名誉教授
英会話演習	エドワードギャリティー	マイルストーン英会話学校講師
医事法学	浅村 英樹	信州大学医学部教授
芸術と人間	鷲沢寿美子	ピアノ教室「花の会」主宰
	長江 朱夏	音楽療法士
運動実技・理論Ⅰ、Ⅱ 運動理論	速水 達也	信州大学学術研究院 総合人間科学系准教授

大学院非常勤講師 (令和元年5月1日現在)

担当科目	氏名	現職
看護倫理	小西恵美子	長野県看護大学名誉教授
小児病態・治療特論	藪原 明彦	やぶはら小児科医院長
老年医学特論	中土 幸男	丸の内病院長
精神看護学特論Ⅱ	樋掛 忠彦	長野県こども病院精神科部長
フィジカルアセスメント	山内 豊明	放送大学大学院教授
家族看護論	柳原 清子	金沢大学医薬保健学域保健学類准教授
量的研究方法論	萩原 素之	信州大学農学部教授
コミュニティ・ディベ ロップメント論特講	色平 哲郎	佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長
	長 純一	石巻市立病院内科部長
語法特殊講義	滝沢 秀男	高崎経済大学非常勤講師
コンサルテーション論	大石ふみ子	聖隷クリストファー大学看護学部教授

### ④事務局

本学の事務組織は、事務局及び附属図書館で構成されている。事務局は、総務課、教務・学生課の2課体制で、事務局長以下職員9名及び嘱託職員3名が配置されている。平成22年までは事務局外に学生支援として学生部があり、学生支援課と就職支援課の2課体制であったが、組織の見直しを行い、事務局内の教務・学生課として総合的な支援を行っている。

附属図書館には、図書委員会委員長の教員が兼務する図書館長と、司書2名（1名嘱託職員）が配置されている。

事務局職員 (令和元年5月1日現在)

	事務局長	宮村 泰之
総務課	次長	米山 武
	課長補佐	西山 由美子
	専門幹	小笠原 千寿子
	主幹	小出 誠治
教務・学生課	課長	鮎澤 宏和
	課長補佐	熊谷 晶子
	課長補佐	佐々木 剛
	主査	伊藤 理恵
図書館	主幹学校司書	清水 満里子
	学校司書	堀内 みちよ
行政嘱託員	学生支援員	中村 康子
	学生支援員	小松 史枝
	就職支援員	花岡 秀樹

#### (2) 教員の募集・採用状況

教員の募集・採用は、欠員が生じた場合や新たに採用の必要が生じた場合に「長野県看護大学教員選考基準に関する規程」及び「長野県看護大学教員選考基準細則」等に基づいて、適時実施している。

原則として公募により募集し、教員選考委員会（選考委員は委員会立ち上げの都度学長が指名）による選考審査を経て、教授会に諮り、採否を決定している。

令和元年度教職員採用状況 (人)

教授	准教授	講師	助教	助手	計	学内昇任
	1	2	—	4	7	3

(注) 上段の ( ) は任期付職員で外書数である(臨任、育休任期付を除く)

### 3 全学委員会

#### (1) 委員会の構成

教授会の下部組織として、委員会組織（常設の委員会 13、臨時の委員会 1）を設置しており、大学運営上の様々な課題については、委員会で検討のうえ、教授会に諮ることとしている。委員会組織は、助教・助手を含む全教員で構成している。

また、研究科委員会においても、下部組織として教務部会と入試部会の二つの部会組織を設けている。両部会は、講師以上の職位にあるものによって構成している。

委員会及び部会等の構成員は、次表のとおりである。

1 教授会委員会等		(R.元.6.1現在)					
委員会等	委員長等	委員等				事務局	
教	運営委員会	北山学長	渡辺学部長 坂田教授 安東教授	安田研究科長 伊藤教授 宮村事務局長	太田教授 金子教授	西垣内教授 藤原教授	米山次長 鮎澤教学課長
	広報・交流委員会	太田教授	有賀准教授 那須助教 小原助手	高橋講師 森野助教	細田講師 林助手	小野塚講師 下村助手	佐々木課長補佐
	教務委員会	伊藤教授	西垣内教授 浦野講師	渡辺教授 御子柴講師	竹内准教授 井本講師	西村講師 福嶋助手	伊藤主査
	実習委員会	安東教授	望月教授 東講師 足立助教	河内准教授 小野塚講師 伊藤(佑)助手	高橋講師 井本講師 富田助手	細田講師 田中助教 藤井助手	伊藤主査
	入試検討委員会	坂田教授	座馬准教授 江頭講師	井村准教授	竹内准教授	有賀准教授	佐々木課長補佐
	図書委員会 紀要委員会	西垣内教授	太田教授 柄澤講師 白川助手	藤原教授 伊藤(郁)助教	千葉准教授 村井助教	中畑講師 長谷川助手	清水主幹司書
	学生委員会	藤原教授	松本准教授 御子柴講師 飯嶋助手	三浦講師 島袋助教 (就職支援員、学生支援員出席)	江頭講師 星助教	細田講師 酒井助教	熊谷課長補佐 伊藤主査
	ネットワーク推進 委員会	秋山准教授	座馬准教授 有賀助教	東講師 青木助手	三浦講師	白井助教	西山課長補佐
	FD・SD委員会	喬教授	安東教授 曾根講師	松本准教授 高柳助手	千葉准教授	西村講師	佐々木課長補佐
	倫理委員会	千葉准教授	金子教授 中畑講師	屋良准教授 柄澤講師	河内准教授 (外部委員)	秋山准教授	小笠原専門幹
会	ハラスメント防止 委員会	屋良准教授	藤原教授 熊谷助教	望月教授 米山次長	松本准教授 鮎澤教学課長	上條助教	
	動物実験委員会	井村准教授	喬教授	秋山准教授	中畑講師	江頭講師	小笠原専門幹
	感染症対策委員会	坂田教授	渡辺学部長 中畑講師	伊藤教授 宮村事務局長	藤原教授 鮎澤教学課長	安東教授 熊谷課長補佐	
	コンソーシアム信州 担当		望月教授	屋良准教授			鮎澤教学課長
	評価委員会	北山学長	渡辺学部長 喬教授 藤原教授 井村准教授	安田研究科長 坂田教授 安東教授 千葉准教授	太田教授 伊藤教授 屋良准教授 宮村事務局長	西垣内教授 金子教授 秋山准教授	鮎澤教学課長
人事特別委員会	北山学長	渡辺学部長 宮村事務局長	安田研究科長	伊藤教授	藤原教授		
防災委員会	望月教授	渡辺学部長 東講師 西山課長補佐	藤原教授 近藤助教 小出主幹	屋良准教授 水主助教 (教務・学生課担当職員出席)	浦野講師 宮村事務局長		
安全衛生委員会	北山学長	東講師 熊谷課長補佐	有賀助教 西山課長補佐	宮村事務局長	米山次長		
図書館長	西垣内教授						
学年顧問	1学年	河内准教授	曾根講師	2学年	井村准教授	浦野講師	
	3学年	座馬准教授	御子柴講師	4学年	高橋講師	小野塚講師	

#### 2 研究科委員会

部会	部会長	部会員				事務局
教務部会	安田研究科長	西垣内教授	坂田教授	安東教授	竹内准教授	鮎澤教学課長
入試部会	金子教授	太田教授	喬教授	伊藤教授	有賀准教授	佐々木課長補佐

## 4 人事特別委員会

長野県看護大学人事特別委員会設置要綱に基づき、委員会では、教員の処分に関し必要な事項や、教員の職務遂行に関する事項を審査する。

委員会の構成員は、要綱の規定により学長（委員長）、学部長、研究科長、教務委員長、学生委員長、事務局長の6名であり、該当案件が生じた場合に活動を行う。

令和元年度は4回開催し、ハラスメント事案への対応及び分野に属していない教員に関する令和2年度の業務内容等について検討を行い、必要な事項については教授会で報告、協議した。

## 5 教員人事評価

### 1) 概要

県が実施している人事評価制度について、地方公務員法等の一部改正に伴い大学教員も対象とすることになったため、平成28年度から新たに教員人事評価を開始し、元年度も引き続き実施した。この評価は、教員が教育・研究活動等を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた実績を把握し、主体的な業務の遂行及び人材の育成を行うとともに、能力・実績に基づく人事管理を行うことにより、教育研究等の向上につなげることを目的としている。

<制度の概要>

区分	人事評価	
	職務遂行力評価	業務評価
概要	教員に求められる能力や仕事に対する意欲や姿勢を、日常の行動に照らして評価	期首に自らが業務目標を設定し、中間及び期末にその目標の達成度により評価
評価方法	職務遂行力評価表により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価 3 二次評価	業務評価シート(目標設定・中間評価・年間評価)により、次のとおり評価を行う 1 自己評価 2 一次評価(評価面談を実施) 3 二次評価

### 2) 評価結果の活用

評価結果は、査定昇給の際に重要な判断材料として活用した。また、業務評価の結果は勤勉手当に反映した。

## 6 健康センター

### (1) 概要

精神的な問題や不調を抱える人々は増加し、職場におけるメンタルヘルスの維持・増進は喫緊の課題となっていたため、比較的早期の段階から専門的に関与していく機関として、2010年11月に学長直属の機関として「健康センター」を設置し、精神分野の専門看護師を1人配置して、学生や教職員に対する心の健康相談を実施してきた。その後、職場におけるメンタルヘルスが改善されたため、2015年7月から、相談員は常勤保健師と非常勤の臨床心理士が担当することとした。

健康センターでは、精神的な問題や不調を抱えている人に対して、治療の必要性の有無を判

断し医療につなげること、また現在、治療を受けている学生や教員の場合は、症状の重症化、長期化を防ぎ、早期回復に向けた支援を行うことを目的に、次に掲げる業務を実施している。

- ① 学生・教職員からの相談・指導
- ② 学年顧問など他の相談窓口からの相談への対応
- ③ 休学・休職中の人への復学・復職に向けた支援
- ④ 学内外における心の健康づくりに関すること

## (2) 実績

<教員及び学生に対する心の健康相談実績（延べ件数）>

年 度	27(2015)	28(2016)	29(2017)	30(2018)	元(2019)
学 生	5 2	4 0	8 4	1 7 1	1 5 2
教 員	0	0	6	6	1 1
合 計	5 2	4 0	9 0	1 7 7	1 6 3

### 1) 学生の相談状況

- ・29年度から、件数が大幅に増加している。年間を通して継続的に関わる学生が増えた事にもよる。
- ・単科大学であるが故の人間関係の狭さに起因するものもあると感じられた。自分の悩みを表出できず、ストレスをためている例があった。
- ・こんなはずではなかった、やめたくなくなった、看護職としての自信の喪失等からくる「大学をやめたい気持ち」など、実習を機に、理想と現実のギャップなどがストレスになっている学生が見受けられた。中には、休学、退学を選択した学生もいた。
- ・一般的に発病が多いと思われる思春期世代であるが、生育歴や家庭・家族関係の問題が、精神面の不安定さなどに影響を及ぼしていると思われる学生も見受けられる。
- ・世間では発達障がい注目されているが、学内でもそれと思われる特徴で、悩んでいる学生が出てきていて、継続した対応も必要になってきている。
- ・年度始めに学生が提出する「健康質問票」のメンタル系の項目にチェックが入っている学生については、個別面接を実施した。

### 2) 教職員の相談状況

センター開設以来、数人の教員の精神疾患に対応してきたが、現在、対応が必要な教職員はほとんどおらず、元年度中の相談も少なく、状況の確認や、傾聴する程度ですんでいる。

## (3) 課題及び今後の展開

健康センターは、本学関係者の精神疾患の改善に大きな成果をあげてきた。今後も引き続き、学生や教職員に対する相談機能を堅持する必要がある。

なお、相談者が減少したため、常勤の相談員の配置を終了し、外部機関から相談員（臨床心理士）を非常勤で雇うことで、必要に応じて心の健康相談が実施可能となるような新たな体制を整備して、対応しているところである。

## 第3節 学生の状況

### 1 学部

#### (1) 入学試験の状況

##### 1) 状況

1995年の開学以来、学部入学定員は80名で、3年次に10名の編入生を受け入れていたが、2016年度入学から募集を停止している。選抜試験では、入学者受入方針（ア

ドミッション・ポリシー) に基づく小論文や面接を課して、一般選抜試験、特別選抜試験を行っている。

入学試験の過去5年間の状況は、以下のとおりである。

項目／入試実施年度		H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)	R1 (2年度入学)
一般入試	志願者	263	213	172	283	215
	合格者	56	56	59	59	55
	入学者(A)	53	54	55	54	53
	入学定員(B)	50	50	50	50	50
	A/B	1.06	1.08	1.10	1.08	1.06
項目／入試実施年度		H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)	R1 (2年度入学)
推薦入試	志願者	61	59	58	51	52
	合格者	29	31	30	29	31
	入学者(A)	29	31	30	29	31
	入学定員(B)	30	30	30	30	30
	A/B	0.97	1.03	1.00	0.97	1.03
社会人入試	志願者	8	3	2	4	1
	合格者	3	0	0	2	1
	入学者(A)	3	0	0	2	1
	入学定員(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	A/B	—	—	—	—	—
編入学試験	志願者	—	—	—	—	—
	合格者	—	—	—	—	—
	入学者(A)	—	—	—	—	—
	入学定員(B)	募集停止	募集停止	募集停止	募集停止	募集停止
	A/B	—	—	—	—	—
合計	志願者	332	275	232	338	268
	合格者	88	87	89	90	87
	入学者(A)	85	85	85	85	85
	入学定員(B)	90	90	90	90	90
	A/B	0.94	0.94	0.94	0.94	0.94

○特別選抜試験

県内の高等学校からの推薦を受けた者及び一定の社会人経験を有する者を対象とする選抜である。定員はあわせて30名で、同一の小論文試験と面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

- ① 推薦：県内の高等学校の卒業予定者で「全体の評定平均値」が4.0以上。推薦枠は各校2名（分校は1名）以内。
- ② 社会人(平成15年度から受け入れ)：大学入学資格と一定の基準による社会人としての経験を3年以上有する者。

○一般選抜試験

分離分割方式で前期と後期に分けて実施し、定員は前期日程42名、後期日程8名である。大学入試センター試験と小論文試験及び個別面接を課し、結果を総合的に評価して選抜を行っている。

○編入学試験

専門科目と英語の筆記試験、個別面接を行い、結果を総合的に評価して選抜を行っていたが、編入生の定員割れが続いたこと等から、平成27年度試験（平成28年度入学）から募集を停止した。

2) 課題及び方策

編入学試験制度の廃止と、令和3年度入学者選抜について、実施に向け入試検討委員会等で検討していく。

## (2) 学年別学生数

### 1) 状況

在校生数は、定数の 340 名に対し同数となっているが、近年の傾向として卒業延期生が増加している。

また、男子学生の割合は、各学年 10% 以下であり、近年は低下傾向にある。

県内出身者は全体の 67.2%で、年により増減しているが、60%台の後半から 70%前半で推移している。

令和元年5月1日 現在 (単位：人)

学 部	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
1 年生	85	4	81	59	26
2 年生	85	5	80	60	25
3 年生	85	2	83	52	33
4 年生	83	7	76	56	27
編入 1 年生	0	0	0	0	0
編入 2 年生	0	0	0	0	0
卒業延期生	10	3	7	7	3
計	348	21	327	234	114

## 2 研究科

### (1) 入学試験の状況

項目／入試実施年度		H27 (28年度入学)	H28 (29年度入学)	H29 (30年度入学)	H30 (31年度入学)	R1 (2年度入学)
(博士前期) 看護学専攻	志願者	9	9	7	6	13
	合格者	6	8	6	6	13
	入学者(A)	6	8	6	5	13
	入学定員(B)	16	16	16	16	16
	充足率(A/B)	38%	50%	38%	31%	81%
(博士後期) 看護学専攻	志願者	3	4	1	3	5
	合格者	1	3	1	3	4
	入学者(A)	1	3	1	2	3
	入学定員(B)	4	4	4	4	4
	充足率(A/B)	25%	75%	25%	50%	75%
合 計	志願者	12	13	8	9	18
	合格者	7	11	7	9	16
	入学者(A)	7	11	7	7	16
	入学定員(B)	20	20	20	20	20
	充足率(A/B)	35%	55%	35%	35%	80%

### (2) 学年別院生数

在学生数は、博士前期課程が定数の 32 名に対し、定員割れが続いている。近年の傾向として、入学生が少なく、休学等による卒業延期生が増加している。

また、博士後期課程は、定数 (12 名) を満たしているが、休学等により標準修業年限を超える学生が多い傾向となっている。

令和元年5月1日 現在 (単位：人)

大学院	総 数		県内 出身者	県外 出身者	
	男	女			
修士課程	19	3	16	18	1
博士課程	13	2	11	4	9
計	32	5	27	22	10

## 3 学部及び研究科の休学、退学の状況

学部、研究科とも、最終学年での休学が多く、そのうちの一部が退学へとつながっている事例がある。

休学の理由は、学部では体調不良、研究科では、仕事の都合が主なものである。

(1) 学部・研究科の退学者数

		平成29年度					平成30年度					令和元年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部		0	0	0	3	3	0	0	1	2	3	1	0	0	0	1
研究科	修士課程	0	0	/		0	0	0	/		0	0	0	/		0
	博士課程	0	0	0	/	0	0	0	1	/	1	0	0	2	/	2
	小計	0	0	0	/	0	0	0	1	/	1	0	0	2	/	2
合計		0	0	0	3	3	0	0	2	2	4	1	0	2	0	3

※研究科のうち博士後期課程における単位取得退学者は、退学者数に計上していない。

(2) 学部・研究科の休学者数

		平成29年度					平成30年度					令和元年度				
		1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計	1年	2年	3年	4年	合計
学部		0	1	0	3	4	0	2	2	7	11	0	0	2	4	6
研究科	修士課程	0	2	/		2	0	4	/		4	0	3	/		3
	博士課程	0	1	7	/	8	1	0	7	/	8	0	1	5	/	6
	小計	0	3	7	/	10	1	4	7	/	12	0	4	5	/	9
合計		0	4	7	3	14	1	6	9	7	23	0	4	7	4	15

※休学者数のうち、年度を越える休学は年度毎に計上しているが、年度内の同一人物による複数の休学は実人数で計上している。

## 第2章 年間の活動状況

### 第1節 学部及び研究科の行事及び教授会活動

#### 1 1年間の行事

月 日	内 容	月 日	内 容
4月2日 (火)	入学式	10月19日 (土)	博士後期課程入学試験 博士前期課程入学試験
4月3日 (水)	新入生オリエンテーション	11月8日 (金)	大学運営協議会
4月4日 (木) ～5日 (金)	教務ガイダンス 健康診断	11月16日 (土)	特別選抜入学試験
4月4日 (木) ～11日 (木)	履修登録期間	12月23日 (月) ～1月3日 (金)	冬季休業
4月8日 (月)	前期授業開始	1月6日 (月)	後期授業再開
5月1日 (水)	創立記念日	1月18日 (土) 19日 (日)	大学入試センター試験
6月3日 (火)	※認定看護師教育課程開講式	1月28日 (火)	※認定看護師教育課程修了式
7月27日 (土)	オープンキャンパス	2月1日 (土)	博士前期・後期課程二次募集 入学試験
8月10日 (土) ～9月30日 (月)	夏季休業	2月18日 (土) ～3月31日 (火)	春季休業
9月7日 (土) 8日 (日)	鈴風祭	2月25日 (火)	一般選抜入学試験 (前期)
9月24日 (火)	学位記授与式	3月7日 (土)	卒業式・修了式
10月1日 (火)	後期授業開始	3月12日 (木)	一般選抜入学試験 (後期)

※は看護実践国際研究センター認定看護師教育部門の行事

#### 2 教授会の活動

回	開催月日	協 議 事 項
1	4月9日	(協議事項なし)
2	4月23日	1 教員の退職について 2 平成31年度学生校費予算(案)について 3 平成31年度一般研究費配分(案)について 4 平成31年度特別研究費配分(案)について 5 長野県看護大学講座に関する規程の一部改正について 6 長野県看護大学施設管理規程の一部改正について
3	5月21日	1 長野県看護大学附属図書館利用規程の一部改正について 2 長野県看護大学附属図書館文献複写取扱細則の一部改正について 3 長野県看護大学附属図書館規程の一部改正について 4 令和2年度入学者選抜に関する要項(案)について 5 令和3年度入学者選抜についての予告について 6 教員の令和元年度の人事評価について 7 令和元年度長野県看護大学臨床教授(案)について
4	6月4日	1 既修得単位の認定について 2 休学願について 3 助産師コース履修ガイダンス・選抜について 4 教員の公募について
5	6月18日	1 令和2年度学生募集要項《一般選抜入学試験》について 2 令和2年度学生募集要項《推薦入学試験》について 3 令和2年度学生募集要項《社会人特別選抜試験》について

6	7月2日	1 休学願について
7	7月16日	1 教員の退職について 2 教員の公募について 3 令和元年度長野県看護大学臨床教授（追加委嘱）（案）について 4 令和3年度入学者選抜についての予告について
8	8月6日	1 教員の退職について 2 教員の公募について
9	9月17日	1 学部長候補者選挙管理委員会の設置等について 2 基礎看護学の教員（准教授又は講師）の採用について（審査結果報告） 3 入学者選抜方法の予告にかかる公表事項－募集人員について 4 年度途中で卒業する学生の卒業認定について 5 教授会委員会の委員の一部変更等について （教授のみ）学長の業績評価について
10	10月1日	1 教員の公募について 2 教員の昇任に関する日程について 3 基礎看護学の教員（講師）の採用について（投票） 4 2020 アジア太平洋看護国際シンポジウム（案）について
11	10月15日	1 休学願について 2 学部長候補者選挙管理委員会の選挙について
12	11月5日	1 教員の退職について 2 教員の公募について 3 臨時的任用教員の採用について 4 令和2年度学年暦（案）について
13	11月19日	1 推薦・社会人入学試験結果について 2 学部長候補者選挙の結果について 3 長野県看護大学みらい基金の対象事業の追加等について （教授のみ）学長の職務遂行力評価について
14	12月3日	1 令和3年度入学者選抜についての予告（第6報） 母性・助産看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告）
15	12月17日	1 学部長候補者選挙の結果について 2 令和2年度長野県看護大学科目等履修生募集要項（案）について 3 令和2年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項（案）について 4 令和2年度英語の非常勤講師の任用について
臨時	12月24日	1 学部長候補者選挙の結果について
16	1月7日	1 休学願について 2 本学学生へのインフルエンザワクチン及び百日せきワクチンの接種について 3 長野県看護大学みらい基金の対象事業の追加について 4 臨時的任用教員の採用について
17	1月21日	1 基礎看護学の教員（助教又は助手）の採用について
臨時	1月28日	1 基礎看護学の教員採用について（投票）
18	2月4日	1 教務委員会及び実習委員会を統合するための関係規程の一部改正等について 2 特別配慮を要する欠席及び成績評価区分変更に伴う履修規程の変更（案）について 3 成人看護学の臨時的任用教員の採用について（審査結果報告） 4 小児看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について 5 成人看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について 6 精神看護学の臨時的任用教員（欠員補充）の採用について 7 教員の退職について 8 令和2年度教授会委員会の委員選任等について 9 令和2年度教務ガイダンス（案）について 10 令和2年度教授会等の日程（案）について 11 令和2年度卒業研究配置について

19	2月18日	1 令和元年度卒業認定について 2 令和2年度非常勤講師について 3 令和2年度学部非常勤講師について 4 令和3年度学部入学試験関係日程について 5 令和2年度学年暦について
臨時	2月27日	1 令和2年度一般選抜入学試験（前期日程）の試験結果について
20	3月3日	1 教員の退職について 2 長野県看護大学履修規程の一部改正について
21	3月17日	1 令和2年度一般選抜入学試験（後期日程）試験結果について 2 長野県看護大学運営委員会規程の一部改正について 3 看護実践国際研究センター規程の一部改正等について 4 教員の公募について 5 退学願について 6 休学願について 7 令和元年度修得単位認定について 8 令和2年度教務ガイダンス（日程変更）について （教授のみ）学長の業績評価について

### 3 研究科委員会の活動

回	開催月日	協議事項
1	4月23日	1 休学願について
2	5月21日	1 休学願について 2 令和2年度大学院博士前期課程（修士課程）学生募集要項（案）について 3 令和2年度大学院博士後期課程（博士課程）学生募集要項（案）について 4 令和元年度修士論文研究テーマ・論文指導教員（案）について
3	6月18日	（協議事項なし）
4	7月2日	1 休学願について 2 令和元年度前期博士論文審査委員（案）について
5	7月16日	1 休学願について
6	9月17日	1 研究科長候補者選挙管理委員会の設置等について 2 長野県看護大学大学院研究科の教員の学内審査に関する内規の一部改正について 3 科目等履修生の履修科目の追加について 4 修士論文指導教員の変更について 5 博士論文指導教員の変更について （教授及び審査に加わった準教授のみ） 1 令和元年度前期博士論文の審査結果報告及び最終試験結果報告について 2 令和元年度博士後期課程の学位授与について（投票）
7	10月1日	1 研究科長候補者選挙管理委員の選挙について
8	10月15日	1 長期履修在学期間の短縮について 2 休学願について （教授のみ）研究科教員の学内審査結果について
9	10月23日	1 令和2年度博士前期課程入学試験結果について 2 博士論文指導教員の変更について 3 学外指導教員の委嘱について
10	11月5日	1 研究科長候補者選挙の結果について 2 令和2年度大学院博士前期課程（修士課程）学生2次募集要項について 3 令和2年度大学院博士後期課程（博士課程）学生2次募集要項について
11	11月19日	（協議事項なし）

12	12月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度後期博士論文審査委員（案）について</li> <li>2 長野県看護大学学位規程に関する内規の一部改正（案）について</li> <li>3 令和2年度大学院学年暦（案）について</li> </ul>
13	12月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度修士論文審査体制（案）について</li> <li>2 長野県看護大学大学院科目等履修生規程の一部改正について</li> <li>3 令和2年度長野県看護大学大学院科目等履修生募集要項（案）について</li> <li>4 令和2年度長野県看護大学県内大学単位互換履修生募集要項(案)について</li> <li>5 令和2年度長野県看護大学研究生募集要項（案）について</li> </ul>
14	1月21日	<p>（教授のみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 研究科教員の学内審査結果について</li> </ul>
15	2月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度大学院博士前期課程入学試験結果について</li> <li>2 令和2年度大学院博士後期課程入学試験結果について</li> <li>3 長野県看護大学大学院履修規程の改正について</li> <li>4 令和2年度大学院非常勤講師（案）について</li> <li>5 令和3年度大学院入学試験関係日程について</li> </ul>
16	2月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度修士論文審査結果について</li> <li>2 令和元年度博士前期（修士）課程の学位授与について（投票）</li> <li>3 令和元年度博士前期（修士）課程修得単位の認定について （教授及び審査に加わった准教授のみによる協議）</li> <li>1 令和元年度後期博士論文の審査結果報告及び最終試験結果報告について</li> <li>2 令和元年度博士後期課程の学位授与について（投票）</li> </ul>
17	3月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 長期履修在学期間の短縮について</li> </ul>
18	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学願について</li> <li>2 博士前期課程の修得単位認定について</li> <li>3 博士後期課程の修得単位認定について</li> <li>4 大学院科目等履修生の修得単位認定について</li> <li>5 大学院科目等履修生の選考について</li> </ul>

## 第2節 学部の教育活動

### (1) カリキュラム

<必修科目>

平成31年度入学生

	科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
1 学 年	生 物 学	前学期	1	30	倫 理 学	後学期	1	15
	化 学	前学期	1	30	家 族 社 会 学	後学期	1	15
	運 動 実 技 ・ 理 論 I	前学期	1	30	医 療 英 文 読 解 演 習 I	後学期	1	30
	統 計 学	前学期	1	15	医 療 英 会 話 の 基 礎 I	後学期	1	30
	英 文 読 解 の 基 礎	前学期	1	15	生 化 学	後学期	1	30
	英 会 話 の 基 礎	前学期	1	30	人 体 の 構 造 と 機 能 演 習	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 I	前学期	2	30	フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	後学期	1	30
	人 体 の 構 造 と 機 能 II	前学期	1	30	病 理 学	後学期	1	15
	看 護 学 概 論	前学期	2	30	薬 理 学	後学期	2	30
	基 礎 看 護 方 法 I	前学期	1	30	病 理 学 演 習	後学期	1	30
	基 礎 看 護 実 習 I	前学期	1	45	基 礎 看 護 方 法 II	後学期	2	60
	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 I	前学期	1	15	人 間 発 達 論	後学期	1	15
	情 報 処 理 科 学	前学期	1	30	人 間 関 係 論	後学期	1	30
					公 衆 衛 生 学	後学期	1	30
				保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 II	後学期	1	15	
				小 計 (28科目)		32	765	
2 学 年	臨 床 心 理 学	前学期	1	30	運 動 実 技 ・ 理 論 II	後学期	1	30
	医 療 英 文 読 解 演 習 II	前学期	1	30	感 染 学 演 習	後学期	1	30
	医 療 英 会 話 の 基 礎 II	前学期	1	30	慢 性 期 看 護 方 法	後学期	2	60
	疾 病 学 I	前学期	1	30	急 性 期 看 護 概 論	後学期	1	15
	疾 病 学 II	前学期	1	30	老 年 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	感 染 学	前学期	1	30	精 神 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	看 護 過 程 の 理 論 と 展 開	前学期	1	15	母 性 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	慢 性 期 看 護 概 論	前学期	1	15	小 児 看 護 概 論 II	後学期	1	15
	老 年 看 護 概 論	前学期	2	30	小 児 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	精 神 看 護 概 論 I	前学期	1	15	地 域 看 護 方 法 I	後学期	1	30
	母 性 看 護 概 論	前学期	1	15	家 族 援 助 論	後学期	1	15
	小 児 看 護 概 論 I	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 I	後学期	1	30
	地 域 看 護 概 論	前学期	1	15	多 文 化 共 生 看 護 学	後学期	2	30
	在 宅 ケ ア 論	前学期	1	15	基 礎 看 護 実 習 II	後学期	2	90
疫 学	前学期	1	30					
				小 計 (29科目)		33	795	
3 学 年	医 療 経 済 学	前学期	1	15	災 害 看 護 論	前学期	1	30
	看 護 栄 養 学	前学期	1	15	在 宅 ケ ア 方 法 II	前学期	1	30
	症 状 マ ネ ジ ム ン ト 論	前学期	1	15	保 健 統 計 学	前学期	1	15
	急 性 期 看 護 方 法	前学期	2	60	保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 シ ス テ ム 看 護 論 III	前学期	1	15
	老 年 看 護 方 法 II	前学期	1	30	遺 伝 と 人 間	後学期	1	15
	精 神 看 護 方 法	前学期	2	60	看 護 倫 理	後学期	1	15
	母 性 看 護 方 法 II	前学期	1	30	看 護 研 究 方 法	後学期	1	30
	小 児 看 護 方 法 II	前学期	1	30				
地 域 看 護 方 法 II	前学期	1	30	小 計 (16科目)		18	435	
4 学 年	看 護 管 理 論	前学期	1	15	卒 業 研 究	全 期	4	180
	看 護 統 合 実 習	前学期	2	90	小 計 (3科目)		7	285
3 4 学 学 年 年	成 人 看 護 実 習		4	180	小 児 看 護 実 習		3	135
	老 年 看 護 実 習		4	180	地 域 看 護 実 習		4	180
	精 神 看 護 実 習		3	135	在 宅 看 護 実 習		2	90
	母 性 看 護 実 習		2	90	小 計 (7科目)		22	990

必修科目合計

科 目	単位数	時間数
83 科 目	112	3,270

<選択必修科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
教 育 学	1年前学期	2	30	英 会 話 演 習	3年前学期	1	30
教 育 心 理 学	1年後学期	2	30	英 語 文 化 研 究	3年前学期	1	30

<選択科目>

科 目	期	単位数	時間数	科 目	期	単位数	時間数
コミュニケーション論	1年前学期	1	15	論 理 学	3年前学期	1	15
心 理 学	1年前学期	2	30	運 動 理 論	3年前学期	1	15
社 会 学	1年前学期	2	30	助 産 概 論	3年前学期	1	15
信 州 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 I	3年前学期	2	30
数 の 話 と 教 養 数 学	1年前学期	1	15	国 際 看 護 学 II	3年前学期	1	15
独 語	1年後学期	1	15	医 事 法 学	3年前学期	1	15
生 命 科 学 演 習	1年後学期	1	30	国 際 看 護 実 習	3年後学期	2	90
哲 学	2年前学期	2	30	芸 術 と 人 間	3年後学期	2	30
文 化 人 類 学	2年前学期	2	30	地 域 母 子 保 健	3年後学期	1	15
経 済 学	2年前学期	2	30	仏 語	4年後学期	1	15
人 間 工 学	2年前学期	2	30	看 護 論	4年後学期	1	15
生 命 倫 理	2年後学期	1	15	看 護 教 育 論	4年後学期	2	30
法 学	2年後学期	2	30	エ ン カ ウ ン タ ー	4年後学期	1	30

(2) 臨地実習

学年	科 目 名	期 間	単 位
1	基礎看護実習 I	6月17日 ~ 6月21日	1
2	基礎看護実習 II	9月24日 ~ 10月4日 10月7日 ~ 10月18日	2
3	成人看護実習	9月24日 ~ 12月13日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	国際看護実習 (選択)	2月25日 ~ 2月29日	2
助産実習実習 (選択)	2月20日 ~ 4月3日	10	
4	成人看護実習	5月7日 ~ 7月26日	4
	老年看護実習		4
	精神看護実習		3
	母性看護実習		2
	小児看護実習		3
	地域看護実習		4
	在宅看護実習		2
	看護統合実習	7月29日 ~ 8月9日	2
	助産実習実習 (選択)	9月2日 ~ 11月12日	10

### (3) 臨地実習施設

#### ① 病院

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
昭和伊南総合病院	駒ヶ根市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護、在宅看護、看護統合	こども病院	安曇野市	小児看護、助産
伊那中央病院	伊那市	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、母性看護、小児看護、看護統合、助産	下伊那赤十字病院	松川町	在宅看護
こころの医療センター駒ヶ根	駒ヶ根市	精神看護、在宅看護	飯田市立病院	飯田市	基礎Ⅰ・看護統合
飯田病院	飯田市	精神看護	諏訪赤十字病院	諏訪市	基礎Ⅰ・Ⅱ、看護統合、助産
伊那神経科病院	伊那市	精神看護	諏訪中央病院	茅野市	助産
信州大学医学部附属病院	松本市	精神看護	諏訪マタニティークリニック	下諏訪町	助産

#### ② 保健・福祉施設

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
親愛の里シンフォニー	宮田村	精神看護	はびろの里	伊那市	老年看護
コスモスの家	伊那市	精神看護	センテナリアン	高森町	老年看護
はなみずきの郷	飯田市	精神看護	すずたけ	伊那市	老年看護
信濃医療福祉センター	下諏訪町	小児看護			

#### ③ 保健福祉事務所

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
諏訪保健福祉事務所	諏訪市	地域看護	飯田保健福祉事務所	飯田市	地域看護
伊那保健福祉事務所	伊那市	地域看護	木曾保健福祉事務所	木曾町	地域看護

#### ④ 市町村

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊那市役所	伊那市	地域看護	飯島町役場	飯島町	地域看護
駒ヶ根市役所	駒ヶ根市	地域看護	上松町役場	上松町	地域看護
辰野町役場	辰野町	地域看護	大桑村役場	大桑村	地域看護
箕輪町役場	箕輪町	地域看護	宮田村役場	宮田村	地域看護

#### ⑤ 訪問看護ステーション

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
伊南訪問看護ステーション	駒ヶ根市	在宅看護	伊那中央病院訪問看護ステーション	伊那市	在宅看護
訪問看護ステーションすずたけ	伊那市	在宅看護	下伊那赤十字訪問看護ステーション	松川町	在宅看護
訪問看護ステーションみどり	箕輪町	在宅看護	円会訪問看護ステーション	高森町	在宅看護

#### ⑥ 学校

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
高遠小学校	伊那市	地域看護	箕輪南小学校	箕輪町	地域看護
高遠北小学校	伊那市	地域看護	中川西小学校	中川村	地域看護
長谷小学校	伊那市	地域看護	中川東小学校	中川村	地域看護
伊那東小学校	伊那市	地域看護	伊那中学校	伊那市	地域看護
東伊那小学校	駒ヶ根市	地域看護	箕輪中学校	箕輪町	地域看護
辰野東小学校	辰野町	地域看護	中川中学校	中川村	地域看護
辰野南小学校	辰野町	地域看護			

#### ⑧ 保育園

施設名	所在地	科目	施設名	所在地	科目
赤穂保育園	駒ヶ根市	小児看護	すずらん保育園	駒ヶ根市	小児看護
飯坂保育園	駒ヶ根市	小児看護	桜ヶ丘保育園	駒ヶ根市	小児看護
北割保育園	駒ヶ根市	小児看護	福岡保育園	駒ヶ根市	小児看護
経塚保育園	駒ヶ根市	小児看護、母性看護			

### 第3節 研究科の教育活動

#### (1) カリキュラム

##### 1) 授業科目

博士前期 修士 課程授業科目 (平成 年度入学生)

	授業科目	科目番号	単位数	学年別時間数				計	
				1年		2年			
				前学期	後学期	前学期	後学期		
必修科目	★ ○ 看護倫理	3201	2	30(一部集中講義)				30	
	★ ○ 看護理論	3101	2	30(一部集中講義)				30	
	★ ○ 看護研究法	3102	2	30				30	
*領域別分野専門科目(10単位)	看護基礎領域 病態機能学分野	★ ○ 病態機能学特論Ⅰ	3401	2	30			30	
		★ ○ 病態機能学特論Ⅱ	3402	2	30			30	
		★ ○ 病態機能学演習	3403	6		90			90
	病態治療学分野	○ 病態治療学特論Ⅰ	3404	2	30				30
		○ 病態治療学特論Ⅱ	3405	2	30				30
		○ 病態治療学演習	3406	6		90			90
	基礎看護学領域 基礎看護学分野	★ ○ 基礎看護学特論Ⅰ	3411	2	30				30
		○ 基礎看護学特論Ⅱ	3412	2		30			30
		○ 基礎看護学演習Ⅰ	3413	6		90			90
	看護管理学分野	○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅰ	3414	2	30				30
		○ 看護管理学・看護教育学特論Ⅱ	3415	2		30			30
		○ 看護管理学・看護教育学演習Ⅰ	3416	6	90	90			180
発達看護学領域 小児看護学分野	★ ○ 母性看護学特論Ⅰ	3242	2	30				30	
	★ ○ 母性看護学特論Ⅱ	3243	2		30			30	
	★ ○ 母性看護学演習Ⅰ	3251	6		90			90	
	★ ○ 小児看護学特論Ⅰ	3252	2	30				30	
	★ ○ 小児看護学特論Ⅱ	3253	2		30			30	
	★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・A	3247	2	30				30	
小児看護学演習Ⅰ・B	★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・B	3248	2	30				30	
	★ ○ 小児看護学演習Ⅰ・C	3249	2		30			30	
	小児看護学実習	3250	6				270	270	
	○ 成人看護学特論Ⅰ	3222	2	30				30	
	○ 成人看護学特論Ⅱ	3223	2		30			30	
	○ 成人看護学演習Ⅰ	3235	6		90			90	
広域看護学領域 老年看護学分野	★ ○ 老年看護学特論Ⅰ	3225	2	30				30	
	★ ○ 老年看護学特論Ⅱ	3226	2		30			30	
	★ ○ 老年看護学特論Ⅲ	3234	2	30				30	
	○ 老年看護学演習Ⅰ・A	3227	2		60			60	
	○ 老年看護学演習Ⅰ・B	3231	2		60			60	
	○ 老年看護学演習Ⅰ・C	3232	2		60			60	
	老年看護学実習	3233	6				270	270	
	★ ○ 精神看護学特論Ⅰ	3228	2	30				30	
	★ ○ 精神看護学特論Ⅱ	3229	2	30				30	
	★ ○ 精神看護学特論Ⅲ	3421	2		30			30	
精神看護学演習Ⅰ・A	★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・A	3422	2		60			60	
	★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・B	3423	2			60		60	
	★ ○ 精神看護学演習Ⅰ・C	3424	2				60	60	
	精神看護学実習	3425	10				450	450	
地域・在宅看護学分野	★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅰ	3431	2	30				30	
	★ ○ 地域・在宅看護学特論Ⅱ	3432	2	30				30	
	○ 地域・在宅看護学演習Ⅰ	3433	3	90				90	
	○ 地域・在宅看護学演習Ⅱ	3434	3		90			90	
里山・遠隔看護学分野	★ ○ 里山・遠隔看護学特論Ⅰ	3441	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅱ	3442	2	30				30	
	★ △ 里山・遠隔看護学特論Ⅲ	3443	2		30			30	
	★ ○ 里山・遠隔看護学演習Ⅰ	3444	6		180			180	
共通選択科目(8単位以上)	○ 看護学課題研究(論文コース)	3103	6			90	90	180	
	看護実践課題研究(専門看護師コース)	3104	2			30	30	60	
	看護学原論	3501	1	15				15	
	フィジカルアセスメント	3502	2	30(集中講義)				30	
	家族看護論	3503	1	15(一部集中講義)				30	
	★ 健康心理学特論	3510	2		30			30	
	★ 看護心理学	3511	2	30				30	
	★ 質的研究方法論	3505	1	15				15	
	★ 環境疫学特講	3304	1		15			15	
	★ 言語文化特講Ⅰ	3506	2		30			30	
	★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅰ	3307	2	30				30	
	★ 量的研究方法論	3507	1		15			15	
	★ コミュニティ・デベロップメント論特講	3311	2	30(集中講義)				30	
	語法特殊講義	3314	2	30				30	
	看護海外研修	3315	1		15			15	
	看護臨床薬理学	3508	2	30				30	
	★ 臨床病態学	3509	2	30				30	
	★ コンサルテーション論	3273	2		30			30	
	看護管理学	3262	2		30			30	
	看護教育・援助論	3261	2		30			30	
	★ 女性と子どもの健康問題と看護	3241	2		30			30	
	★ 遠隔看護論	3281	2		30			30	
	★ 国際看護論	3202	1	15				15	

★ 遠隔授業対応科目(一部対応科目を含む)

博士後期課程授業科目（平成 年度入学生）

授業科目			科目 番号	単位数	時 間 数				
					1年		計		
					前学期	後学期			
領域別分野専門科目 (6単位)	基礎看護学領域	基礎看護学分野	基礎看護学特論Ⅲ	AI01	2	30		30	
			基礎看護学演習Ⅱ	AI02	4	120		120	
	看護管理学分野	看護管理学分野	看護管理学・看護教育学特論Ⅲ	AJ01	2	30		30	
			看護管理学・看護教育学演習Ⅱ	AJ02	4	120		120	
	発達看護学領域	母性・助産看護学分野	母性看護学特論Ⅲ	AC01	2	30		30	
			母性看護学演習Ⅱ	AC02	4	120		120	
		小児看護学分野	小児看護学分野	小児看護学特論Ⅲ	AF01	2	30		30
	小児看護学演習Ⅱ			AF02	4	120		120	
	成人看護学分野	成人看護学分野	成人看護学特論Ⅲ	AB01	2	30		30	
			成人看護学演習Ⅱ	AB02	4	120		120	
	広域看護学領域	老年看護学分野	老年看護学特論Ⅳ	AB03	2	30		30	
			老年看護学演習Ⅱ	AB04	4	120		120	
		精神看護学分野	精神看護学分野	精神看護学特論Ⅳ	AB07	2	30		30
				精神看護学演習Ⅱ	AB06	4	120		120
		地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学分野	地域・在宅看護学特論Ⅲ	AG01	2	30		30
				地域・在宅看護学演習Ⅲ	AG02	4	120		120
里山・遠隔看護学分野	里山・遠隔看護学分野	★ 里山・遠隔看護学特論Ⅳ	AH01	2	30		30		
		里山・遠隔看護学演習Ⅱ	AH02	4	120		120		
共通選択科目 (4単位以上)			★ ケアの哲学	BA01	2	30		30	
			健康心理学特講	BA17	2		30	30	
			人類学的研究方法論	BA12	2	30		30	
			感染生物学特論	BA13	2		30	30	
			★ 言語文化特講Ⅱ	BA05	2	30		30	
			健康科学特講	BA06	2		30	30	
			★ 保健・医療・福祉システム看護学特講Ⅱ	BA14	2	30		30	
			国際看護援助論	BA10	2		30	30	
			生命科学特論	BA08	2	30		30	
			病理病態学特論	BA15	2	30		30	
★ 現象学的研究方法論	BA16	2	30		30				

★遠隔授業対応科目

## 第4節 看護実践国際研究センターの活動

### (1) 概要

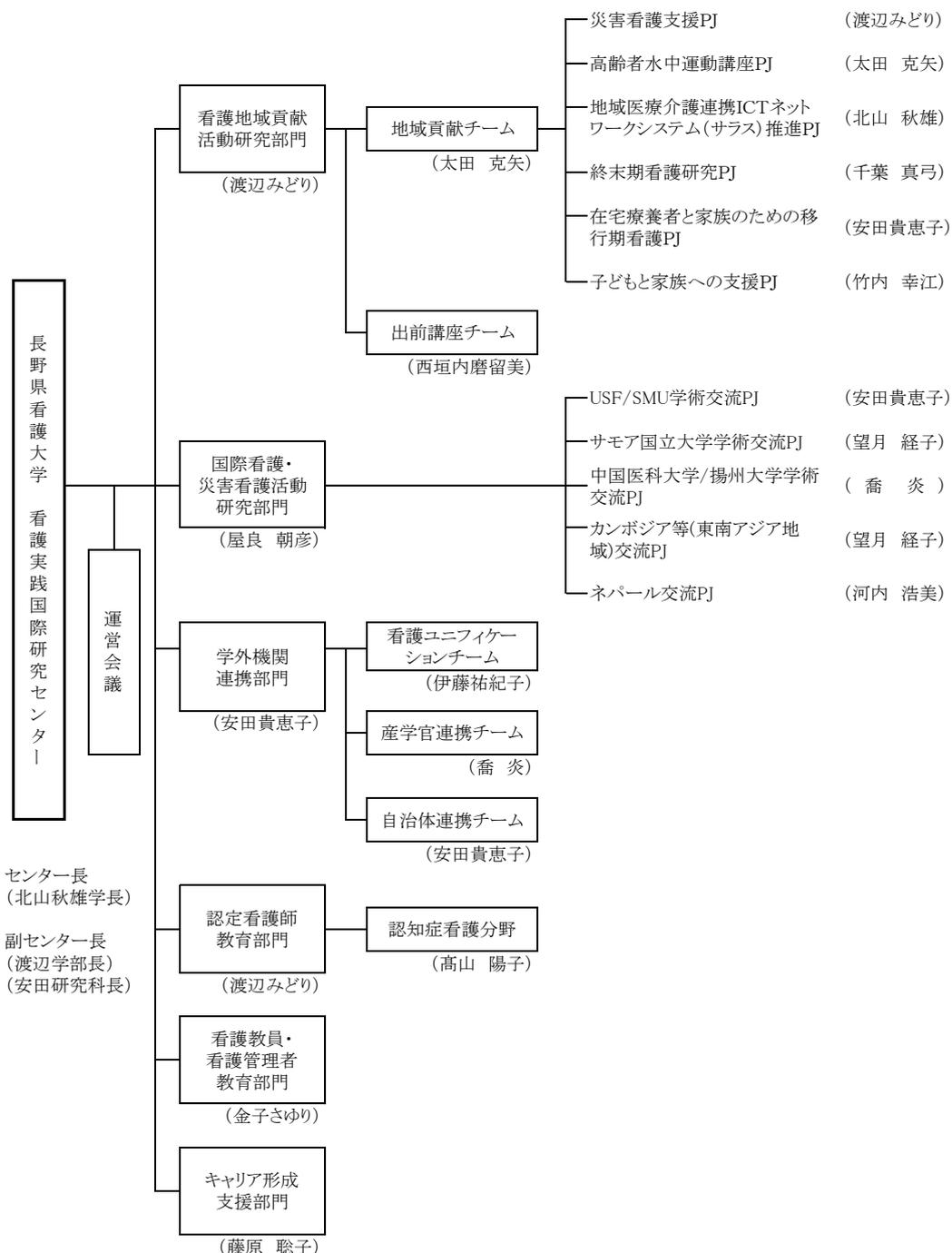
看護実践国際研究センターは国際的視野の涵養を背景に置き、講座や分野などの専門的な枠を超えた研究実践活動部門として平成 年度に設置された。

令和元年度は、新たに「看護教員・看護管理者教育部門」を設置し、6つの部門で活動を行った。

各部門の活動の詳細については、別に作成する「看護実践国際研究センター実績報告書」に記載する。

長野県看護大学 看護実践国際研究センター 組織図

平成 年4月1日現在 ( )内は代表者



### 第3章 教員の研修・研究、社会活動

#### 第1節 研修

##### 1 国内研修

令和元年度に本学教員が国内で受けた研修は、延べ106件であった（表1-1）。

（表1-1） 本学教員が受けた国内研修（五十音順）

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
青木駿介	令和元年7月	第32回日本看護福祉学会学術集会	福岡県
	令和2年3月	第30回日本医学看護学教育学会	WEB
足立美紀	令和元年8月	第31回長野県小児保健研究会 市民公開講演会 「小児医療・保健の明日を考える！」	松本市
飯嶋勇貴	令和元年6月	第21回長野県呼吸ケアセミナー	佐久市
	令和元年8月	第45回日本看護研究学会	大阪府
	令和元年8月	看護過程に活かすシナリオシミュレーションのいろは	東京都
	令和元年8月	第29回日本看護教育学会	京都府
	令和元年11月	第39回日本看護科学学会	石川県
	令和元年11月	JANPU 災害フォーラム	東京都
伊藤郁恵	令和元年9月	ワトソン博士来日公演会『ヒューマンケアリングの実践と教育』	京都府
伊藤佑季	令和元年10月	感染症医療従事者等研修会	駒ヶ根市
	令和元年11月	北信がんプロ第3回合同市民公開講座「小児・AYA世代のがんを知る」	長野市
	令和2年2月	飯田市立病院ワークショップ	飯田市
伊藤祐紀子	平成31年4月	中部M-GTA研究会	金沢市
	令和元年7月	M-GTA研究会 ミニワークショップ「M-GTAの分析テーマと分析の始まり」	東京都
	令和元年8月	中部M-GTA研究会 分析ワークショップ	浜松市
	令和2年1月	中部M-GTA研究会 講演会「解釈的現象学の考え方と方法-いかに哲学と対話するか」	上越市
井本英津子	令和元年6月	授業・研修・カンファレンスで役立つファシリテーションスキル	大阪府
浦野理香	令和元年9月	日本災害看護学会第21回年次大会	北見市
	令和元年9月	第24回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	千葉市
	令和元年11月	「臨床判断能力」を養うために必要な知とは	東京都
	令和元年12月	自殺対策関係者研修会	伊那市
小野塚元子	令和元年9月	第24回日本難病看護学会学術集会	山形市
	令和元年10月	第20回日本早期認知症学術集会	岐阜市
	令和元年10月	長野県看護協会訪問看護研修「在宅リーダー育成」研修	伊那市
	令和元年12月	第9回日本在宅看護学会学術集会	東京都
	令和2年2月	飯田市立病院多職種連携ワークショップ	飯田市

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
上條こずえ	令和元年9月	看護学実習指導の神髄－経験学習モデルを用いて分析し実習指導の本質を探る－	東京都
	令和元年12月	日本生命倫理学会「安楽死と尊厳死の倫理」	宮城県
柄澤邦江	令和元年10月	訪問看護支援事業在宅リーダー育成研修	伊那市
	令和元年11月	看護教員「実力養成」講座2019「カリキュラム改正のポイントとその対応」	WEB
熊谷理恵	令和元年7月	暮らしを支える仲間と連携を語り合う会 -ACPについて-	駒ヶ根市
	令和元年9月	遺伝子のいろはと遺伝子解析検査を伴う臨床試験の事例検討	東京都
	令和元年10月	感染症医療従事者等研修会	駒ヶ根市
	令和元年11月	がんゲノム医療 信州大学医学部附属病院の取り組み	松本市
小原綾香	令和元年6月	高山恵子先生 講演会「特性とともに幸せに生きる」	伊那市
酒井久美子	令和元年8月	上伊那郡市保健師連絡協議会 管内保健師研修会	南箕輪村
	令和元年8月	日本地域看護学会第22回学術集会	神奈川県
	令和2年2月	上伊那郡市保健師連絡協議会 管内保健師研修会	伊那市
下村聡子	令和元年12月	自殺対策関係者研修会	伊那市
	令和2年1月	高齢者の生活を支える“実践型”地域づくり支援プログラム成果報告会	愛知県
	令和2年2月	麻績村「できること」「もちより」ワークショップ（麻績村地域ケア会議）	麻績村
白井 史	令和元年6月	「特性とともに幸せに生きる」伊那中央病院講演会	伊那市
	令和元年8月	小児がん患者のきょうだい支援	東京都
	令和元年11月	ASDおよび関連障がいの療養・行動介入・ペアレントトレーニング	伊那市
水主洋子	令和2年1月	NCPR インストラクターフォローアップコース	愛知県
曾根千賀子	令和元年6月	日本老年看護学会第24回学術集会	宮城県
	令和元年7月	第32回日本看護福祉学会学術大会	福岡県
	令和元年11月	第39回医療情報学会(第20回日本医療情報学会学術集会)	千葉県
	令和2年2月	中部大学生命健康科学研究所セミナー「看護現場の生き生きとした経験を探求するプロセスで出会った現象学の思考」	愛知県
高橋百合子	令和元年5月	対応が難しいスタッフへの管理・教育的支援	愛知県
	令和元年5月	授業・研修・カンファレンスで役立つファシリテーションスキル	愛知県
	令和元年12月	自殺対策関係者研修会	伊那市
田中真木	令和元年6月	第14回JANSセミナー「国際共同研究をどのようにすすめるか～看護は世界の健康課題にどう貢献するか」	WEB
	令和元年6月	聖路加国際大学同窓会主催「旅行における看護：人の移動の安全と快適性を高めるアプローチ」	東京都
	令和元年11月	ACP研究会主催「救急医療においてACPの考え方や学びをどう活用できるか：医師の立場から」	東京都
千葉真弓	令和元年9月	JSPS 研究倫理セミナー「研究者倫理教育にグループワークを導入する」	東京都
富田美雪	令和元年7月	第24回日本在宅ケア学会 学術集会	宮城県
	令和元年10月	長野県看護協会 専門能力の開発に関する研修 在宅リーダー育成 in 南信	伊那市
	令和元年11月	長野県看護協会 穏やかな死を迎えることへの支援 看護師職能Ⅱ委員会研修 在宅・施設における看取り期の支援～最後までお口で食べる？食べない？～	松本市

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
那須淳子	令和2年3月	第15回 JANS セミナー「若手研究者のワークエンゲージメント」	WEB
西村理恵	令和元年5月	妊娠期のフィジカルアセスメント	WEB
	令和元年5月	母体感染のリスクと対応	WEB
	令和元年5月	助産ケアと倫理－助産師に求められる役割－	WEB
	令和元年6月	妊娠期から授乳期における栄養と食事	WEB
	令和元年6月	助産師を育成する支援者の役割－成人教育・成人学習の考え方－	東京都
	令和元年6月	指導者のための避妊と性感染症セミナー	東京都
	令和元年6月	周産期メンタルヘルスから児童虐待防止へ	WEB
	令和元年8月	子宮収縮剤使用時の助産ケアのポイント	WEB
	令和元年8月	臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント代謝編	WEB
	令和元年8月	臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント脳神経編	WEB
	令和元年8月	常位胎盤早期剥離－予防のための保健指導と診断時の対応	WEB
	令和元年10月	臨床推論	WEB
	令和元年11月	防災士養成研修講座	大阪府
	令和2年3月	若手研究者のためのワークエンゲージメント	WEB
福嶋洋子	令和元年6月	第44回日本精神科看護学会	長崎県
	令和元年6月	第6回精神科訪問看護情報交換会	東京都
	令和元年10月	長野県障がい者相談支援従事者専門分野研修 2回	松本市
	令和元年10月	精神科リエゾン看護師の役割	松本市
	令和元年11月	第26回日本精神科看護専門学会	青森県
	令和元年9月～	飯田病院 精神科症例検討会 5回	飯田市
細田江美	令和元年7月	第32回日本看護福祉学会学術大会	福岡県
	令和元年9月	第21回日本災害看護学会年次大会	北海道
松本淳子	令和元年6月	日本臨床心理士資格認定協会第15回子育て支援講座「ネット社会と子育て支援」	京都府
	令和元年9月	NHK 厚生文化事業団ハートフォーラム「ゲーム障害の子ども・若者への支援」	大阪府
	令和2年2月	日本臨床心理士会 2019年度定例研修会2(大阪) 第12回障害の理解と支援に関する総合研修会(1)	大阪府
	令和2年2月	日本臨床心理士会 2019年度定例研修会2(大阪) 第12回障害の理解と支援に関する総合研修会(2)	大阪府
三浦大志	令和元年8月	日本循環器基礎研究フォーラム	東京都
御子柴裕子	令和元年6月	第14回 JANS セミナー「国際共同研究をどのようにすすめるか～看護は世界の健康課題にどう貢献するか」	WEB
	令和元年9月	第50回日本看護学会－ヘルスプロモーション－学術集会	長野市
	令和元年9月	第31回日本医学図書館協会北信越地区会研修会「チンパンジーの研究から考える私たちの睡眠」「医中誌 Web の検索のコツ～検索実習を通して医中誌データベースへの理解をさらに深く!～」	駒ヶ根市
	令和2年2月	第15回 JANS セミナー「若手研究者のワークエンゲージメント－研究ってやっぱり面白い!－」	WEB
	令和2年2月	令和元年度 児童虐待・DV 防止講演会「DVと児童虐待被害者の支援に	松本市
	令和2年2月	故川田智恵子先生のご業績とお人柄をしのぶ会	東京都

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
森野貴輝	令和2年1月	第27回精神科看護管理研究会	大町市
	令和2年1月	精神障がい者地域移行推進研究会	塩尻市
安田貴恵子	令和元年7月	2019年度第1回大学間連携による地域看護学教育ファカルティディベロップメント戦略会議	愛知県
	令和元年8月	質的研究論文の教育資源提供ネットワーク QUARIN-J キックオフセミナー	東京都
	令和元年12月	TCJ 認定ファシリテーター交流研究会	東京都
	令和2年1月	第8回日本公衆衛生看護学会学術集会 ワークショップ「近年の災害保健活動から考える災害保健活動のマネジメント」 プロフェッショナルセミナー「災害発生時の統括保健師の役割と機能」	愛媛県
	令和2年1月	「大規模災害における保健師活動推進会議」	東京都
吉岡詠美	令和元年7月	看護基礎教育の現状とこれから	松本市
	令和元年11月	カリキュラム改正のポイントとその対応	WEB
	令和元年12月	第39回日本看護科学学会学術集会	石川県
渡辺みどり	令和元年5月	院内ラダー研修：「看護研究の課題設定と計画立案」	松本市
	令和元年9月	看護部倫理委員会・認知症サポートチーム学習会： 「高齢者のケアと意思決定支援」	飯田市
	令和元年12月	看護職者基礎編研修：「自分の病院や施設の身体拘束を回避・解除しよう」	石川県

## 2 国外研修

令和元年度に本学教員が国外で受けた研修は、3件であった。

氏名	開催年月	研修会名	開催場所
曾根千賀子	令和元年8月	MedInfo2019	リオン
	令和元年11月	IAGG Asia/Oceania 2019, The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress	台湾
安田貴恵子	令和元年8月	14th International Family Nursing Conference Engaging Family Caregivers in Research: Lessons from Community Based Participatory Research with Militerly Families	ワシントンDC

## 第2節 研究活動

### 1 助成金による研究活動

(1) 文部科学省及び日本学術振興会が所管する科学研究費による研究

令和元年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った研究は18件であった。

継続研究は13件、新規の研究は5件であった。(表2・3)

(表2) 令和元年度科学研究費助成事業の採択等の状況

	新規・継続			左記のうち新規			補助金額 (千円)
	応募件数	採択件数	採択率	応募件数	採択件数	採択率	
本学応募採択分①	27	19	70.4%	13	5	38.5%	23,200
転出分②		1			0		1,000
転入分③		0			0		
本学執行分①-②+③		18			5		22,200

(表3) 令和元年度に科学研究費助成事業の助成を受けて行った本学の研究

研究種目	研究代表者	研究期間	研究課題名
基盤研究(A)	北山秋雄	平成28～令和元年度	地方小都市における最先端ITを用いた認知症トータルケアネットワークシステムの構築
基盤研究(B)	渡辺みどり	平成29～令和2年度	認知症トータルケアプログラムを適用した地域横断的看護力向上システムの構築
	金子さゆり	令和元～4年度	看護管理者のキーコンピテンシー獲得に向けた教育プログラムの開発と有用性の検証
基盤研究(C)	有賀美恵子	平成29～令和2年度	精神疾患が疑われる高校生への早期介入に向けた学校・専門多職種連携支援モデルの開発
	安田貴恵子	平成29～令和元年度	認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針
	田中真木	平成29～令和2年度	日本の基礎看護教育における倫理的感受性育成プログラム開発ーアジア諸国の比較研究ー
	那須 裕	平成28～令和元年度	中山間地域において16年間継続してきた高齢者水中運動講座の効果の縦断的検証
	柄澤邦江	平成28～令和元年度	がん終末期独居高齢者の在宅看取りを可能とするための訪問看護の実践と医療・介護連携
	伊藤祐紀子	平成30～令和2年度	「看護する身体」を育成する教育プログラムの開発～現状調査と学生の学びの質的研究～
	喬 炎	平成30～令和2年度	最先端高分子技術と遠隔通信手段の融合による在宅における褥瘡早期診断法の開発
	細田江美	平成30～令和3年度	認知症者のセルフマネジメント力を支えるケアプログラムの作成と有効性の検討
	屋良朝彦	令和元～3年度	精神障害者の地域定着のための対話技法の開発:精神医療倫理の基礎研究として
	井本英津子	令和元～3年度	ジェネラリストナースのノンテクニカルスキルの評価指標の開発と組織支援の検討
	高橋百合子	令和元～4年度	慢性疾患をもつ子どもと家族のニーズをとらえるための外来看護実践ガイドの開発
若手研究(B)	足立美紀	平成29～令和元年度	食物アレルギーを有する学童・思春期の子どもの自己管理への支援の検討
	熊谷理恵	平成26～令和元年度	がん臨床試験に参加する再発・進行がん患者の意思決定を支援する看護プログラムの開発
若手研究	森野貴輝	平成30～令和3年度	精神科看護師の熟練形成プロセスと精神科看護スキルの継承に関する研究
研究活動スタート支援	伊藤郁恵	令和元年度	看護師の倫理観形成プロセスに関する研究ー新人看護師の倫理観と倫理観を育む要因ー

- (2) 長野県看護大学特別研究費による研究  
令和元年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究は、2件であった。(表4)  
継続研究は0件、新規の研究は2件であった。

(表4) 令和元年度に長野県看護大学特別研究費で行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名
喬 炎	令和元年度	「ブルーライト法」と「ガラス板圧診法」の融合による褥瘡早期診断装置(産業技術総合研究所との共同開発)の検証
松本淳子	令和元～令和2年度	集団歌唱が健康及び向社会性に及ぼす効果

- (3) 県内看護職者との共同研究  
令和元年度に県内看護職者との共同研究費で行った研究は2件であった。(表5)  
継続研究は2件、新規の研究は1件であった。

(表5) 令和元年度に県内看護職者との共同研究費補助金を受けて行った研究

研究代表者	研究期間	研究課題名	担当教員(代表)
池上敦子(伊那中央病院)	平成30～令和元年度	高齢者への誤嚥予防ケアの実態と地域連携にむけての課題～地域中核病院と訪問看護ステーションとの連携に焦点をあてて～	伊藤祐紀子 那須淳子
江口美晴(伊那中央病院)	令和元～令和2年度	維持血液透析患者の最期に関する患者家族の思い	伊藤郁恵

- (4) その他助成金による研究  
令和元年度にその他の助成金を受けて行った研究は3件であった。(表6)

(表6) 令和元年度にその他の助成金を受けて行った研究

助成金名称	研究代表者	研究期間	研究課題名
共同研究費	喬 炎	平成29～令和2年度	セルロース誘導体液晶エラストマーを用いた褥瘡早期診断法と診断装置の開発
共同研究費	喬 炎	平成30～令和2年度	在宅看護介護用センシング技術の褥瘡診断装置の開発に関する共同研究
共同研究費	喬 炎	令和元～令和3年度	納豆菌膜の長期経口摂取による皮膚紫外線傷害の予防効果

## 2 分野の研究活動

分野	研究題名	研究内容
基礎看護学分野	主体的に行動できる学生を育成するための看護教員と辛勝指導者の在り方の検討	本研究は、臨地実習指導者と看護教員が看護学生の主体的な行動をどのような場面を通じて促進しようとしているのか、その指導の実際を調査し、し、看護学生の主体的な行動を育むための看護教員と臨床指導者のあり方について、看護教員5名のインタビューデータを質的帰納的に検討した。第16回長野県看護大学研究集会(令和2年3月18日)口述発表の予定が、中止となり、抄録掲載までとなった。なお、本研究は、平成29年度から平成30年度までの教員特別研究について分野独自に継続研究して取り組んでいるものである。

分野	研究題名	研究内容
母性・助産看護学分野	「女性の性の健康」の公開講座後の一般参加者へのアンケート調査	日頃の地域性教育に携わる方々へのブラッシュアップを目的として、大学生（2年生 84名）の他、駒ヶ根市内の小中の養護教諭複数名、性教育に携わる駒ヶ根市内在住の助産師複数名にも参加を呼びかけ、「女性の性の健康」に関する公開講座を開催した。参加者の内訳は、養護教員1名、開業助産師2名、その他助産師4名、母子保健教育者1名、JICA母子保健プロジェクト関係者1名の計9名である。公開講座終了後に日本家族計画協会のアンケート調査および、分野独自の調査である、①授業への感想、②企画に対する感想、③今後の企画への要望をアンケートに記入してもらい、分野のメンバーとともに、フリートークを行った。アンケートを集計し、地域で性教育に携わる方々の意見をまとめた。
老年看護学分野	認知症看護認定看護師の組織における実践能力に関する研究	認知症看護認定看護師(DCN)の組織における実践能力としてストレス対処能力(SOC)、専門職的自律性の関係を全国調査により明らかにした。DCNは、仕事に対する喜び、満足など好意的な感情を有していることが確認され、DCNがこのような感情を維持し生き生きと活動できることで組織の中での役割、実践能力を発揮することにつながることなどの示唆を得ている。研究成果を日本老年看護学会第24回学術集会、第32回日本看護福祉学会、第11回アジア/オセアニア国際老年会議において発表した。
	病院において高齢者に関わる看護師の実践能力に関する研究	全国調査により、病院において高齢者看護に関わる看護師の専門職的自律性と認知症看護に対する自己評価、ストレス対処能力、看護経験年数などとの関連を検討した。高齢者看護に関わる看護師の専門職的自律性は、ストレス対処能力が高く、認知機能障害者に対する看護実践の振り返り自己評価が高い者、看護師経験年数が長い者ほど高い傾向にあることが明らかになった。研究成果を第39回日本看護科学学会学術集会において発表した。
看護学分野 地域・在宅	保健師活動を推進するモチベーションー施策や体制の変化に対応する経験に着目して	これまでに取り組んできた行政分野に働く保健師の現任教育の方法開発に関する研究の一部である。近年の保健福祉施策の目まぐるしい変化の中で、保健師の役割を発揮できるための示唆を得るために、経験年数20年以上の保健師を対象に聞き取り調査を行い、分析結果を公衆衛生看護の学術集会にて発表した。

### 3 その他研究活動

助成金を受けて行った研究活動以外の本学の研究活動については、以下のとおり。

#### (1) 著書・翻訳（五十音順）

氏名	内容
井村俊義	井村俊義 (2019): 超看護のすすめーナイチンゲールの復権とケアの哲学. 1-264, コトニ社, 千葉.
小野塚元子	家根明子、小野塚元子、長瀬雅子 (2020): 認知症初期集中支援チーム員による当事者の認知症への対処に関する意思決定に向けたかかわり. 老年社会科学 41 巻 4 号, 400-408.

氏名	内 容
座馬耕一郎	座馬耕一郎 (2019): 霊長類の1日の活動. 時間学の構築編集委員会編, 時間学の構築IIIヒトの概日時計と時間, 65-83, 恒星社厚生閣, 東京.
千葉真弓	千葉真弓 (2019): 第2章,第6節,3.性と結婚.4.生活環境の工夫. 奥野茂代, 大西和子監修, 百瀬由美子編集, 老年看護学 概論と看護の実践 第6版, 70-73, ヌーヴェルヒロカワ, 東京.
松本淳子	松本じゅん子 (2020): 現代の若者の音楽聴取行動. 大串健吾・桑野園子・難波精一郎 (監), 小川容子・谷口高士・中島祥好・星野悦子・三浦雅展・山崎晃男 (編), 音楽知覚認知ハンドブック-音楽の不思議の解明に挑む科学-, 307-308, 北大路書房, 京都.
	松本じゅん子 (2020): 環境マスキングとしての音楽. 大串健吾・桑野園子・難波精一郎 (監), 小川容子・谷口高士・中島祥好・星野悦子・三浦雅展・山崎晃男 (編), 音楽知覚認知ハンドブック-音楽の不思議の解明に挑む科学-, 162-163, 北大路書房, 京都.
	松本じゅん子 (2020): 非日常体験としての音楽. 大串健吾・桑野園子・難波精一郎 (監), 小川容子・谷口高士・中島祥好・星野悦子・三浦雅展・山崎晃男 (編), 音楽知覚認知ハンドブック-音楽の不思議の解明に挑む科学-, 163-164, 北大路書房, 京都.

## (2) 論文 (五十音順)

氏名	内 容
秋山 剛	Akiyama T, Njenga SM, Njomo DW, Takeuchi R, Kazama H, Mutua A, et al. (2020): Implementation of Kenyan comprehensive school health program: improvement and association attainment. Health Promotion International, doi:10.1093/heapro/daaa005.
	Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, Sammy M. Njenga, Doris Wairimu Njomo, Rie Takeuchi, Takeshi Akiyama, Haruki Kazama, Alex Mutua, Walema Barnett, Hanae Henzan, Masaaki Shimada, Yoshio Ichinose, Yasuhiko Kamiya, Satoshi Kaneko, Kimihiro Miyake, Jun Kobayashi, (2020): Examining the appropriateness and reliability of the strategy of the Kenyan Comprehensive School Health Program. Global Health Promotion, online ahead of print.
有賀智也	有賀智也, 渡辺みどり, 曾根千賀子 (2020): 精神科医療観察法病棟における高齢者への看護実践と看護師が感じる困難. 日本看護福祉学会, 25(2), 255-271
有賀美恵子	Mieko Aruga (2020): Factors affecting feelings of school avoidance in Japanese high school students: A longitudinal study of 10th to 12th graders. School Health, 16:22-32.
井村俊義	井村俊義 (2019): 「看護の詩」(ナイチンゲール)を巡る考察:「知の発展の最前線」と看護師のアイデンティティ. 長野県看護大学紀要, 27-35.
	井村俊義 (2019): 『夜明け前』が描く日本の特殊な「近代」:街道人のナショナルリズムと「王政復古」. 島崎藤村研究, 第46号:70-78.
	井村俊義 (2020): 「里山看護」を理解するための思想的基盤. 長野県看護大学紀要, 37-42.
江頭有夏	江頭有夏 (2019): 介護老人保健施設の入所高齢者に対するせん妄重症化予防ケアプログラムの有効性の検討. 日本看護福祉学会誌, 24(2):69-83.
金子さゆり	Yoshioka Emi and Kaneko Sayuri (2019): The Current Status of Ethical Judgment Capacity and Ethical Training Regarding Continuous Nursing Education. International Journal of Nursing & Clinical Practice, Volume 6:305, 1-5.
	Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko (2019): The Acquisition of Ethical Competence in Basic Education and the Present State of Ethics Education. Open Journal of Nursing, vol.9, p676-686.
	Yoshioka Emi and Kaneko Sayuri (2019): Concept Analysis of Ethical Competence of Nursing Students and Nurses. Open Journal of Nursing, vol.9, p1173-1187
	吉岡詠美, 金子さゆり (2019): 看護学生におけるケアの倫理的行動尺度の開発. 日本看護科学学会誌, 39, p316-325.
	Sayuri Kaneko (2020): Safety and Quality of Care Evaluation in Japanese Long-Term Facilities Focused on the Activity Condition and Cognitive Function of Residents. Open Journal of Nursing, vol.10, p131-142.
	吉岡詠美, 井本英津子, 金子さゆり (2020): 看護統合実習における看護学生のストレス因子とストレス対処能力およびストレス対処行動との関連. 日本看護福祉学会誌, 25(2)227-240.
那須淳子, 金子さゆり (2020): 介護老人福祉施設に勤務する介護職員の組織コミットメントに関連する要因と離職予防. 日本看護福祉学会, 25(2)19-35.	

氏名	内 容
上條こずえ	Kozue Kamijo (2020): Examina Issues Relating to Senior Nurses. Open Journal of Nursing, 10:209-218.
柄澤邦江	柄澤邦江, 安田貴恵子 (2019): がん終末期独居療養者のエンド・オブ・ライフケアにおける訪問看護師の看護実践に関する文献検討. 日本在宅看護学会, 48-57
熊谷理恵	熊谷理恵, 渡辺みどり (2020): 医療従事者によるがん患者の治療と療養生活に対する意思決定支援 一意思決定支援の概念および研究の現状と今後の研究課題に焦点を当てて一. 日本看護福祉学会誌, 25 巻:421-436.
白井 史	竹内幸江, 内田雅代, 白井史, 小原美江, 竹之内直子, 平田美佳, 野中純子, 小川純子 (2019): 小児がんの子どもの入院環境ー10年前の調査と比較してー. 小児がん看護, 14:40-48.
曾根千賀子	新實夕香理, 太田勝正, 曾根千賀子 (2019): タブレットを用いた情報プライバシー上のニーズを把握する方法に対する看護師の評価. 第 39 回医療情報学連合大会論文集, 893-897.
竹内幸江	竹内幸江, 内田雅代, 白井史, 小原美江, 竹之内直子, 平田美佳, 野中純子, 小川純子 (2020): 小児がんの子どもの入院環境ー10年前の調査との比較ー. 小児がん看護, 14(1), 40-48.
那須淳子	那須淳子, 金子さゆり (2020): 介護老人福祉施設に勤務する介護職員の組織コミットメントに関連する要因と離職予防. 日本看護福祉学会誌 Vol.25No.2, 19-25.
安田貴恵子	柄澤邦江, 安田貴恵子 (2019): がん終末期独居療養者のエンド・オブ・ライフケアにおける訪問看護師の看護実践に関する文献検討. 日本在宅看護学会誌, 8(1):48-57. 酒井久美子, 安田貴恵子, 御子柴裕子 (2020): 一自治体における生活習慣病予防教室の運営・継続参加に向けた専門職スタッフの支援内容. 日本公衆衛生看護学会誌, 9(1):37-44.
御子柴裕子	酒井久美子, 安田貴恵子, 御子柴裕子 (2020): 一自治体における生活習慣病予防教室の運営・継続参加に向けた専門職スタッフの支援内容. 日本公衆衛生看護学会誌, 9(1):37-44.
吉岡詠美	吉岡詠美, 藤田千春 (2019): 小児看護学における倫理教育の教授法と学習内容の文献検討. 日本小児看護学会誌, 28:126-131.
	吉岡詠美 (2019): 看護学生が子どもの意思を尊重した看護を実践するプロセス. 日本小児看護学会誌, 28:148-155.
	Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko (2019): Concept Analysis of Ethical Competence of Nursing Students and Nurses. Open Journal of Nursing, 9:1173-1187.
	吉岡詠美, 金子さゆり (2019): 看護学生におけるケアの倫理的行動尺度の開発. 日本看護科学学会誌, 39:316-325.
	吉岡詠美, 金子さゆり (2019): The Acquisition of Ethical Competence in Basic Education and the Present State of Ethics Education. Open Journal of Nursing, 9:676-686.
	吉岡詠美, 井本英津子, 金子さゆり (2020): 看護統合実習における看護学生のストレス因子とストレス対処能力およびストレス対処行動との関連. 日本看護福祉学会, 25(2):227-240.
Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko (2020): Examination of a Benchmark for Ethical Care Competence in Basic Nursing Education. Open Journal of Nursing, 10:636-645.	

### (3) 学会発表 (五十音順)

氏名	内 容
青木駿介	Yukako Ando, Kanako Yamauchi, Ryoko Ohara, Yuki Ito, Shiho Hasegawa, Shunsuke Aoki, Toshio Kobayashi: Relationship Between Mindfulness and Stress Response in Japanese Nursing Students: Focus on the Impact of Sense of Coherence. IICEHawaii2020, 2020.1.10-12, The Hawai'i Convention Center, Honolulu, Hawaii, USA.
	青木駿介, 太田克矢, 竹内幸江, 江頭有夏, 那須裕: 看護大学新入生の化学式と単位換算に関する知識の考察 -過去5年間のデータから-. 第30回日本医学看護学教育学会学術学会 WEB 開催, 2020.3.27-29, 島根県出雲市.
	太田克矢, 林真言, 白鳥魁人, 末福誉博, 竹森裕一, 青木駿介: 材料に食品を用いた「尿試験紙用の疑似尿」の作成と安定性. 第30回日本医学看護学教育学会学術学会 WEB 開催, 2020.3.27-29, 島根県出雲市.

氏名	内 容
伊藤佑季	Yukako Ando, Kanako Yamauchi, Ryoko Ohara, Yuki Ito, Shiho Hasegawa, Shunsuke Aoki, Toshio Kobayashi: Relationship Between Mindfulness and Stress Response in Japanese Nursing Students: Focus on the Impact of Sense of Coherence. The IAFOR International Conference on Education-Hawaii(IICEHwaii2020), 2020.1.10-12, The Hawai'i Convention Center, Honolulu, Hawaii, USA
伊藤祐紀子	池上敦子(研究代表者), 坂上美紀, 太田美波, 那須淳子伊藤祐紀子: 高齢者への誤嚥予防ケアの実態と地域連携にむけての課題. 第 25 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2019.9.6-7, 新潟市.
	川村美紀, 伊藤 祐紀子: 臨地実習において 2 年過程看護専門学校生が体験するスピリチュアリティの揺らぎ. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.11.30, 石川県金沢市.
	池上敦子(研究代表者), 坂上美紀, 太田美波, 那須淳子, 伊藤祐紀子: 看護師の高齢者への誤嚥予防ケアの実態と課題. 第 16 回長野県看護大学研究集会, 2020.3.18., 駒ヶ根市.
	池上敦子(研究代表者), 坂上美紀, 太田美波, 那須淳子, 伊藤祐紀子: 看護師の高齢者への誤嚥予防ケアの実態と課題. 第 16 回長野県看護大学研究集会, 2020.3.18, 駒ヶ根市.
太田克矢	太田克矢, 林真言, 白鳥魁人, 末福誉博, 竹森裕一, 青木駿介: 材料に食品を用いた「尿試験紙用の疑似尿」の作成と安定性. 第 30 回日本医学看護学教育学会学術学会 WEB 開催, 2020.3.27-29, 島根県出雲市.
	青木駿介, 太田克矢, 竹内幸江, 江頭有夏, 那須裕: 看護大学新入生の化学式と単位換算に関する知識の考察-過去 5 年間のデータから-. 第 30 回日本医学看護学教育学会学術学会 WEB 開催, 2020.3.27-29, 島根県出雲市.
金子さゆり	Kaneko Sayuri, Williamson Akiko, Matsuura Masako: Relationship between the Training of Certified Nurse Administrators and Competency of Nurse Managers in Japan. International Council of Nurses Congress, 2019.7, Singapore.
	Williamson Akiko, Matsuura Masako, Kaneko Sayuri: The Key Competency of Nurse Managers in Japan. International Council of Nurses Congress, 2019.7, Singapore.
	金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠, 鈴江智恵, 伊藤てる子, 真下綾子, 近藤恵子: 看護管理者のキーコンピテンシーと内的要因および外的要因との関連. 第 23 回日本看護管理学会学術集会, 2019.8, 新潟.
	花岡佳子, 武井美佐緒, 油井京子, 金子さゆり: 中堅看護職から中間管理者への役割移行における意識の明確化および中間管理者育成支援. 第 23 回日本看護管理学会学術集会, 2019.8, 新潟.
	ウィリアムソン彰子, 井上真奈美, 大原彰子, 岡島恵子, 金子さゆり, 小島登美香, 貞方三枝子, 深澤優子, 矢野祐美子: 「研究報告」の流儀と「実践報告」の流儀-看護管理の「実践知(アート)」から導かれる「科学知(テクノロジー)」. 第 23 回日本看護管理学会学術集会, 2019.8, 新潟.
	金子さゆり, 井本英津子, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠: 中間看護管理者のキーコンピテンシーと内的要因との関連. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.12, 金沢.
	井本英津子, 金子さゆり, 川崎つま子, 松浦正子, ウィリアムソン彰子, 平岡翠: 中間看護管理者のキーコンピテンシーと外的要因との関連. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.12, 金沢.
	吉岡詠美, 金子さゆり: 看護学生の倫理的行動の行動基準と倫理的行動との関連要因の検討. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.12, 金沢.
	渡辺みどり, 曾根千賀子, 有賀智也, 金子さゆり, 安田貴恵子, 中畑千香子: 高齢者に関わる病院看護師の専門職的自律性に関する要因. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.12, 金沢.
	藤野あゆみ, 渡辺みどり, 金子さゆり: 介護保険施設の介護職の倫理的問題解決思考尺度の信頼性・妥当性の検証. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 2019.12, 金沢.
	Sayuri Kaneko, Etsuko Imoto, Akiko Williamson, Masako Matsuura: Relationship between Key Competencies and Personal Characteristics of Nursing Managers in Japan. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.
	Etsuko Imoto, Sayuri Kaneko, Akiko Williamson, Masako Matsuura: Nursing management competence: A comparison study. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.
	Masako Matsuura, Akiko Williamson, Etsuko Imoto, Sayuri Kaneko: Relationship between Competencies and External Factors of Nurse Managers in Japan -Comparison of the middle and lower managers-. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.

氏名	内容
金子さゆり	Akiko Williamson, Masako Matsuura, Etsuko Imoto, Sayuri Kaneko: Relationship between Competencies and Internal Factors of Nurse Managers in Japan. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.
	Yoshiko Hanaoka, Misao Takei, Kyoko Yui, Sayuri Kaneko: Attitudes among mid-career nursing professionals towards role transition to middle management. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.
	learning support provided in nursing practice. The 6th international nursing research conference of world academy of nursing science, 2020.2, Osaka.
曾根千賀子	渡辺みどり, 細田江美, 曾根千賀子, 有賀智也, 金子: 認知症看護認定看護師の組織に認知症看護認定看護師の組織における実践能力 第1報認知機能障害高齢者への看護実践自己評価と自律性の関連における実践能力 第1報認知機能障害高齢者への看護実践自己評価と自律性の関連. 日本老年看護学会第24回学術集会, 2019.6.8, 仙台市.
喬 炎	En Takashi: Exploring the accurate method to detect early pressure injury from physical properties. International Forum on Geriatric Nursing, 2019.5.26, 中国 揚州市.
	喬 炎, 張 嵐, 魯 健, 王艷薇, 三浦大志, 北山秋雄, 範江林: 早期圧迫性皮膚傷害に対するブルーライト診断装置の開発と検証. 第21回日本褥瘡学会, 2019.8.23, 京都.
	王艷薇, 侯萃, 薛慧萍, 三浦大志, 北山秋雄, 柄澤邦江, 森上幸恵, 喬 炎: 分光測定法による圧迫性皮膚傷害の解析と褥瘡の早期診断に対する意義. 第21回日本褥瘡学会, 2019.8.23, 京都.
	En Takashi, Yanwei Wang, Huiwen Xu, Daiji Miura, Akio Kitayama: Fluctuations in Physical Properties in Deterioration of Stage 1 Pressure Injury and its Significance for Early Detection in Rat Model. NPUAP 2020 Annual Conference, 2020.2.27, Houston, USA.
	喬 炎, 三浦大志, 北山秋雄: 「ブルーライト法」と「ガラス板圧診法」の融合による褥瘡早期診断装置の共同開発と検証. 令和元年度 長野県看護大学研究集会, 2020.3.18, 駒ヶ根市.
千葉真弓	千葉真弓: 地域包括ケア病棟における認知症高齢者への看護実践. 第32回日本看護福祉学会学術大会, 2019.7.21, 福岡市.
松本淳子	松本じゅん子: 友人との会話における BGM の効果. 日本音響学会 2019 年秋季研究発表会, 2019.9.4, 草津市.
	Matsumoto, J.: A preliminary study of desirable sound environments in hospital wards. 23rd International Congress on Acoustics, 2019.9.12, Aachen.
	松本じゅん子: 外来待合室における BM の使用と効果. 日本音響学会 2020 年春季研究発表会, 2020.3.17.
	松本じゅん子, 竹内幸江, 山崎晃男: 集団歌唱が健康及び向社会性に及ぼす効果. 第16回長野県看護大学研究集会, 2020.3.18.
三浦大志	喬 炎, 張 嵐, 魯 健, 王艷薇, 三浦大志, 北山秋雄, 範江林: 早期圧迫性皮膚傷害に対するブルーライト診断装置の開発と検証. 第21回日本褥瘡学会, 2019.8.23-24, 京都市.
	王艷薇, 侯萃, 薛慧萍, 三浦大志, 北山秋雄, 柄澤邦江, 森上幸恵, 喬 炎: 分光測定法による圧迫性皮膚傷害の解析と褥瘡の早期診断に対する意義. 第21回日本褥瘡学会, 2019.8.23-24, 京都市.
	Masatoki Yoshida, Kazufumi Nakamura, Toru Miyoshi, Masashi Yoshida, Kaoru Akazawa, Megumi Kondou, Tomonari Kimura, Hiroaki Ohtsuka, Yuko Ohno, Daiji Miura, Hiroshi Itou: Combination Therapy with Pemafrate (K-877) and Pitavastatin Improves Vascular Endothelial Function in Dahl/Salt-Sensitive Rats. 第3回日本循環器学会基礎研究フォーラム, 2019.9.6-8, 東京都中央区.

#### (4) 研究報告書 (五十音順)

氏名	内容
松本淳子	松本じゅん子, 多賀谷 昭, 北山秋雄: 病棟における音楽療法の実践と効果. 平成 28-30 年度長野県看護大学特別研究費補助金研究成果報告書. 2019

(5) 講演等 (五十音順)

氏名	内 容
井村俊義	井村俊義: ミメシス論の看護への応用—タウシグ『模倣と他者性』の視座. 精神医療倫理科研第1回研究会, 2019.8.19, 駒ヶ根市.
	井村俊義, 今福龍太: 生きることと死ぬことの叡智. 『超看護のすすめ—ナイチンゲールの復権とケアの哲学』(コトニ社)刊行記念, 2020.2.17, 中央区
金子さゆり	金子さゆり: 人材育成システムに関する研修会. 飯田市立病院, 2019.4, 飯田市.
	金子さゆり: 看護部継続教育「看護過程」研修会(1回目). 飯田市立病院, 2019.5, 飯田市.
	金子さゆり: 看護実践に活かす看護過程. 長野県看護協会, 2018.9.
	金子さゆり: ロジカルシンキング. 諏訪赤十字病院, 2019.5, 諏訪市.
	金子さゆり: 看護管理実践に必要なスキル. 諏訪赤十字病院, 2019.5, 諏訪市.
	金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシー向上を目指した研修会—「学習する組織」論から学ぶ看護管理者人材育成プログラム—. 諏訪赤十字病院, 2019.5.-2019.11., 諏訪市.
	金子さゆり: 看護部継続教育「看護過程」研修会(2回目). 飯田市立病院, 2019.6, 飯田市.
	金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシー向上を目指した研修会—「学習する組織」論から学ぶ看護管理者人材育成プログラム—. 岡谷市民病院, 2019.7.-2019.8., 岡谷市.
	金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシー向上を目指した研修会—「学習する組織」論から学ぶ看護管理者人材育成プログラム—. 飯田市立病院, 2019.7.-2019.12., 飯田市.
	金子さゆり: 看護管理のカー看護管理の基本をマスターし力をつけよう—. 長野県看護協会 認定看護管理者研修, 2019.9, 松本市.
	金子さゆり: 看護管理者のストレスマネジメント, 2019.9, 国立病院機能北海道東北グループ 副看護部長・副総看護師長研修.
	金子さゆり, 川崎つま子: 2019 年度看護管理者のキーコンピテンシー向上を目指した研修会—「学習する組織」論から学ぶ 看護管理者人材育成プログラム—. 東京医科歯科大学病院, 2019.9.18-2020.3.26, 東京.
	松浦正子, ウィリアムソン彰子, 金子さゆり: 看護管理者のキーコンピテンシー 獲得に向けた教育プログラムの開発. 神戸大学医学部附属病院, 2019.10, 神戸.
	金子さゆり, 平岡翠: 2019 年度 看護管理者のキーコンピテンシー向上を目指した研修会—「学習する組織」論から学ぶ 看護管理者人材育成プログラム—. 名古屋市立大学病院, 2019.12.-2020.2., 名古屋市.
	竹田伸子, 金子さゆり: 今こそ、レジリエンス～組織のしなやかさを育む取り組み～. 日本看護管理学会 2019 年度例会, 2019.12.7, 仙台市.
座馬耕一郎	座馬耕一郎: チンパンジーの研究から考える私たちの睡眠. 第31回日本医学図書館協会北信越地区会研修会, 2019.9.27, 駒ヶ根市
	座馬耕一郎: ベッドで眠るチンパンジー. 多摩動物公園講演会, 2019.10.27, 日野市.
	座馬耕一郎: 眠りがもっと楽しくなるお話. 睡眠やチンパンジーの生活について語り合うお話会, 2019.10.2, 飯田市.
曾根千賀子	曾根千賀子: 高齢者ケア看護研究会. 認知症ケア実践の“見える化”を目指して—認知症ケアの評価に関する研究動向から—, 2019.9.14, 駒ヶ根市.
	曾根千賀子: 文献抄読のコツ(重回帰分析編). 令和元年度民医連看護・介護研究講座指導者研修, 2019.12.24, 松本市
松本淳子	松本じゅん子: 音楽音響(知覚・認知・心理)副座長. 日本音響学会 2019 年秋季研究発表会, 2019.9.4, 草津市.

(6) 出版物等 (五十音順)

氏名	内 容
井村俊義	井村俊義 (2020): 荒野のロマネスク, 移り住む魂たち(Hommage). 去来の弦にふれる: 今福龍太全著作目録, Gato Azul, 神奈川.
	井村俊義(入試問題) (2020): チカーノとは何か—境界線の詩学. 青山学院大学, 2020 年度『国語』全学部日程, 9-14, 青山学院大学, 東京.
座馬耕一郎	座馬耕一郎 (2019): 宮本さんと人間について考える. LIXIL ギャラリー企画委員会, 椅子の神様 宮本茂紀の仕事, 31-32, LIXIL 出版, 東京.

氏名	内 容
喬 炎	侯 萃, 北山秋雄, 喬 炎 (2019): 一&#31181;浴缸(特殊浴槽). 実用新案(中国), No. 201922362668.1..
	喬 炎 (2020): 皮膚内損傷検測装置及皮膚内損傷検測系統;(中国 No.202010318048.2).
白井 史	白井史 (2019): 第1章 基本的知識(2)小児がんの代表的な疾患. 平成26-30年度科学研究費補助金基盤研究B「小児がん看護の標準化を目指した『ガイドライン』の臨床活用の検討とケアモデルの開発」研究班, 小児がん看護ケアガイドライン 2018, 2-5, 千葉.

### 第3節 社会・地域貢献活動

令和元年度に本学教員が行った学外の研修会・講演会（第2節⑤講演等に記載の講演を除く）、学会等に関する活動は、延べ117件であった（表6）。

また、本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援は、延べ13件であった（表7）。

（表6） 本学教員が行った社会・地域貢献活動（五十音順）

氏名	活 動 内 容
秋山 剛	国際学校保健コンソーシアム 事務局 構成員
	NPO 法人 メータオ・クリニック支援の会 理事
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	信州公衆衛生学会 理事
	日本小児科学会 Pediatrics International 査読者
	日本熱帯医学会 Tropical Medicine and Health 査読者
	駒ヶ根市要保護児童等支援ネットワーク 構成員
長野子どもを虐待から守るネットワーク 構成員	
有賀智也	上伊那医療生協 法人拡大倫理委員会 委員
有賀美恵子	日本学校メンタルヘルス学会 優秀論文賞選考委員
	日本学校メンタルヘルス学会 査読員
	日本養護教諭教育学会 査読員
	長野県立こころの医療センター駒ヶ根 倫理委員会委員
	高等学校教職員へのコンサルテーション（全12回）
飯嶋勇貴	駒ヶ根市・宮田村・飯島町・松川町主催「みなこいワールドフェスタ」企画・実行委員
	長野県看護協会 台風19号長野県北部災害救護ボランティア派遣
伊藤郁恵	鍼灸師会上伊那地区 フィジカルアセスメント研修講師分担
伊藤祐紀子	中部 M-GTA 研究会世話人（講演会、ワークショップ、研究発表会の企画開催）
	長野県看護大学看護実践センター学外機関連携部門 看護ユニフィケーション事業研究 研修会
	「はじめの一步 研究計画書を作成する」講師
	北海道 M-GTA 研究会「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ分析方法」講師
井村俊義	伊那谷 生と死を考える会 会員
井本英津子	伊那中央病院 リーダーシップ研修（2回コース）講師
	伊那中央病院 リーダーシップレベルアップ研修（2回コース）講師
	看護教員養成講習会 ワーキング委員
太田克矢	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
小野塚元子	非営利活動法人のぞみの里 運営推進協議会 委員長
	第50回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会 抄録選考委員
	長野県地域包括ケア市町村伴走型支援事業 支援チーム員

氏名	活動内容
金子さゆり	日本看護科学学会誌 査読委員
	日本医療・病院管理学会誌 査読委員
	日本看護管理学会誌 査読委員
	日本看護管理学会 評議員・学術活動推進委員
	日本学術振興会科学研究費補助金 審査委員
	第23回日本看護管理学会学術集会 抄録査読
	第39回日本看護科学学会学術集会 抄録査読
長野県看護協会 認定看護管理者教育課程運営委員	
上條こずえ	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
柄澤邦江	日本ルーラルナーシング学会評議員
	第50回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会抄録選考委員
座馬耕一郎	日本霊長類学会 評議員・理事
	アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い 世話人
	マハレ野生動物保護協会 理事
	岐阜県立看護大学 非常勤講師
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	日本霊長類学会 評議員・理事
白井 史	日本小児がん看護学会 ケア検討委員
水主洋子	ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト/ 本邦研修 2019
曾根千賀子	長野県民主医療機関連合会「看介護研究講座」コメンテーター
	豊橋創造大学 非常勤講師
喬 炎	令和元年度 教員免許状更新講習会（信州大学主催） 講師
	国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同研究 1件
	日本未病システム学会 評議員
	長野県須坂看護学校 非常勤講師
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修 講師
	日本小児看護学会 専任査読員
高柳実希	JICA 草の根技術協力事業「ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 フリースタイル分娩演習担当
竹内幸江	日本小児保健協会・代議員
	日本小児看護学会・評議員 専任査読員 災害対策委員 研究奨励賞選考委員
	日本看護倫理学会・評議員
	日本小児がん看護学会・専任査読員
	日本看護学教育学会・専任査読員
	千葉看護学会・査読員
	長野県小児保健協会・監事

氏名	活動内容
竹内幸江	長野県社会福祉審議会専門委員
	長野県看護実習指導者養成講習会 講師
田中真木	日本看護倫理学会 査読委員
	鍼灸師会上伊那地区フィジカルアセスメント研修講師分担
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
千葉真弓	日本看護倫理学会 査読委員
	鍼灸師会上伊那地区フィジカルアセスメント研修講師分担
	長野県公衆衛生専門学校 非常勤講師
	日本看護倫理学会 査読委員
中畑千夏子	長野県立須坂看護専門学校非常勤講師
西村理恵	長野県助産師会 災害対策委員会 副委員長
	長野県助産師会 南北関東ブロック研修会実行委員
	上伊那助産師会 学習会講師
	JICA 草の根技術協力事業 本邦研修『「産む力」と「生まれる力」が最大限に発揮され、安心安全な出産につながる助産ケア』における講話
福嶋洋子	長野県助産師会 災害対策委員会 副委員長
	長野県助産師会 南北関東ブロック研修会実行委員
	上伊那助産師会 学習会講師
藤井あゆみ	JICA 草の根技術協力事業「ボカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」本邦研修 研修調整
細田江美	高齢者ケア看護研究会 事務局運営
松本淳子	日本音楽知覚認知学会理事（研究発表会担当）
	日本音楽知覚認知学会音楽知覚認知研究編集委員
	日本音楽知覚認知学会令和元年度秋季研究発表会研究選奨選考委員
	日本音楽知覚認知学会創立30周年記念出版「音楽知覚認知ハンドブック」（北大路書房），第12章「音楽と産業・社会」副編集委員
	長野県公衆衛生専門学校非常勤講師（心理学，統計学）
	公認心理師取得
三浦大志	令和元年度 信州大学教員免許状更新講習会 講師
	日本生理学会アウトリーチ活動 登録講師
	飯田女子短期大学 非常勤講師
	長野県須坂看護専門学校 非常勤講師
御子柴裕子	長野県地域包括ケア市町村伴走型支援事業における支援先市町村への同行支援
	日本ルーラルナーシング学会 編集委員会
	第50回日本看護学会－ヘルスプロモーション学会－学術集会 抄録選考委員
森野貴輝	台風19号長野県北部災害ボランティアセンター救護所への支援派遣
	新型コロナウイルス感染症に関する電話相談窓口への応援

氏名	活動内容
安田貴恵子	日本地域看護学会 代議員、広報委員会委員、日本地域看護学会誌 査読委員
	日本ルーラルナーシング学会 理事、日本ルーラルナーシング学会誌 編集委員長
	日本在宅ケア学会 評議員
	公益社団法人日本看護科学学会 社員
	千葉看護学会誌 査読委員
	信州公衆衛生学会誌 編集委員
	信州木曾看護専門学校 非常勤講師
	医療マネジメント学会長野支部看護師分科会北信地区看護連携協議会 退院支援・退院調整基礎研修講師（全2回のところ感染症蔓延防止のため1回のみ開催）
	長野県中堅期保健師研修講師「保健事業の枠組みを確認しよう」「実践プロセスの意義と育成する能力」
	長野県新人保健師研修企画運営（全4回）
	駒ヶ根市国民健康保険運営協議会委員
第50回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会、抄録選考委員、口頭発表座長	
吉岡詠美	神奈川歯科大学短期大学部 看護学科 非常勤講師
渡辺みどり	日本老年看護学会 代議委員、査読委員、生涯学習支援委員会委員、学術集会査読委員
	日本看護科学学会 代議委員、査読委員
	日本看護福祉学会 副理事長、査読委員、研究倫理委員長、学術大会査読委員
	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
	佐久大学 研究ブランディング事業外部評価委員
	愛知県立大学 大学院 非常勤講師

(表7) 本学教員が行った看護職者等が取り組む研究への支援（五十音順）

氏名	病院等施設名	支援内容
伊藤郁恵	長野県立病院機構木曽病院	院内研究指導1題
	伊那中央病院	共同研究1題
伊藤祐紀子	伊那中央病院	県内看護職者との共同研究1件
	北見医師会看護専門学校	共同研究1件
江頭有華夏	昭和伊南総合病院	事例研究発表会 講評
小野塚元子	長野県立病院機構木曽病院	院内研究指導1件
	長野県立病院機構木曽病院	看護研究発表会での講評
曾根千賀子	健和会病院	看護研究の結果分析および学会発表のための抄録作成
	宅老所花うた	研究計画および結果分析
高橋百合子	日本重症心身障害福祉協会	研究指導5題、発表会での講評
竹内幸江	岡谷市民病院	研究指導12題
中畑千夏子	長野県立病院機構木曽病院	看護研究指導2件
御子柴裕子	松本保健福祉事務所	「発達障害児と親への保健師の支援」に関する研究の助言

## 第4章 社会貢献

### 第1節 公開講座

令和元年度に開催した公開講座の状況は、以下のとおりである。

	開催日・時間	テーマ	講師	参加人数
1	9月28日(土)	「イグ・ノーベル賞と大腸癌」	昭和伊南総合病院 堀内 朗 内科診療部長・ 消化器病センター長	118名
2	令和2年 2月15日(土)	「世界の女性とともに」	長野県看護大学 西垣内磨留美 教授	61名
合計				179名

### 第2節 分野の活動

令和元年度に行った分野としての活動は、以下のとおりである。

分野	活動内容
基礎看護学	産学連携協定している伊那市タカノ株式会社(福祉機器製造開発)の開発製品を用いての「床ずれ防止に関する体圧分散」の特別講義・演習を令和元年10月21日(月)13:00~14:30本学にて実施した。1年生 必修科目基礎看護方法Ⅱのポジショニングの講義・演習の一部とし担当教員と協働にて実施した。
	長野県鍼灸師会フィジカルセサメント講習会を令和元年8月18日(日)9:00~16:00本学にて開催した。長野県内鍼灸師を対象に患者の状態を的確に把握する手法を身につけ、実践に活かすことができる、実践において医療連携に繋げることができることを目的にフィジカルアセスメントの講義および演習を実施した。
母性・助産看護学	2017年度より開始されたネパール交流市民の会(駒ヶ根市)が行うJICA草の根技術協力事業「ポカラ市北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健プロジェクト」における本邦研修「『産む力』と『生れる力』が最大限に発揮され、安心安全な出産につながる助産ケア」の一部として、分野による講義および演習を企画し指導にあたった。本邦研修には母子友好病院やシスワ病院から5名の病院運営院長、周産期ケアにかかわる看護スタッフが来学され、約1日の研修を受講された。

分野	活動内容
小児看護学	<p>駒ヶ根市近郊に住むアレルギー疾患をもつ子どもと親の会「たんぼぼの会」の活動を支援し、学内で月1回を目途に10回の定例会を実施した。定例会では、アレルギーに関する新たな知見や疾患管理に関する情報を提供するとともに、親同士の情報交換の場となるよう支援した。7月の定例会では、小児アレルギーエドゥケーターを招き「こどものアレルギー相談会」を実施し、非会員も含め7名の参加者があった。令和2年1月25日には、「駒ヶ根市の学校給食における食物アレルギーの対応について」をテーマとした講演会を実施した。内容は(1)「たんぼぼの会」の母親からのメッセージと(2)学校給食にかかわる管理栄養士と栄養教諭による講演で、参加者は約20名であった。</p>
老年看護学	<p>介護老人保健施設の行事である「すずたけ祭り(すずたけ：2019年5月26日)」「かない原祭(センテナリアン：2019年11月20日)」にボランティアとして学生とともに参加した。また、「収穫祭(センテナリアンデイケア：12月5日)」では、利用者が育て収穫した野菜等を共に調理し、紅白対抗運動会のサポートを行った。</p>
	<p>高齢者ケア看護研究会において「認知症ケア実践の見える化」を目指して「認知症ケアの評価に関する研究動向から」、施設における認知症ケアの質向上に必要なことをテーマに研修会を開催(2019年9月14日)し、企画・運営のサポートを行った。</p>
	<p>「認知症の人と家族の会」主催(2019年9月28日)の「ラン伴+駒ヶ根2019」に認知症看護認定看護師教育課程受講生とともに参加し、認知症の啓発活動を行った。</p>
	<p>水中運動講座骨密度測定大会(2020年3月4日開催予定)における企画運営に参加し、地域在住高齢者へ自らの健康状態を知る機会を提供することおよび健康相談実施の準備を行った。しかしながら、COVID-19の影響により急遽開催中止となった。</p>
地域・在宅看護学	<p>長野県内市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた、県健康福祉部介護支援課による市町村支援事業に参画した。具体的には、一自治体の地域包括支援センター職員の活動支援に継続的に関わり、外部支援のあり方について県担当職員と意見交換を行った。令和2年度も継続する計画である。</p>

※ 本学教員が行った社会・地域貢献活動については、第3章「教員の研修・研究、社会活動」第3節に掲載しています。

## 第5章 学内委員会等の活動及び検証

### 第1節 運営委員会

#### 1 所掌事項

看護大学の管理運営に関する重要事項を調査審議する。

#### 2 活動と成果

##### (1) 委員会活動

###### 【開催日】

第1回	31年 4月 5日	第12回	元年 10月 31日
第2回	31年 4月 19日	第13回	元年 11月 15日
第3回	令和元年 5月 17日	第14回	元年 11月 29日
第4回	元年 5月 31日	第15回	元年 12月 13日
第5回	元年 6月 14日	第16回	2年 1月 7日
第6回	元年 6月 28日	第17回	2年 1月 17日
第7回	元年 7月 11日	第18回	2年 1月 31日
第8回	元年 8月 2日	第19回	2年 2月 14日
第9回	元年 9月 12日	第20回	2年 2月 28日
第10回	元年 10月 1日	第21回	2年 3月 13日
第11回	元年 10月 10日		

###### 【審議内容】

大学運営に関する学長の構想・意思の具体化への検討や、教授会、人事教授会及び研究科委員会に諮る協議事項・報告事項等に関する審議及び内容の確認を行った。

##### (2) 成果

事前に議題の内容等を協議・点検・整理し、大学運営の方向性の確認や調整を行い、教授会等における円滑で効率的な審議に資した。

#### 3 今後の課題

##### (1) 喫緊の課題

- 1) 評価委員会における大学の自己点検・評価の課題について、運営委員会で検討し改善改革につなげていく。
- 2) 大学が取り組むべき主な課題の検討スケジュールに基づき、本委員会において取り組んだ内容について教授会等における審議に資する議論を行う。

##### (2) 将来的な課題

- 1) 今後の法人化議論に備えた準備をする。
- 2) 運営委員会のあり方等を検討する必要がある。

### 第2節 広報・交流委員会

#### 1 所掌事項

- (1) 大学の広報に関すること
- (2) 公開講座に関すること
- (3) 大学説明会に関すること
- (4) 国際交流に関すること
- (5) 地域交流に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

委員会及び開催行事は下記の通りであった。(行事の事前準備活動などの記載は省略)

○会議：7回(4/11、5/30、6/12、7/10、9/10、12/16、2/6)

主な議題：PATHWAY・オープンキャンパス(OC)・公開講座・進路説明会・大学見学・模擬授業・学報・その他広報活動・活動費用

○開催行事：オープンキャンパス(7/27)、公開講座(9/28、2/15)、大学見学(複数日)、進路説明会(複数日)、模擬授業・講義形式の進学説明(複数日)

### (2) 成果

#### 1) 進路説明会(進学相談)・模擬授業・大学見学

外部からの依頼35件のうち26件(COVID-19感染拡大等による中止案件含む)に対応した(対応延べ教員数44名)。内訳としては、各高校に出向いての進学説明・模擬授業4件、高校生の本学の見学7件(うち中学校1件)、会場式の説明会9件、教員向けの説明会4件である。これに加えてOC及び学祭時に個別進学相談会を実施した(対応延べ教員数17名)。このうち相談者数は、OC時75件、学祭時25件であった。

#### 2) 大学案内PATHWAY発行

構成の軸の1つである「学部の学生生活が伝わる大学案内」を維持しつつ、表紙のイメージの修飾による変更をはじめ、適宜、時間が経過した記事や写真などを更新した。

#### 3) 学報の発行と大学院だより

読みやすく充実した紙面の学報(No.48、49)を2回発行し、関係各所に配布した。この際、入試部会の依頼による大学院だより(No.7)も作成し学報に挟み込む形で配布した(学報No.41より実施)。

#### 4) 大学説明会(オープンキャンパス)

昨年度より、午前と午後の2部制の開催とし、各受付の定員を400名とした。この際の事前申し込みの受付には行政回線で作成できる受付システムを昨年度より導入し、本年度もこれを利用した。各コーナーは、講堂で実施した「全体説明会」の他に「看護(実験)体験コーナー、個別進学相談、模擬授業、学食体験」などを例年と同様とし、昨年度の例を参考にスケジュールを適宜変更した。それに伴い、チラシやパンフレットの内容を見直し、改訂した。これらの導入により昨年度よりもさらに各コーナーの混雑が大幅に軽減できた。今年度の参加者は620名であった。参加者アンケートからもおおむね好評を得ていた。

#### ◆オープンキャンパスの参加者数

年度	高校生	保護者等	合計
R元	306	314	620
H30	353	308	661
H29	414	366	780
H28	384	319	703
H27	357	300	657
H26	355	247	602
H25	377	255	632
H24	377	179	556
H23	183	90	273
H22	244	160	404
H21	205	80	285

#### 5) 公開講座開催

地域貢献の一環として、下記のとおり、公開講座を2回開催した。公開講座の参加者アンケートの結果は良好であった。

##### ○1回目

日時：令和元年9月28日（土）

タイトル：イグ・ノーベル賞と大腸癌

講師：堀内 朗（昭和伊南総合病院 内科診療部長・消化器病センター長）

参加者：118名

##### ○2回目

日時：令和2年2月15日（土）

タイトル：「世界の女性とともに」

講師：西垣内磨留美（長野県看護大学 教授）

参加者：61名

#### 6) 学外掲示板の更新

公開講座のポスター他を更新した。（昭和伊南総合病院、こころの医療センター駒ヶ根）

#### 7) 在学生を対象に大学の広報に関するアンケート調査の実施

2019年度入学生を対象に、入学前の時点での大学広報などに関連する項目について調査（長野県民新聞、オープンキャンパス、パスウェイ、本学受験の意思決定など）を行った（85名在籍中の84名に配布、回収数84名）。その結果、オープンキャンパスへの参加率は、推薦入試による入学生が93%（28名中26名）であったのに対し、一般入試の前期での入学生33%（39名中13名）、後期で0%（15名中0名）、社会人入試で50%（2名中1名）であった。これらは前年度（87%、38%、18%、社会人は無し）と同じ傾向であった。

#### 8) 県や業者による広報誌やパンフレットの内容の作成と確認

例年通りの業者による広報誌の企画に参加した。これに加えて、本年度は県庁の県民文化庁高等教育課が企画した「信州で学ぼう！魅力発信業務」において、卒業生が出演する広告用動画の作成に参加した。

#### 9) 大学院案内パンフレットの発行

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

年度末にかけて国内で流行しはじめた新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に伴い、進路説明会やオープンキャンパスなどの広報活動の開催形式や実施の有無を検討しなければならない。

#### (2) 将来的な課題

少子化時代の学生募集対策として、従来の事業実施の変更の必要性が大学執行部から意見としてでてきている。大学教員の業務量の増大と多様化の中でより効率的な広報活動を行うには、最も重要な対象者の1つである「学部入学志願者」への効率的な広報活動のありかたについて検討していく必要がある。

### 第3節 教務委員会

#### 1 所掌事項

- (1) カリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討
- ・ 学生便覧・シラバスに関すること
  - ・ 非常勤講師の任用
  - ・ 教務ガイダンスの計画
  - ・ 時間割の作成
  - ・ 卒業研究シラバスの検討
  - ・ 教務ガイダンス・担当教員の調整
- (2) 履修に関すること
- ・ 履修登録の確認(重複登録、未登録等、特に再履修の科目の多い学生、復学生について)
  - ・ 必要時、学年顧問と連絡を取り、学生の履修面の相談
  - ・ 卒業判定・単位認定資料の確認作業
- (3) カリキュラムの改善に関する検討

#### 2 活動と成果

##### (1) 委員会活動

##### 1) 令和元年度の活動方針

- ① 入学者の受入れから学士(看護学)の学位授与に至る一貫した教育プログラムの整備
- ・ カリキュラム進行にあたって必要な事項の検討
  - ・ 3年目を向かえるスタートアップセミナーの評価(3年間の実施評価より講義のみに変更)
  - ・ 卒業研究における学生配置方法、評価基準についての検討

##### ② その他必要な事項を検討する

(看護学教育モデル・コア・カリキュラム、看護学学士課程におけるコンピテンシーと卒業時到達目標、看護学教育質保証など動向を踏まえて随時検討)

##### 2) 委員会開催実績

回/開催日	審議事項	報告事項
第1回 4月16日	令和元年度 活動方針と運営体制	平成30年度 教務委員会活動報告書 教務ガイダンス実施報告 選択科目履修登録状況と開講の有無 個別指導を要する学生の履修計画 復学生の支援状況 スタートアップセミナー進捗状況
第2回 5月21日	助産師コースの選抜方針・選抜実施計画 既習単位の認定について 休学願(延長)1名	スタートアップセミナーの評価
第3回 7月24日	看護統合実習の履修の可否について 学年の途中における卒業願 3名 前学期成績提出の依頼について	令和元年度 国際看護実習の選抜 未修得単位のある学生の履修計画 看護師等養成所教務主任会議の報告
第4回 9月10日	学年の途中で卒業する学生3名の卒業判定 令和2年度 学年暦① 令和2年度 シラバス作成要領①	文部科学省への変更承認申請3件 高等教育学費無償化制度について

第5回 10月10日	英語科目名変更について 令和2年度 学年暦② 令和2年度 シラバス作成要領② 卒業研究学生配属方法の検討 令和2年度 非常勤講師の変更	厚生労働省 看護基礎教育検討会報告書のよりカリキュラム改定の概要
第6回 11月7日	令和2年度 学生便覧 令和2年度 卒業研究シラバス 卒業研究評価基準 時間割の表記について 災害による欠席など特別配慮を要する欠席の取り扱いについて	令和2年度 非常勤講師意向確認状況
第7回 12月11日	令和2年度 卒業研究ガイダンス 令和2年度 スタートアップセミナー講師 令和2年度 非常勤講師について 令和2年度 科目履修生募集要項 令和2年度 県内大学単位互換履修生募集 履修規程改定について(特別配慮を要する欠席、成績区分への秀評価追加)①	令和2年度 シラバス提出状況
第8回 1月17日	履修規程改定について(特別配慮を要する欠席、成績区分への秀評価追加)② 令和2年度 教務ガイダンス 令和2年度 学年暦③	令和2年度 スタートアップセミナー講師依頼状況
第9回 2月5日	令和2年度 非常勤講師の任用 令和元年度 卒業予定者単位認定 令和2年度 時間割	卒業研究配置
第10回 2月20日	追試験、特別試験に関する検討 令和2年度 新任教職オリエンテーション、教務ガイダンスについての役割分担	
第11回 3月10日	退学願1件 休学願1件 在学生単位認定 令和元年度 教務委員会自己点検報告 新型コロナウイルス感染防止に伴う教務ガイダンススケジュールの見直し	

### 3) スタートアップセミナーの実施

3年間継続した評価として、グループワークおよび報告会は、学生、教員ともに負担が大きく効果的とは言えないことが共通していた。したがって、令和元年度からは講義、図書検索の演習のみ存続して実施することにした。また、グループワークおよび報告会は、1年前学期の科目内の教育内容に含まれていることから削除することにした。

今後、科目とするか否かは、令和4年度よりスタートする改正カリキュラムの検討事項に含めることとし、それまではこの方法で継続することにした。

スタートアップセミナーのプログラム概要を表に示す。

表. 令和元年度 スタートアップセミナーの概要

回数／月日	テーマ／内容	講師
1 回目 4 月 8 日（月）3 限	本学の学生としての学び方 ・本学の教育理念、教育方針、教育目標の理解	北山学長
2 回目 4 月 15 日（月）3 限	大学での学習方法を学ぶ① ・大学での授業を受ける際の基本的な心得 ・学習の助けとなる情報の調べ方を学ぶ	屋良准教授
3 回目 4 月 22 日（月）3 限	大学での学習方法を学ぶ② ・レポートの作成、グループ学習の仕方	屋良准教授
4 回目 4 月 9 日（火）4 限	情報の検索・活用の仕方① ・情報収集の基本的なスキル	図書館 清水司書
5 回目 4 月 16 日（火）4 限 4 月 23 日（火）4 限	情報の検索・活用の仕方② ・キーワードを用いたワーク *2 クラスに分かれていずれかの日程で受講	図書館 清水司書

## (2) 成果

- 1) 所掌事項であるカリキュラムの進行にあたり必要な事項の検討および履修に関することは滞りなく実施することができた。
- 2) 学習上個別支援を要する学生に関しては、学年顧問、事務局教務・学生課、学生支援員、保健室保健師と連携、協働して情報共有し、対応することができた。これらの学生の履修計画は、教授会にて報告し履修漏れが生じないよう科目責任者と共通認識することができた。
- 3) 「スタートアップセミナー」は、前年度の評価を踏まえて、講義・演習のみに変更した。全学生が参加し、実施後の学生による自己評価では、おおむね内容を理解することができていた。
- 4) 前年度、シラバス作成要領を新たに作成し、各回の学習内容、評価方法を明記するよう取り組み、今年度より新シラバスによる教育活動を実施することができた。
- 5) 前年度より卒業研究配置は、学生自らが希望する領域となるよう調整するように変更した。次年度の配置についても同様の方法としたが、学生間で主体的に調整してスムーズに決めることができていた。
- 6) 前年度の卒業研究の評価基準を作成し、今年度の卒業研究評価に活用することができた。
- 7) 履修規程の一部改訂を検討して教授会にて承認された。改訂は主に次の3点である。
  1. 令和2年度入学性より秀(90～100点)を含めた成績区分を導入する。
  2. 特別配慮を要する欠席(災害、忌引き、感染症)を定める。
  3. 追試験に特別配慮を要する欠席となった場合を含め、評点は100%とする。(令和2年度より施行できるか、文科省手続き確認中)

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題

- ・令和2年度より教務・実習委員会として改組されるため新たな活動の体制づくり

### (2) 将来的な課題

- ・令和 4 年度改正カリキュラム適用開始に向けて、本学のカリキュラム変更の検討、それに伴う学則変更の検討が大きな課題となる。
- ・初年度教育としてスタートアップセミナーを科目とするか否かは、令和 4 年度よりスタートする改正カリキュラムの検討事項になっている。

## 第 4 節 実習委員会

### 1 所掌事項

- (1) 実習の目標・計画・実施・評価に関すること
  - 1) 実習要項（共通部分）の作成
  - 2) 専門領域実習の学生グループ分けおよび実習ローテーション表の作成
  - 3) 実習記録等に関する調整事項
  - 4) 実習の実施に関する調整事項
  - 5) 実習の教育評価に関する事項
- (2) 実習施設との連絡調整に関すること
  - 1) 実習施設との連絡調整（各分野）のサポート
  - 2) 実習指導者会議に関すること
  - 3) その他実習施設との連絡調整に関すること
- (3) 実習中における安全と事故防止に関すること
  - 1) 「個人情報保護」や「同意書」等への対応
  - 2) 事故発生時の対処方法
  - 3) 災害発生時の対処方法
- (4) その他実習に関すること
  - 1) 実習に関わる交通機関の調整に関すること
  - 2) 実習用学生ユニフォームに関すること
  - 3) 実習期間中に使用するバス、共用の学内の部屋、携帯電話の調整

### 2 活動と成果

- (1) 委員会活動
  - 1) 第 1 回委員会：平成 31 年 4 月 9 日（火）
    - ①実習委員会の任務/スケジュール等の確認
    - ②令和元年度前期の実習オリエンテーション
    - ③実習期間中の共用部屋の使用および携帯電話の使用
    - ④実習要項等の作成
    - ⑤土砂災害警戒情報発令時における実習バス運行の連絡について
  - 2) 第 2 回委員会：令和元年 6 月 10 日（月）
    - ①領域別実習オリエンテーションについて
    - ②実習要項の内容について（修正事項の確認）
    - ③実習バス運行中止におけるフローチャートについて
  - 3) 第 3 回委員会：令和元年 7 月 3 日（水）
    - ①4 年生領域別実習報告（インシデント・アクシデント含む）
    - ②後期領域別実習（3 年生）の実習要項

- ③FD研修について
- ④インフルエンザワクチン接種推奨の実習要項への追記について
- ⑤宿泊費補助の増額について
- 4) 第4回委員会：令和元年7月31日（水）
  - ①4年生領域別実習報告（インシデント・アクシデント含む）
  - ②後期の実習に向けての感染症対策について
  - ③助産選抜について
  - ④国際看護実習の履修生選抜
  - ⑤インフルエンザワクチン
- 5) 第5回委員会：令和元年9月9日（火）
  - ①4年生領域別実習報告（インシデント・アクシデント含む）
  - ②3年生領域別実習準備の進捗状況（実習ローテーション、バス、携帯・共用室の使用など）
  - ③実習に関して配慮を要する学生の履修計画について
  - ④令和2年度後学期からの実習ローテーションについての変更
- 6) 第6回実習委員会：令和元年10月18日（金）
  - ①3年生領域別実習、基礎看護学実習Ⅱの実習報告（学生に関する情報交換）
  - ②令和2年度実習予定（案）
  - ③令和2年度実習配置（案）
  - ④令和2年度実習オリエンテーション（案）
- 7) 第7回委員会：令和元年11月18日（月）
  - ①3年生領域別実習、基礎看護学実習Ⅱの実習報告（学生に関する情報交換）
  - ②令和2年度の学生便覧の内容について
  - ③感染症対策について
- 8) 臨時委員会：令和元年11月21日（月）
  - ①各領域の実習における学生の健康状態把握について
  - ②小児看護学実習のローテーション変更について（保育所実習と病院実習）
  - ③インフルエンザワクチン接種について
- 9) 第8回委員会：令和元年12月18日（水）
  - ①3年生領域別実習、基礎看護学実習Ⅱの実習報告（学生に関する情報交換）
  - ②感染症対応について
  - ②小児ウイルス抗体価検査について
  - ③令和2年度学生便覧の内容
- 10) 研修会「百日咳ワクチン接種について」：令和2年1月17日（金）
- 11) 第9回委員会：令和2年1月15日（水）
  - ①准看護学校との実習施設の調整について
  - ②FD研修会について
  - ③感染症対策について（フローチャートの見直し、実習要項の見直し）
  - ④次年度へ向けての各担当準備状況（実習バス、要項、オリエンテーション、ガイダンス分担、ユニフォームの注文）

- 12) 臨時委員会（代表）：令和2年1月31日（金）、2月5日（水）  
「感染症発生時の報告ルート」について検討
- 13) 第10回委員会：令和2年2月14日（金）
  - ①次年度へ向けての各担当準備状況（ガイダンス、ユニフォーム、実習バス）
  - ②拡大実習委員会の資料確認について
  - ③感染症発生時の報告ルート（案）について
  - ④学生便覧の感染症対応について
- 14) 第11回実習委員会：令和2年3月26日（木）
  - ①令和2年度教務ガイダンスについて
  - ②ユニフォームの試着・注文について
  - ③拡大実習委員会について
  - ④2019年度事故報告の取りまとめについて

## (2) 成果

### 1) 学生の健康面への支援

7月より保健室の熊谷保健師に参加していただき委員会で情報交換を行っていきこととなった。このことより学生の健康面での支援が保健室と連携を持ちながら効果的に行えた。

### 2) 宿泊費補助の増額

昨年より地域看護学分野、小児看護学分野から実習に伴う宿泊費の増額が要望として出されていた。本年度はその要望を受け、学習環境の保障や衛生環境を整える事かつ利便性を考慮し、上限額が5,000円から7,000円に増額となった。

### 3) 感染症対策の強化

10月29日にこども病院で学生が罹患した流行性角結膜炎の発生、また、1月からの新型コロナウイルスの世界的流行に鑑み、実習要項の見直し、実習前の学生の健康状態の把握の徹底、推奨する予防接種の追加（百日咳ワクチン）、学生を対象とした研修会の実施などの感染症対応の活動を行った。感染症関係については、これまで目立った事象が起らなかったが故に、ここ近年要項等の見直しは行われていなかった。本年度の活動を通し、実習で受け持つ対象者や実習機関、そして学生自身を守る体制が強化されたと考える。加え、教員においても感染症対策への認識を強固にすることができた。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

#### 1) 感染症対応

令和元年度においては、感染症への対応として必要な事項につき検討修正を行ってきたが、まだ決定となっていない事柄も多く引き続き検討を行っていく。さらに令和2年3月現在においても収束していない新型コロナウイルスへの対応として、令和2年度5月より開始する4年生領域別実習、6月に予定している基礎看護学実習Ⅰの実習体制、内容、感染防止対応などの検討が早急に必要である。

### (2) 将来的な課題

#### 1) 「看護学実習ガイドライン」に基づいた実習体制、実習環境の整備

看護学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 29 年 10 月)において、「臨地実習」のねらいと修学目標が示され、その目標到達のために「看護学実習ガイドライン」において実習の基本的な考えが出された。この「看護学実習ガイドライン」に沿い、実習指導体制、安全管理体制の見直しや実習環境の整備など安全で効果的な学習を保障できるように検討していく。

## 2) 実習機関との連携強化

1)で示した目標達成のためには、大学と実習機関との有機的な連携・協働により実習体制を構築する事が重要となる。引き続き、実習機関とのさらなる連携強化を図っていく事が必要になる。

## 第5節 入試検討委員会

### 1 所掌事項

委員会は、次の事項について調査及び審議する。

- ①大学入試に関する事
- ②入試科目及び期日の選定に関する事
- ③合否判定の基礎資料に関する事
- ④入試の追跡調査に関する事
- ⑤入試のあり方に関する事
- ⑥その他入試に関する事

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

開催回数	開催日	議 題
1	平成 31 年 4 月 19 日 (金)	①委員会における人事と役割分担について ②平成 31 年度における委員会の活動計画について ③各入学試験における業務の役割分担について ④令和 3 年度入学者選抜の予告にかかる公表事項について ⑤平成 32 年度入学者選抜に関する要項 (案) について
2	令和元年 5 月 10 日 (金)	①令和 2 年度入学者選抜に関する要項の確認 ②令和 2 年度学生募集要項 (案) について ③令和 3 年度入学者選抜の予告案について ④県内高等学校への訪問・説明会について
3	6 月 12 日 (水)	①令和 2 年度学生募集要項 (案) について ②令和元年度の入試業務配置 (案) について ③令和 3 年度入学者選抜の説明リーフレット (案) について ④令和 3 年度入学者選抜に係る説明会について
4	7 月 9 日 (火)	①令和 2 年度大学入試センター試験にかかる長野県地区連絡会議の協議内容について ②令和 3 年度長野県看護大学入学者選抜における英語・検定

4	7月9日(火)	<p>試験の取り扱いについて</p> <p>③令和3年度入学者選抜の予告案について</p> <p>④令和3年度入学者選抜について</p> <p>⑤令和3年度入学者選抜に係る説明会について</p> <p>⑥令和3年度入学者選抜の説明リーフレット(案)について</p>
5	8月1日(木)	<p>①令和2年度大学入試センター試験長野県地区地域別担当者会議(南信)について</p> <p>②令和3年度入学者選抜の予告案について</p> <p>③令和3年度入学者選抜の学校推薦型選抜A(地域特別枠)への対応</p> <p>④令和3年度入学者選抜に係る説明会について</p>
6	9月11日(水)	<p>①令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(第1回)の報告について</p> <p>②令和3年度入学者選抜の予告にかかる公表事項について</p> <p>③令和3年度入学者選抜に係る説明会について</p> <p>④入試問題に関する著作権の使用および複製の許諾について</p>
7	10月11日(金)	<p>①令和2年度推薦・社会人入学試験業務処理要領について</p> <p>②令和2年度入学試験(推薦・社会人、前期日程、後期日程)における面接試験の共通質問項目について</p> <p>③令和3年度年度入学者選抜に関する説明会について</p> <p>④令和3年度入学者選抜の説明リーフレット(案)について</p> <p>⑤新たな入学制度に係る県議への説明会について</p>
8	11月8日(金)	<p>①「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りについて</p> <p>②令和3年度入学者選抜の予告案について</p> <p>③「大学入試英語成績提供システム」導入の見送りに伴う代替案について</p>
9	11月16日(土)	<p>①令和2年度推薦・社会人入学試験の可否判定案について</p>
10	11月18日(月)	<p>①令和2年度推薦・社会人入学試験結果の確認について</p> <p>②令和3年度大学入学者選抜における本学の英語の資格・検定試験の活用について</p>
11	12月10日(火)	<p>①令和2年度大学入学者選抜大学入試センター試験 試験実施・業務処理要領(案)について</p> <p>②大学入試センター試験監督者説明会について</p> <p>③令和2年度大学入試センター試験の準備日程(問題冊子等の搬入および仕分け)について</p> <p>④令和3年度入学者選抜の予告案について</p>
12	令和2年 2月3日(月)	<p>①一般入学試験の願書受付状況について</p> <p>②令和2年度一般入学試験(前期日程・後期日程)業務処理要</p>

		領について ③令和3年度入学者選抜の日程(案)について ④令和3年度入学者選抜の説明リーフレット(案)について
13	2月26日(水)	①令和2年度一般選抜入学試験(前期日程)の合否判定案について
14	3月12日(木)	①令和2年度一般選抜入学試験(後期日程)の合否判定案について ②令和2年度一般選抜入学試験の追加合格候補者案について

## (2) 成果

### 1) 入学者選抜試験の円滑な実施

特別選抜試験(推薦・社会人入学)及び一般選抜試験(前期日程・後期日程)を通して、滞りのない入学試験業務を遂行した。

### 2) 大学入試センター試験の円滑な実施

大学入試センター試験については、例年通り事前に2回の監督者説明会を開催し、滞りなく試験を実施した。

### 3) 入学志願者の確保

今年度の入学志願者は推薦入試で52名と、昨年度の51名とほぼ同じであった。一般選抜前期日程においては118名で、昨年度の90名からは増加し、志願倍率では目標である2倍以上を維持することができた。一般選抜後期日程の志願者についてはこのところ減少する傾向にあったが、昨年度は193名と大幅に増加し開学時に次ぐ志願者数であった。今年度は103名と昨年度に比べれば減少したものの、この数はほぼ例年通りであった。このように、選抜試験全体では総計273名と例年通りの入学志願者を確保することができた。

### 4) 大学入学者選抜方法の見直しについて

令和2年度の実施に向け、昨年度に引き続いて大学入学者選抜の見直しを行い次の成果を得た。

①大学入学者選抜の見直しに関して、令和3年度(2021年度)大学入学者選抜の予告・公表を行なった。

②新たな大学入学者選抜について、本県内及び近隣県の高等学校を対象とした説明会を、昨年度と同様に本学をはじめ松本市と長野市の、合わせて3つの会場で実施した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

#### 1) 高大接続システム改革会議「最終報告書」を受けての大学入学者選抜試験改革

高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革を行う。これにより新たに導入される入学者選抜は令和2年度から実施することが求められており、昨年度と同じく今年度についても具体的な選抜方法等についての予告・公表を行なった。来年度はさらに具体的な実施案を取りまとめ、実施に向けた準備を始める必要がある。

## 2) 編入学試験制度の廃止とそれに代わる入学者選抜の検討

本学では編入学試験を平成26年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。これに代わる新たな選抜試験、並びに各選抜試験にかかる募集定員数の配分見直し等についての検討を行なって、なるべく早期に編入学試験を廃止することになる。これに伴い新たに導入する選抜試験については、前述した大学入学者選抜試験改革のスケジュールに合わせての実施を目指し、9月に公表した入学者選抜実施案にすでに組み入れた。したがって、編入学試験の廃止に向けた準備と手続きを、早々に開始する必要がある。

## 3) 入学志願者の確保について

本県の医療に貢献していく看護職者を輩出していくためには、如何にして優れた学生を多く確保するかが重要となるが、このためにはより多くの入学志願者を集め、試験の倍率を高く維持することが必要である。このところ本県はもとより全国的に看護学部の新設が相次いでおり、その傾向は今後も続くことが予想される。長期的には本学においても今後志願者数の減少が懸念されることから、対応策を引き続き検討していくべきであると考えられる。

## (2) 将来的な課題

### 1) 看護学部の新設を見据えた志願者確保のための対応策

今年度は長野市内に2つの看護学部が開学された。このことは、本学の入学志願者数へ、今後少なからぬ影響を与えることであろう。来年度からの入学試験状況を注視しつつ、志願者確保のための対応策をこれからも模索していく必要がある。

### 2) 選抜試験成績と入学後の学業成績との相関（各選抜試験別の追跡調査）

現在実施している入学者選抜の適確性を評価し、その改善点等を探っていくためにも、入学後の学業成績と選抜試験成績との相関を検証すべきであると考えられる。

### 3) 面接試験における評価の点数化

本学の入学者選抜で行なわれている面接試験においては、その評価の明確な点数化が行われておらず、合否を総合的に判断するための一つとして採用されている。評価を点数化し、合否の判定に関わる総合点に加えることを考慮しても良いのではないか。

### 4) 推薦入学者の質を確保するための方策

推薦入学試験で実施されている評価は、英語試験を含む小論試験と面接試験とによる。出願の際の要件として一定以上の「評定平均値」を求めているが、志願者の有する基礎学力を測るための指標として、これらの試験科目や「評定平均値」が果たして適当であり得るのか。一般選抜の合否判定では大学入試センター試験の成績も利用しており、入学者の基礎学力はこうした客観的な指標によって評価されている。一般選抜の合格者と同程度の基礎学力を身につけた入学者を確保するためには、推薦入試において何らかの方策を新たに導入する必要があるのかもしれない。

## 第6節 図書委員会

### 1 所掌事項

#### ①図書の整備及び購入計画に関すること

- ②図書館の運営に関すること
- ③学内情報処理に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

委員会で審議、報告された議題は以下の通りである。

期日	主な審議事項	
4月24日(水)	1. 平成30年度図書館活動報告 2. 新規購入図書について	3. 図書館規程の見直し、および修正 4. 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会について
5月21日(火)	1. 平成29-30年度決算及び令和元年度予算案について 2. 新規購入図書について	3. 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会について 4. 国立国会図書館送信資料の利用開始について
6月26日(水)	1. 新規購入図書について 2. 国立国会図書館送信資料について	3. 図書館天窓修理について
7月25日(木)	1. 新規購入図書について	2. 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会について
9月9日(木)	1. 新規購入図書について 2. 2019年洋雑誌の購読について	3. 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会について 4. 図書館設備環境の整備について
10月9日(水)	1. 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会開催報告	2. 新規購入図書について 3. 除籍図書について 4. 図書館システムの更新について
11月6日(水)	1. 新規購入図書について 2. 除籍図書について	3. 図書館システムの更新について
12月11日(水)	1. 新規購入図書について	2. 図書館システムの更新について
1月16日(木)	1. 新規購入図書について 2. 図書館システムの更新について 3. 2020年度図書開館案について	4. 2020年度和雑誌購入について 5. 2020年度電子ジャーナル・データベースの契約について 6. 除籍図書について
2月12日(水)	1. 新規購入図書について 2. 和雑誌購入、除籍図書、図書館システムの更新について報告	3. 閉架庫の操作機器の老朽化について

### (2) 成果

- 1) 図書館開館計画の策定と図書館所蔵資料の廃棄・除籍など、円滑な図書館の運営を行った。

- 2) 書籍、購読雑誌及び電子ジャーナルの選定など、図書館予算の適正な執行を行なった。
- 3) 図書館システムの更新を11月下旬に行なった。作業日等、周知し、サービス業務に関しては問題なく終了した。司書による作業に関して、システムの動作が不安定な部分もあるため、今後も業者と連携して改善していく。
- 4) 第31回日本医学図書館協会北信越地区研修会を9月27日に開催した。参加者は、学外、学内含め、講演1（講師：座馬准教授）20名、講演2（講師：医学中央雑誌データベース事業部）22名であり、好評を得た。
- 5) 本年度より国立国会図書館のデジタル資料送信サービスの利用を開始した。利用開始に伴う図書館規程の改定を行なった。
- 6) 図書館の天窓の修理について働きかけ、事務局で適切な対応がなされた。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 年々電子ジャーナル・データベースの価格が高騰しており、来年度はEBSCOの同時アクセス数を1にすることで、差額を他の契約の上乗せ分に充てるなどの対応をするが、引き続き、状況を確認していく必要がある。
- 2) 図書館システムの更新を行い、サービス業務は維持できているが、システムにまだ不安定な要素があるため、今後も対応していく。
- 3) 蔵書が増加し、保管の継続が困難な状況が続いている。除籍資料について検討し、状況の改善に努めたが、引き続き対応が必要である。
- 4) 館内のAVルームの機器が老朽化している。確認作業を行い、現在4台のブースが稼働しているが、更新に向け、引き続き大学に対応を求める。
- 5) 本年度、天窓の修理は終了したが、雨漏りは図書館にとって重大な問題である。図書館の天井の保守、点検を維持していく必要がある。
- 6) 閉架庫の操作機器も老朽化し、操作中に事故が発生しかねない状況であるため、大学に対応を求める。

#### (2) 将来的な課題

PsycINFOの契約を平成28年度に中止し、図書館経費の大幅な削減を実現して以降は大幅な削減が難しい状況ではあるが、少額であっても図書館経費の削減に向け、今後も努力していく。限られた予算をどのように活用し、現在の図書館機能をいかに維持していくかについて、引き続き検討が求められる。

## 第7節 紀要委員会

### 1 所掌事項

- ① 紀要に関する事項について調査及び審議すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

委員会開催日は以下の通りであった。

- 1) 第1回：平成31年4月24日（水）

- 2) 第2回：令和元年5月21日（火）
- 3) 第3回：令和元年6月26日（水）
- 4) 第4回：令和元年7月25日（木）
- 5) 第5回：令和元年9月9日（木）
- 6) 第6回：令和元年10月9日（水）
- 7) 第7回：令和元年11月6日（水）
- 8) 第8回：令和元年12月10日（火）
- 9) 第9回：令和2年1月16日（木）
- 10) 第10回：令和2年2月12日（水）
- 11) 第11回：令和2年3月9日（月）
- 12) 第12回：令和2年3月24日（火）

委員会においては次の事項を実施した。

- ① 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリスト・原稿テンプレートの見直し
- ② 編集担当マニュアルの検討
- ③ 平成30年度紀要原稿の募集日程の決定
- ④ 平成30年度紀要編集・発行日程の調整
- ⑤ 紀要原稿の査読者と編集担当者の決定
- ⑥ 紀要原稿の査読結果の取り纏めと修正論文等の進捗状況の確認
- ⑦ 採否決定
- ⑧ 編集作業（原稿確認、校正等）
- ⑨ 紀要の入稿・発行作業

## （2）成果

- 1) 長野県看護大学紀要の発行
- 2) 紀要投稿規定・原稿執筆要領・チェックリストの改訂。今年度は特に、短報の論文種別を独立させ、原稿枚数、査読者数を検討、決定し、投稿者の増加を図った。
- 3) 編集担当マニュアルの更新

## 3 今後の課題

### （1）喫緊の課題（懸案事項）

- 1) 紀要の編集、および、発行を円滑に行なうことが紀要委員会の第一義である。目的達成に向け任務を遂行する。
- 2) 本年度も引き続き、投稿規定・執筆要領・チェックリストを確認し、必要な改訂を行なったが、今後も確認、修正を行い、適正かつわかりやすい内容へ改善して、投稿者への浸透を図り、より円滑な編集作業が進められるよう、検討を要する。
- 3) 本年度は、比較的投稿が容易な短報の種別を独立させ、また、締め切りの延長を行なうなどして、投稿者の増加を図ったが、投稿者の減少傾向は続く可能性がある。今後も状況を確認し、対応を検討する必要がある。

### （2）将来的な課題

近年、論文執筆においても、研究者倫理規範を修得し遵守することが求められるようになってきている。従来、論文執筆における倫理的な不文律は当然存在するが、編集作業時に参照できるような一定の基準の整備を視野に入れておくことが、より質の高い紀

要の発行に繋がると考えられる。

## 第8節 学生委員会

### 1 所掌事項

- ①学部及び大学院の学生の生活指導及び援助に関すること（新入生オリエンテーションに関することを含む）
- ②学部及び大学院の学生の課外活動に関すること
- ③学部及び大学院の学生の健康管理，健康相談及びカウンセリングに関すること
- ④寄宿舎及び寄宿生に関すること
- ⑤奨学生に関すること
- ⑥学部及び大学院の学生の就職に関すること
- ⑦その他学部及び大学院の学生の厚生に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

開催日	活動内容
第1回 4月8日	第108回看/第105回保/第102回助国家試験合格状況・令和元年度新入生オリ実施状況,キャリア・進路の支援体制について・令和元年度学生委員会活動の役割分担/令和元年度前期の委員会開催日の決定
第2回 5月13日	第1回進路希望調査(3年生)・令和元年度卒業予定者の進路情報・令和元年度新入生アンケート及び聞き取り結果(新入生・在学生・教職員)・平成30年度保健室年報・国試問題集の配布・キャリアガイダンスⅠ/Ⅱの企画内容,講師について・学生へのボランティア保険紹介について・学長賞について
第3回 6月17日	令和元年度キャリアガイダンスⅠ報告・キャリアガイダンスⅡの実実施計画報告・3年生への県職のインターンシップの情報提供について・令和元年度団体/サークル届の報告・新入生オリエンテーションの決算報告・鈴風祭の進行状況・学長提案による学長賞ならびに新入生と地域との交流活動に関する検討
第4回 7月1日	令和元年度卒業予定者の就職内定状況・令和元年度長野県内市町村保健師採用合同説明会準備状況・キャリアガイダンスⅡ準備状況/キャリアガイダンスⅢの講師の提案・3年生の保健師インターンシップの申請確定状況・令和元年度鈴風祭の準備状況及び検討課題・防犯に関する啓蒙ポスターの作成について・新入生と地域との交流活動に関する学長提案検討(目的・予算・人員への検討)
第5回 9月2日	「新入生と地域との交流活動と学長賞」に関する学長による説明(2回目)及び協議・卒業予定者内定状況/キャリアガイダンスⅡの実実施状況・鈴風祭の進行の状況・保健師採用合同説明会の実施計画・令和元年度第1回看護師模試自己採点結果報告・令和元年度公務員試験対策ガイダンス実施計画・国試特別補講の講師打診について・後学期学生委員会開催日程の協議
第6回 10月23日	卒業予定者内定状況/公務員試験ガイダンスの状況・令和2年度新入生オリ実施計画・保健センターへの情報提供に関する報告・新入生行事(新入生が学ぶ地域事情)について(次年度への検討としての引き継ぎ)・11/19教授会への学長賞に関する委員長報告の内容
第7回 11月27日	国試模試(看護師2回目,保健師1回目)の自己採点結果・教授会での学長賞報告(学長との会談)・インターンシップの紹介に伴う次年度キャリアガイダンスⅢの内容追加・年度教務ガイダンスの見直しに関して

第8回 12月11日	国試模試看護師2回目, 保健師1回目の最終結果・学長賞に関する経緯報告・令和2年度新入生オリエンテーション計画(スケジュール・準備の確認)・キャリアガイダンスⅢの実施予定・令和元年度国試特別補講案の日程の最終決定
第9回 1月22日	国試補講スケジュール確認・保健師模試受験状況報告・第3回看護師模試の自己採点結果報告・国試合否対策会議のメンバー決定・令和2年度新入生オリエンテーションの企画(自治会学生との合同会議の内容説明)・令和元年度キャリアガイダンスⅢ実施計画
第10回 2月12日	令和元年度キャリアガイダンスⅢ実施状況・令和2年度新入生オリエンテーションの企画概要について・令和2年度学生定期健康診断/教務/学生ガイダンスにおけるメンバーの役割確認・ハラスメント相談員の任命に関する報告
第11回 3月5日	国家試験自己採点結果の聞き取りについて・ボンボヤージュの内容検討・令和元年度アルバイト/ボランティア求人情報について・2階エレベーターホールの机椅子の設置について・令和2年度新入生オリエンテーションおよび企画運営資料の最終検討と開催中止の決定・令和2年度4/2~4/8ガイダンス関係・オリ準備の学生委員会の担当について最終確認

(2) 定例の委員会以外で学生委員会が中心となった会議・活動等

学生生活ガイダンス	平成31年4月4・5日 各学年に学生生活ガイダンスを実施 防犯講習会(1~4年生)消費生活セミナー
新入生オリエンテーション	平成31年4月3日(於:本学学内) 参加者:新入生, 在學生, 教職員
就職・キャリア支援関係	第6章第2節参照
市町村保健師採用合同説明会	令和元年9月7日実施
看・保 国家試験特別補講	1/22 計算問題対策:太田先生 1/22 感染学:中畑先生 1/24 疾病の成り立ちと回復の促進:喬先生 1/24 人体の構造と機能:三浦先生 1/28 疫学・保健統計学:秋山先生 1/28 薬理学:坂田先生 1/30 公衆衛生看護学:酒井先生, 御子柴先生, 安田先生
看・保・助 国家試験合否対策会議	令和2年3月19日 15:30~

(3) 成果

- ・学生生活ガイダンスを学年顧問と協力し, 各学年に対して実施できた。
- ・令和元年度新入生オリエンテーションは学内実施に転換してから4年目を迎える。学内(おもに体育館)でのプログラムを滞りなく実施し, 新入生オリエンテーションの目的である新入生どうし, 新入生と在學生および教職員の交流を図り, 新たな学生生活への移行と適応を支援することができた。
- ・キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲは, 医療機関や自治体から管理者や本学卒業生を招いて計画通り学年毎にほぼ全員の参加を得て実施することができた。
- ・ワーキングセミナーには新入生全員と, 入学式に参加した保護者の参加があった。
- ・令和元年度市町村保健師採用合同説明会を実施できた。長野県を含めて7自治体, 16名の自治体職員が参加した。鈴風祭初日にもかかわらず, 在學生や本学卒業生等も各県市町村のブースで相談を受けた。また, 県主催の保健師説明会をキャリアガイダンスⅡ及びⅢ終了後にそれぞれ開催した。各回で県以外に2自治体が来校し, 保健師を希望する学生が積極

的に参加した。

- ・令和元年度卒業生の国家試験合否状況は看護師 98.8% (9 月卒業生 3 名を含む) 助産師 100% 保健師 92.9% (9 月卒業生 3 名を含む) であった。保健師として就職が内定した者は全員保健師国家試験を合格できていた。
- ・既卒の看護師国家試験再受験者も看護師国家試験及び保健師国家試験に合格した。
- ・令和元年度卒業生の長野県内への就職率は 85 名中、55.4% であった。県内の中山間地域の保健師として、1 名が就職した。
- ・新入生オリエンテーションや鈴風祭、国試激励会などの機会を通じて、学生委員会と学生自治会とが連携することができた。
- ・公務員ガイダンスは、1, 2, 3 年生を中心として、20 名程度が参加した。講師（業者）からは「長野県内の保健師採用状況、本学の合否状況、採用試験実施状況」、「公務員試験対策心得」、また、4 年生で保健師内定者からのアドバイスを受けた。本学主催による公務員試験ガイダンスとして効果的であったので、今後も継続する必要がある。
- ・ハラスメント相談員について 2 名の教員（再任）と退任に伴う 1 名の教員（新任）の了承を得、教授会にて報告した。
- ・学内の空き机や椅子を利用して、教育研究棟 2 階エレベーターホールに、学生が自習やグループワークを自由に行える場所を作った。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

- ・2020 年度新入生オリエンテーションに向けて、2019 年 12 月より学生委員会と自治会学生とで、企画案の検討を重ねてきたが、1-3 月期の新型コロナウイルスによる感染症蔓延防止のための国・県の方針を勘案し、委員会で協議し、やむなく令和 2 年度オリ開催を中止とした。これのフォローとして 1・2・3 年次の各自治会役員学生が中心となり、学生委員会の教員と相談しつつ、新入生向けラインでの「先輩が答える長野県看護大学生活 Q & A（仮題）」といったものやサークル紹介の動画を作成し新入生を支えていこうとする動きがみられた。今後とも自治会と協力し、新入生の本学における円滑な学生生活のスタートを支援することが必要である。
- ・看護師国家試験については、100%合格を達成できなかった。学生委員会として、学年のカラーや気質を踏まえつつ、学年顧問の意見を参考にし、「国試ガイダンス・模試・就職支援員による面接・教員による補講・卒研ゼミでの個々の学生のモチベーションの確認（励まし）」の対策を継続して 100%合格をめざすことが必要である。また不合格者に対しては、進路相談を含め、令和元年度同様のきめ細やかな対策が必要である。
- ・県外の就職活動の出足の速さに連動して、本学の学生が就職を希望する主要な長野県内の病院（信州大学付属病院、伊那中央病院、長野市民病院、昭和伊南病院）も採用内定時期が早くなりつつある。その分、就活のストレスから 5-6 月期の専門領域実習に対して学生が集中できないのではないかという懸念も生まれている。保健室、学年顧問とも連携し、就職活動中の学生への心理面の支援等も考慮していく必要がある。また、令和元年度は、本学の県内の内定率が 60%を切った。実習関連施設をはじめ、県内施設の就職担当者との連絡を今まで以上に密にし、インターンシップなどの学生への情報提供を行いつつ学生を側面から支援していく必要がある。
- ・市町村保健師採用合同説明会は、自治体のニーズを検討しつつ継続する必要がある。また、「公務員試験ガイダンス」を継続させ、行政保健師を志望する学生に対する進路指導環境を整え、行政保健師の内定者をより多く確保する必要がある。
- ・2020 年度は学生アンケート調査の年であるため、これを進めていく。
- ・学長賞についての規程（案）と運営の素案が学長より学生委員会に提示された。今後、学長

からの教授会での提案を待ち、実施について、新年度に引き継いでいく。

## (2) 将来的な課題

- ・学長提案による「新入生の地域からの学び」については、2021年度4-5月期の実施を目指して、その検討を新年度に引き継いでいく。
- ・中山間地域において行政保健師確保に困難な市町村に、市町村保健師採用合同説明会を通じて、保健師確保支援の場を継続して提供していく。
- ・卒業予定者が保助看国家試験に100%合格でき、長野県内への定着率がこれまで以上に高まるように、引き続き各種の支援策を工夫し実行していく。

## 第9節 ネットワーク推進委員会

### 1 所掌事項

#### (1) ネットワーク環境維持・管理に関すること

- ①コンピューターネットワーク（以下「ネットワーク」という。）のデザイン策定と執行
- ②ネットワークにかかわる予算策定と折衝
- ③ネットワークにかかわる機器の購入・設置・設定
- ④ネットワークのセキュリティ対策
- ⑤ネットワーク関連機器の監視
- ⑥ネットワークに関するクレーム対応
- ⑦アウトソーシング業者の窓口
- ⑧メールアドレスの登録削除変更の学内側の窓口
- ⑨メールアドレス管理

#### (2) 情報公開・広報に関係すること

- ア 「長野県看護大学ウェブサイト管理運営要領」および「ガイドライン」に示される業務  
イ 大学ウェブサイト（広報関係）の制作主体

#### (3) IT啓発に関係すること

- ア 学内教職員、また学生向けの啓発活動

#### (4) その他委員会が必要と認める事項

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- ・委員会の開催6回と下記の活動を行った
- ・Google Appsの管理
- ・サイボウズの管理
- ・SSLVPNの管理
- ・人事異動に伴う各種アカウントの処理
- ・ESET およびSPSS ネットワークライセンスの認証サーバーの管理
- ・Firewall 機器管理
- ・バーチャルサーバー（インフォバレー及びGMOインターネット）の管理
- ・ドメインの管理（nagano-nurs.ac.jp および.com）
- ・大学ホームページの管理
- ・ホームページによる広報
- ・DHCP サーバーの管理
- ・新任教職員へのメール・サイボウズ等の使用方法のガイダンス
- ・新入生等へのメールの使用およびスマホでの受信ガイダンス
- ・領域別実習の全体オリエンテーションでのメール受信状況確認
- ・大会義室と図書館の無線LANの管理

- ・大学院生室1から4の無線LANの管理
- ・大学院生室1から4のネットワークプリンターへの接続サポート
- ・上記以外の各種個別ガイダンスやサポート

○委員会構成の変更や離職などにもなう異動により、継続して委員会内に在籍する委員に集中して負担がかかる仕組みとなっていたが、本年度はさらにメール関係の作業内容の見直しを行い、簡素化したことで、さらに無駄な作業を減らすことに成功した。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

近年、教育機関への標的型の攻撃等、インターネット関連の脅威が増大しており、セキュリティ対策の充実と、管理・運用に高度な技術が求められている。平成30年度の大学評価では保守に精通した実務的処理担当者または委託先の選任が求められることとなった。その対応として、今年度は、まず管理体制の状況確認を行った。その結果、DHCPサーバー・ファイアウォール等の機器が旧式化し、また購入後のサポート期間が終了していたため、機器の更新を行う必要性が確認された。そのため、今後は、インターネット関連機器について、これまでの買い取り形式をやめ、業者と関連機器についてリース契約を結び、管理に関して業者から全面的にサポートしてもらう体制をとることとした。大学評価への対応としてはさらに日常の管理運営やセキュリティ面についても、サポート契約において、常時必要な助言を得るほか、障害発生時には即座に対応を委託する体制を作ることとした。この契約について、見積もりを作成し県に予算請求した。

#### (2) 将来的な課題

グループウェアとしてサイボウズを運用しているが、レンタルサーバーでのバックアップ体制の構築が課題である。しかし実際のところ、講義室などの施設予約と、ファイル共有サービスのみが運用中であるため、オーバースペックとなっており、費用対効果の面での問題もある。また新サービスへの移行は使用者である教職員に、データ移動や操作方法の習得等の負担を生じさせることが障害となっている。慎重に情報を収集し未だ検討中である。民間の無料サービスの採用は、セキュリティ面の問題があり、保留している。

また、ホームページについても、今後、デザイン、機能面で刷新が必要と考えられる。なお、ホームページ管理運営要領には「ホームページの管理に必要な実務を大学の事務局が代行」、「大学の広報として公開するドキュメントは大学の事務局が作成するものとする。」と定められている。しかしながら短期間の異動の多い事務職員では難しい現状が続いている。

## 第10節 FD・SD委員会

### 1 所掌事項

- ①教員の教育能力開発に関すること
- ②研究能力の開発に関すること
- ③カリキュラム開発への協力に関すること
- ④授業改善に関すること
- ⑤教職員の職務遂行能力の開発に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

第1回／平成31年4月8日(月)

- ① 第15回研究集会(昨年度)の総括、次年度の開催日の検討
- ② 新任教職員オリエンテーションの報告
- ③ 昨年度の教員相互による授業参観状況とアンケート結果の報告
- ④ 今年度の活動計画および役割分担

第2回／令和元年5月16日(木)

- ① 教員相互による授業参観：今年度の企画
- ② 第16回研究集会の企画と運営計画  
開催日は令和2年度3月18日(水)
- ③ 若手教員の研究支援の企画検討  
若手を中心としたFD研修会を企画、8月23日に開催

第3回／令和元年6月19日(水)

- ① 2019年度FD研修会の企画：前半の講師は安田研究科長、後半はグループディスカッション
- ② 研究集会の企画：今年度も若手教員の研究交流コーナーを継続

第4回／令和元年10月15日(火)

- ① 2019年度FD研修会の総括
- ② 研究集会の企画・運営の準備  
運営計画(案)の確認、演題登録のご案内用紙確認、演題分類、案内の発送先等の検討
- ③ 教員相互による授業参観：実施状況の確認、未参加教員の対策(教授会再度案内など)
- ④ 新任教職員へのオリエンテーション：企画中
- ⑤ 「研究交流サロン(仮題)」：研究集会にユニフィケーション事業との連携で新企画を試みるようになった。

第5回／令和元年12月17日(火)

- ① 研究集会の運営の準備
  - ・プログラム、発表者への案内文、エントリー状況等の確認
  - ・「研究交流サロン」の企画
- ② 教員相互による授業参観：安東委員の退職で担当は高柳委員と委員長のサポート

第6回／令和2年1月22日(水)

- ① 研究集会の運営
  - ・プログラム
  - ・役割分担の確認
- ② 次年度新任教職員オリエンテーションの準備状況の報告
- ③ 教員相互の授業参観の報告

第7回／令和2年3月10日(火)

コロナウイルス流行のため、中止した。

委員会の検討事項はメール会議などで賄うことで、一部の内容は追記となった。

- (ア) 研究集会の中止、抄録を以て紙面集会とする
- (イ) 新任教職員へのオリエンテーションの短縮、調整は担当の松本委員

- (ウ) 授業参観の報告（メール会議）
- (エ) 委員会年間報告書（メール会議）

## (2) 成果

令和元年度（平成 31 年度）は、以下の活動に取り組んだ。

### ① 長野県看護大学研究集会

開催予定日は令和 2 年 3 月 18 日となったが、新型コロナウイルス予防のため、抄録集による紙面集会となった。

### ② 令和 2 年度 新任教職員オリエンテーション

開催日時：令和 2 年 4 月 1 日（水）、3 日（金）

会場：長野県看護大学 管理棟 小会議室 2

対象者：新任教員 4 名，新任事務局職員 6 名

概要：新型コロナウイルス流行のため、例年より内容と時間を短縮して、実施。

内容は本学の理念，カリキュラム，システム，事務書類の手続き方法等について，各担当部署より説明を実施した。新任教職員が本学の一員であることを自覚し，新生活にスムーズに適応できることを目指して円滑に実施することができた。

### ③ 教員相互による授業参観

概要：今年度からは，各教員，年間最低 1 回を目標に大学全体で取り組んで来た。

結果として全教員 64 名中、34 名（53%）が参加された。アンケート調査（16 名提出）では役に立ったというポジティブな評価が多かったが，日程調整の困難や座席不足などの意見もあった。

しかし、昨年度 58 名中、54 名（93%）の参加状況と比較して、今年度の参加者が減少していた。日程調整の困難さなどが原因であると考えられる。

### ④ 若手教員への研究支援

今年度からの，若手教員への研究支援を行うために，研修会や研究集会への参加を通じて、研究への意欲を喚起するように努力した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題

若手教員への研究支援は継続して，研究の環境作りなどに活動していく。

### (2) 将来的な課題

大学の中期構想の若手教員への研究支援を中期に及ぶ課題で、更に検討する。また、「教員相互による授業参観」の参加者の増加策を検討すべき。

## 第 11 節 評価委員会

### 1 所掌事項

自己点検・評価及び第三者評価（以下、「大学評価」という。）に関し、次の事項について審議し、取り組んでいる。

- ア 自己点検・評価の企画及び実施に関する事項
- イ 第三者評価への対応に関する事項

- ウ 自己点検・評価の結果の公表に関する事項
- エ 大学評価の結果に基づく活用及び改善方策に関する事項
- オ その他本学の大学評価に関する事項

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

#### 1) 評価委員会

開催日	審議事項
4月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学評価結果について</li> <li>・大学評価結果に対する対応について</li> <li>・今後の内部質保証について</li> </ul>
7月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学評価結果（改善課題）への対応状況について</li> <li>・今後の内部質保証体制について</li> </ul>

#### 2) 授業評価小委員会

開催日	審議事項
11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30 後学期分の閲覧状況について</li> <li>・学生による授業評価結果（R 元前学期分）</li> <li>・教員コメントについて</li> <li>・全国学生調査（試行調査）について</li> </ul>
令和2年 3月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業評価結果（R 元後期分）</li> <li>・教員コメントについて</li> </ul>

### (2) 成果

- 1) 大学評価結果について検討を行い、内部質保証体制について検討を開始した。
- 2) 平成31年度活動内容を取りまとめた自己点検・評価報告書を作成し、関係者及び教職員に冊子を印刷して配布するとともに、外部への公表として本学ホームページに報告内容を掲載した。併せて、次年度の報告書作成のための準備等を行った。
- 3) 平成27年度から設置した「授業評価小委員会」を開催し、学生による授業評価結果や教員のコメント等を確認した。また、効果的な閲覧方法について検討し、ホームページへの掲載、学生掲示板に設置といった取り組みを実施した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

大学評価で示された改善課題については、2022年7月末までに改善状況を報告する必要がある。そのため、改善課題に対応する担当組織、期限等を決め、各組織で検討を行い、その検討状況・結果を評価委員会に報告し、委員会で確認・検討した上で、教授会に報告し、改善報告書を作成する必要がある。

### (2) 将来的な課題

大学評価でも指摘のあった、内部質保証を推進していくため組織の見直し等を行い、本学の内部質保障の在り方を検討していく必要がある。

## 第12節 倫理委員会

### 1 所掌事項

- ① 申請のあった人及び人に由来する試料を対象とした研究計画の審査
- ② 実施後の報告書の審査
- ③ 研究倫理教育に関すること
- ④ 公的研究費内部監査に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

- 1) 毎月第4火曜日に定例審査及び、倫理審査申請書の改訂や研究倫理教育研修の検討などの会議を計11回開催した。
- 2) 研究報告書の提出状況として、審査を受けた研究について実施状況を把握した。
- 3) 研究倫理教育の研修会を実施した。(令和元年9月10日(木)、15:30~17:00)
- 4) 内部監査チームによる公的研究費内部監査を実施した。(令和元年12月18日、13:30~、小会議室3、倫理委員会委員長、副委員長、教務・学生課長の3名)

#### (2) 成果

- 1) 定例の会議において申請のあった研究計画書の審査を行った。今年度申請件数は22件だった。そのうちの2件は迅速審査として審査した。承認となった研究計画書は16件でそのうち、「条件つき承認」となった14件の研究計画の修正再提出に対し、随時審査を行い承認とした。決定延期の4件のうち2件は再申請があり、承認された。不承認1件、研究の取り下げは1件だった(表1)。
- 2) 研究実施に関する報告については、前年度の審査を受け今年度研究を実施している52件の研究について研究実施に関する進捗状況の把握を行った。結果、「研究実施後の報告」提出は12件、「進捗状況の報告」4件、「期間延長の届け出」2件の計18件の研究計画書について報告を受けた。
- 3) 研究倫理教育の研修会を令和元年9月10日(月)に実施した。今年度は、研究実施における倫理的配慮のポイントについて、研究計画書を2事例(面接調査の研究計画書ならびに質問紙調査の研究計画書)示しながら確認する研修会を実施した。  
参加者は学内教員(大学院生を含む)51名、大学院生1名、外部参加者6名の参加を得た。また、資料のみ配布した対象者は教員1名、大学院生1名であった。また、研修記録USBの貸し出しを大学院生1名に行った。
- 4) APRIN(旧CITI Japan)によるe-Learningの受講修了については3年間の有効期限とすること、受講料については間接経費で賄うこととなった旨を確認し、学内へ周知した。またそれに併せて、学内教員ならびに大学院生の倫理審査申請時における研究倫理研修の基準についても見直した。
- 5) 学内向けの倫理審査に関するサイトを見直し、申請に必要な書類等の様式テンプレートを最新のものに変更した。
- 6) 承認した研究計画書についての外部からの問い合わせに対応した(1件)。

表1 令和元年度 倫理審査申請とその結果

月	申請 件数	承認	条件付き承認			決定 延期	不承認	備考
			承認	未確定	取下げ			
4	3	2	2	0	0	0	1	
5	1	1	0	0	0	0	0	迅速審査1
6	3	2	2	0	1	0	0	
7	2	1	1	0	0	1	0	
8	2	2	2	0	0	0	0	
9	1	1	1	0	0	0	0	
10	2	1	1	0	0	1	0	
11	2	1	1	0	0	1	0	
12	2	2	2	0	0	0	0	
1	3	2	1	0	0	1	0	迅速審査1
2	1	1	1	0	0	0	0	
3	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	22	16(条件付き承 認を含む)	14	0	1	4	1	迅速審査2

(令和2年3月25日現在)

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題(懸案事項)

- 1) 倫理審査にかかる倫理研修の要件として APRIN の条項を必須とし、その有効期限を3年とした。大学院博士後期課程の学生についても倫理審査への要件として APRIN の受講を必須と課しているため、教育環境整備という観点から受講料などの大学としての負担等の措置についての検討を教授会において提案した。
- 2) 教職員および大学院生を対象とした研修会では、どのような内容で開催すべきか検討する必要がある。倫理指針ガイダンスには「少なくとも年に1回程度は教育・研修を受けていくことが望ましい」とある。看護学分野における研究手法も様々なものが行われるようになってきたことを鑑み、多様な研究方法における倫理的な課題をテーマとして取り上げ研修会として企画していくことも必要である。

#### (2) 将来的な課題

- 1) 倫理委員会の構成メンバーは、現在外部委員を除いて7名であるが、この中で教授は1名であった。年間、多くの大学院生の研究計画書が倫理審査の申請に提出される。指導教員は審査に加わることができないことを考慮すると、構成員の中に教授が2名加わっていることが望ましいと考える。

## 第13節 ハラスメント防止委員会

### 1 所掌事項

- ハラスメント防止のための啓発活動に関すること
- ハラスメントの相談に関すること

- ハラスメントに起因する問題の解決及び被害の救済に関すること
- その他ハラスメントの防止等に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

- 1) 第1回ハラスメント防止委員会：令和元年5月7日（火）
  - ① 新規採用者及び学生へのガイダンスの実施報告をした。
  - ② 前委員会からの引継ぎ事情の報告をした。
  - ③ 今年度の委員会活動方針についてフリーディスカッションをした。  
(教職員のみでなく学生対象の研修会、夏冬の懇親会等の活動内容の再検討)
- 2) 第2回ハラスメント防止委員会：令和元年6月5日（水）
  - ① 学生向け研修会の計画をした。
  - ② 夏の教職員懇親会の計画を立てた（8月23日。ケーキ、お茶など）。
  - ③ 冬の教職員懇親会の計画を立てた（12月18日18時、生協食堂）。
- 3) 第3回ハラスメント防止委員会：令和元年9月2日（火）
  - ① 夏の懇親会の結果報告をした。
  - ② 学生向けハラスメント研修会の計画(講師、飯田女子短期大学黒岩長造教授)。
  - ③ 教職員向け研修会に関しては、研修会というよりも職務満足度調査をして次年度委員会に引き継ぐことを決めた。その代わりに学生向け研修会に教職員の参加を呼び掛けることにした。
- 4) 第4回ハラスメント防止委員会：令和元年11月6日（水）
  - ① 学生向けハラスメント防止研修会(1月27日2限)の準備状況報告をした。
  - ② 忘年会の打ち合わせをした。
  - ③ 職務満足度調査・本委員会活動アンケートの準備について報告した。
- 5) 第5回ハラスメント防止委員会：令和2年1月22日（水）
  - ① 学生向けハラスメント防止研修会の準備状況を報告した。
  - ② 忘年会収支報告をした。
  - ③職務満足度・本委員会活動アンケートの計画。調査期間：2月10日～2月21日
- 6) 第6回ハラスメント防止委員会：令和2年3月5日（木）
  - ① 相談事例1件あり、その対応を協議した。本件は3月中旬に終了した。
  - ② 「学生向け研修会のアンケート」「職場満足度調査」「本委員会活動評価アンケート」の結果を検討した。
  - ③ 前年度及び本年度の相談員相談件数を報告した。
  - ④ 次年度ハラ防リーフレットの報告をした。

### (2) 成果

- 1) 新規採用者及び学生へのガイダンス
 

平成31(令和元)年度の新規採用教職員及び学生を対象とし、ハラスメント及びその防止に関する本学の対応を説明した。何か問題が生じたときの相談窓口が複数あることを周知できた。
- 2) 夏と冬の教職員懇親会の実施
 

夏の懇親会は8月23日16時半～18時に第1第3共同研究室の2会場で職位を分けて行い、ケーキとお茶を提供した。職位別にした理由は、異なる分野間でのコミュニケーションを促進するためであった。34名参加したが、概ね好評であった。冬の懇親会(忘年会)は12月18日に生協食堂で行った。大人37名、子供も5名参加し、参加者からはアットホームな雰囲気だったという感想もあった。
- 3) 学生向けハラスメント研修会の実施(1月27日2限目)

講師は飯田女子短大の黒岩長造教授。ハラスメントとは何か、どのように解決するかを論じてもらった。学生を対象とした研修会は初の試みだったが、教職員の参加も多かった（学生 51 名、教職員 30 名の参加）。学生・教職員共に好評だった。

#### 4) 教職員職務満足度調査の実施

委員会の議論の中で、講師を招いてのハラスメント研修会も重要であるが、現在の教職員の職務満足度を調査し、教職員の潜在的なニーズや問題を明らかにし、次年度に引き継ぐことが重要ではないかという意見があり、調査を実施した。その結果、全体的に職務満足度が低いということが明らかになった。特に、教授や管理職を対象とした研修会が必要ではないかという意見が複数あった。

#### 5) 本委員会の本年度活動に関するアンケートの実施

本年度の委員会活動に関して、教職員の意見を頂いた。学生向け研修会や職務満足度調査など、新しい企画を行ったが、概ね好評価であった。懇親会に関しては、子供が参加してアットホームな雰囲気でも好評であったが、学内ではなく学外が良いなどの意見があった。アンケートは今後も機会を見つけて行い、教職員や学生の意見を常に確認する方が良いと思われる。

### (3) ハラスメント事案の対応 1 件

2 月下旬にハラスメントの相談があった。最初に相談員 2 名が個別相談を行った。その後委員会内で対応を協議したところ、情報把握の必要性があり、相談員 1 名と委員長 1 名で再度面談することになった。面談の結果、相談者は「通知」を希望したので、規定に基づき、委員長が 3 月中旬に「ハラスメントを行ったと思われる」相手に「通知」を行った。その後、委員長は相談者と再度面談し、「通知」した結果を報告し、「手続き終了の通知」を渡した。本人は通知を受け取り、事案対応の手続きは終了した。

## 3 今後の課題

### (1) 喫緊の課題（懸案事項）

ハラスメント対策ガイドラインを実際に運用する際に必要となる書式や書類、および具体的なマニュアル等の更なる整備が必要である。具体的には、ハラスメント事案への対応を申し立てる際の手続きに要する書式や、マニュアルでは対応できない場合の対策を準備する必要がある。

ハラスメント防止に関し、教職員および学生の意識を更に高めていくために、従来の研修会や懇親会等だけではなく、職務満足度調査や本委員会活動への直接的なアンケートなどによって、教職員の潜在的なニーズや不満を引き続き明らかにしていく必要がある。特に、教授や管理職の研修強化や意識改革が重要である。

### (2) 将来的な課題

ハラスメント防止のための効果的な活動内容を再検討する。ハラスメントに関して、年間で数件程度の相談がある。しかし、表面化しにくい潜在的なハラスメント、あるいは本人に自覚のないハラスメントがあることも否めない。そのことを問題として認識し、教職員・学生の間で共有し合い、相互に理解を深め合うためにどうすべきか、そして委員会としては、ハラスメントを予防するために、あるいは問題が起こった場合にどのように効果的に対応すべきか、具体的な方法論を検討しなければならない。

また、潜在的な問題があっても相談しにくい環境もあるため、学外者も含めた第三者委員会の設置等による環境整備を検討していく必要がある。

## 第 14 節 動物実験委員会

### 1 所掌事項

- ① 動物実験計画書の申請及び審査に関すること

- ② 動物実験の適正な実施及び結果に関すること
- ③ 動物実験の施設及び飼養に関すること
- ④ 実験動物慰霊祭の実施に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動

- 1) 動物実験に係る教育訓練：令和元年4月16日  
信州大学基盤研究支援センターの松本清司先生を講師としてお招きし実施した。
- 2) 長野県立大学からの訪問：令和元年5月14日  
動物実験担当者2名の来訪があり、委員長、喬委員、小笠原さんが対応し、説明を行った。
- 3) 第1回動物実験委員会：令和元年7月30日
  - ① 動物実験の受講を証明する書類の要請が参加者からあり、委員長が作成し、承認された。
  - ② ホームページ（「研究倫理」内の自己点検・評価報告書など）と、「サイボウズ」（議事録の整理など）の更新を、秋山副委員長に依頼した。
  - ③ 第7回動物慰霊祭の実施について話し合い、日程の調整が行われた。委員長から学長に照会し、決定することとした。
  - ④ 動物実験計画書の審査（1件）を行った。
  - ⑤ 動物実験計画の変更の申し出があり、各委員に諮った上で、委員長が承認。その後、学長の承認も得た。
- 4) 動物実験に係る教育訓練：令和元年7月7日  
喬委員により客員研究生に対して行われた。
- 5) 第7回実験動物慰霊祭：令和元年11月21日  
例年と同じように、北山学長挨拶、黙祷、献花、喬実験責任者挨拶の順に行われた。来年度からは、献花のあと、学生からの挨拶を実施することを決めた。学生の選別は喬委員に依頼した。また、慰霊祭の概況は、秋山副委員長によりホームページにアップされた。
- 6) 第2回動物実験委員会：令和元年12月5日
  - ① 動物実験計画書の審査（1件）
  - ② 当該年度における最後の委員会で提出すべき書類について確認を行った。
- 7) 第3回動物実験委員会：令和2年3月10日
  - ① 年度末に係る書類（苦痛度の集計表、動物実験室環境記録、飼養実験動物数・動物実験等の成果についての報告書、実験動物の飼養及び保管に関する記録、動物実験報告書、動物実験の自己点検票、動物実験に関する自己点検評価報告書、動物実験委員会活動報告など）の確認を行った。
  - ② 動物実験計画書の審査（3件）

### (2) 成果

- 1) 動物実験計画書の審査と委員会による承認
- 2) 動物実験に係る教育訓練の実施
- 3) 実験動物慰霊祭の実施
- 4) 動物実験に関する環境の整備及び各種情報のホームページでの公表

## 3 今後の課題

- (1) 喫緊の課題（懸案事項）
- (2) 将来的な課題  
動物実験の成果をさらに公表していくように努める。

## 第15節 感染症対策委員会

### 1 所掌事項

- (1) 本学におけるインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症発生の予防と対応に関すること
- (2) 感染症に関する情報の収集、調査に関すること
- (3) その他感染症に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

##### 1) 委員会での審議、感染症予防活動等

年 月	内 容
平成31年4月	ガイダンスにおいて学生に本学における感染症対策を周知
令和元年5月	国内での感染情報に基づき、麻疹について啓発
7月	夏休みを前に、海外感染症について啓発 実習にむけて、風疹、麻疹、B型肝炎などの抗体価陰性者への注意喚起
9月	結核週間に合わせ、啓発
10月	インフルエンザ予防策（予防接種）について情報提供（掲示）
11月	インフルエンザ予防対策指導（掲示）
11月26日	第1回委員会 実習中の感染症発生事案の検証と対応策の検討
12月	世界エイズデーにあわせエイズ・性感染症啓発（掲示）
12月18日	第2回委員会 学生便覧・実習要項の感染症に関する項目について検討 百日咳、インフルエンザの予防接種について 「長野県看護大学履修規程」の改訂について
12月～ 令和2年3月	インフルエンザ・感染性胃腸炎について注意喚起、予防対策指導（掲示・メールにて実施）新型コロナウイルス感染症の注意喚起、予防対策指導
2月6日	第3回委員会 新型コロナウイルス関連で国際実習について検討 学生便覧の内容追加について

##### 2) 感染症発生時の対応（感染者の把握・情報収集と対応）

年 月	内 容
令和元年5月	感染性胃腸炎の学生1名に保健指導
6月	感染性胃腸炎を疑う学生2名に保健指導
10月	流行性角結膜炎の学生1名に保健指導
12月	インフルエンザの学生3名、感染性胃腸炎を疑う学生1名に保健指導
令和2年2月1日	インフルエンザの学生8名に保健指導
2月2日	インフルエンザの学生1名に保健指導
	<b>【出席停止件数】</b> 感染性胃腸炎疑い： 4件 インフルエンザ： 12件 流行性角結膜炎： 1件

## (2) 成果

- 1) インフルエンザ・感染性胃腸炎疑いと診断された学生に対し、保健指導を行った。特に感染性胃腸炎疑いの学生には、具体的な助言を行った。また、学内で嘔吐が発生した事例では、消毒対応を実施し、その結果、新たな感染の拡大はなかった。
- 2) 新年度入学者に対する小児ウイルス感染症の入学前の抗体価検査勧奨が4年目となった。新しい進め方が、学内全体に定着してきた。
- 3) B型肝炎の予防接種について、昨年度から変更した手順で実施し、今のところ、問題はなく進んでいる。
- 4) 実習施設内における本学学生の感染症発症について、経緯や要因を検証し今後の対応策等を決定した。
- 5) 本学学生への百日咳ワクチン接種の勧奨について、具体的な実施計画を策定し、一部の学生には説明会の実施や文書による周知を行なった。
- 6) 学生便覧、実習指導要項の感染症に関する項目を見直した。
- 7) 新型コロナウイルス感染症に関して、チェックシートによる健康状態の把握等、学内での対応方針を作成した。

## 3 今後の課題

- (1) 学部学生及び大学院生・教職員に対し、有症状時の受診や出席停止等について引き続き周知を徹底していく。
- (2) B型肝炎予防接種の手順を変更したが、過渡期なので経過を確認し、手順を見直していく。
- (3) 令和2年度より、新入生に百日咳の予防接種を勧奨する。それに合わせて、在校生にも予防接種を勧奨する。(日本環境感染学会のワクチンガイドライン改正に先駆けて実施)
- (4) 令和2年度より、学部3年生へのインフルエンザ予防接種を導入するので、方法などの検討が必要。
- (5) 新型コロナウイルスに対しては、今後も発生状況や、国・県の動向に応じて、学内の対応方針など体制を整備していく。

## 第16節 コンソーシアム信州運営

### 1 所掌事項

委員会の所掌事項を定めた学内規定等はない。設置の目的は、「高等教育コンソーシアム信州（事務局信州大学）に加盟している本学が、加盟大学としてコンソーシアムが連携して行う企画・活動に参加し、それらが円滑に行われる様、運営にも携わること」とし、事実上の暫定的な所掌事項として下記の項目を挙げる。

- (1) 高等教育コンソーシアム信州の推進チーム会議に関すること
  - 1) 推進チーム会議及び部会への出席と、本学窓口としての協議
  - 2) 遠隔授業等の発信及び受信（受講）に関する事項
  - 3) 10大学合同キャンプの運営・学生勧誘に関する事項
  - 4) 長野県内大学単位互換制度の本学窓口としての事項
  - 5) その他、高等教育コンソーシアム信州の活動に関すること

- (2) 高等教育コンソーシアム信州の学生支援部会に関すること
  - 1) 学生支援部会への出席を本学学生委員会に要請
- (3) その他必要と認める事項

## 2 活動と成果

- (1) 推進チーム会議および担当者会議
  - 1) 第1回：平成31年4月16日（火）10：40～11：30  
推進チーム会議後の担当者会議の主な内容
    - 推進チーム会議の構成について
    - 県内10大学合同学生キャンプの学内準備状況と募集方法
    - 2019年度教員免許更新講習担当者・予定日時等の確認
  - 2) 第2回：令和元年6月19日（水）9：00～10：30 推進チーム会議のみ出席
  - 3) 第3回：令和元年10月16日（水）9：00～10：30 推進チーム会議のみ出席
  - 4) 第4回：令和元年12月18日（水）9：00～10：30 推進チーム会議のみ出席
  - 5) 第5回：令和元年2月19日（火）9：00～10：30 推進チーム会議のみ出席
- (2) 成果
  - 1) 本学内での教員免許更新講習会が今年も開催され、7月29日（喬教授）、8月1日（屋良准教授）の2つの講座を開設、それぞれ29名、16名 計45名の小、中、高等学校の教員が受講された。
  - 2) コンソーシアム主催の学生共同募集PR事業を行った。
  - 3) コンソーシアムで対応している学生支援事業をPRした。

## 3 今後の課題

- (1) 喫緊の課題（懸案事項）

コンソーシアムの学生支援事業・参加型企画に本学学生が積極的に参加するための周知が必要。
- (2) 将来的な課題  
高等教育コンソーシアム信州について、組織の見直しが予定されており、新組織の形態や内容に対応した関与が必要となってくる。

## 第17節 防災委員会

### 1 所掌事項

「本学防災委員会規程：平成26年4月1日」に基づき、次の事項について調査及び審議する。

- 1) 学生及び教職員の防災及び減災意識の向上に関すること
- 2) 災害発生時の対応策に関すること
- 3) 大学施設の防災及び減災に関すること
- 4) 地域との防災及び減災の連携等に関すること
- 5) その他防災及び減災に関すること

## 2 活動と成果

### (1) 委員会活動 等

#### ①委員会の開催

	開催日	主な審議事項
第1回	6月1日(水)	1. 令和元年度の活動目標と計画について 2. 役割分担と業務概要について 3. 防災マニュアルの見直しの必要内容の確認 4. 令和元年度の各防災訓練実施日の決定 5. 防災ガイダンスの振り返り 6. 安否確認訓練結果について
第2回	7月2日(火)	1. 駒ヶ根市地域防災訓練について 2. 自衛消防隊第1回班長会議について 3. 防災マニュアルについて 4. 令和元年度災害看護学会への参加について
第3回	8月2日(水)	1. 情報伝達訓練について 2. 駒ヶ根市地域防災訓練について
第4回	10月24日(木)	1. 駒ヶ根市地域防災訓練結果報告 2. 情報伝達訓練結果報告 3. 消防防災訓練について 4. 第21回災害看護学会の参加報告 5. 令和元年度健康づくり研究検討会への演題応募
第5回	12月24日(火)	1. 消防防災訓練結果報告 2. 第5回避難所・避難生活学会参加報告 3. JANPU 主催災害フォーラム参加報告 4. 長野県看護大学研究集会への登録演題について
第6回	2月20日(木)	1. 令和元年度活動の振り返り 2. 令和2年度防災関係ガイダンスについて
第7回	3月23日(月) メール会議	1. 令和元年度自己点検・評価報告書について 2. 教務ガイダンスについて

#### ②ワーキングの実施

	開催日	
第1回	6月25日(火)	1. 地域防災訓練の企画 2. 自衛消防隊班長会議の企画 3. マニュアルの製本について
第2回	7月10日(水)	1. 地域防災訓練の自治会との打ち合わせ内容検討 2. 自衛消防隊班長会議の実施報告

第3回	7月24日(水)	1. 地域防災訓練内容確認、詳細検討 2. 地域防災訓練チラシ検討
第4回	8月19日(月)	1. 地域防災訓練内容確認、指導方法案検討 2. 地域防災訓練必要物品確認 3. 地域防災訓練アンケート検討
臨時	8月24日(金)	地域防災訓練準備
臨時	8月28日(水)	情報伝達訓練進行表、ACの検討
第5回	9月20日(金)	1. 地域防災訓練の振り返り 2. 情報伝達訓練の振り返り 3. 消防防災訓練の企画
第6回	10月29日(水)	1. 消防防災訓練の企画(全体、進行表、作業確認)
臨時	11月6日(水)	見直し修正
臨時	11月8日(金)	AC、状況設定カード設定、展示物品準備
臨時	11月13日(水)	展示準備
臨時	11月15日(金)	消防防災訓練準備

### ③訓練の実施

令和元年8月25日(日) 駒ヶ根市地域防災訓練

令和元年9月3日(火) 情報伝達訓練

令和元年11月15日(金) 消防避難訓練

令和元年5月20日(月)、令和元年9月3日(火) 安否確認訓練

### ④その他

令和元年9月5日(木)～7日(土) 災害看護学会参加

令和元年12月6日(金)7日(土) 避難所・避難生活学会参加

## (2)成果

①駒ヶ根地区防災訓練 令和元年8月25日(日) 参加者:住民45名 教職員16名

②情報伝達訓練 令和元年9月3日(火) 参加者:35名

③消防避難訓練 令和元年11月15日(金) 参加者:169名

④安否訓練 令和元年5月20日 57.9%、令和元年9月3日(火)63.8%

(台風19号発生時 令和元年10月13日 99.3%)

## 3 今後の課題

### (1)喫緊の課題(懸案事項)

#### ①情報伝達訓練、消防避難訓練のあり方の見直し

これまで消防避難訓練は情報伝達訓練の内容も入れながら実施してきた。本年も同様に11月の消防避難訓練に情報伝達を入れながら実施した。しかし、主催側(本部)の混乱が参加者の不満を招く結果となり、避難は円滑に行えたものの情報伝達に課題の残る訓練となった。9月に行った情報伝達訓練においても自衛消防隊の各部署が抱えている問題もあり必ずしも良い動き

であったとは言えない。まずは1つ1つの訓練を確実に実施する事が必要であり、このことは例年問題となりながらも改善されていない。来年度に向けては訓練の在り方を検討、整理する事が急務となる。

## ②訓練前の打ち合わせの強化

発災時には本部(特に事務局)の動きが重要になる。訓練時においても本部を中心とした教職員全体の有機的連携のもとでの対応が求められるが、情報伝達訓練、消防避難訓練共に本部の動きに課題が多く残った。これまで訓練にあたっては自衛消防隊全体の打ち合わせが1回行われているのみで、本部との詳細な打ち合わせは行われていない。来年度に向けては、自衛消防隊や本部員との綿密な打ち合わせを行い訓練に臨むことが求められている。

## ③防災週間を設け、減災・防災の意識啓発を行う

近年増加の一途をたどる災害に対し、当大学の学生や教職員の減災・防災への意識は低い傾向にある。減災や防災への意識啓発として、大学内で防災週間を設け、研修会や防災グッズ・ポスターの展示等、学生や教職員の意識啓発を行う。

## (2)将来的な課題

### ①連絡体制の強化

令和元年10月に発生した台風19号は長野市、佐久市に大きな被害をもたらした。当大学がある伊那地域にもおいても災害が発生する危険性はある。災害発生時には「非常召集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制」を活用する事が求められ、学生および教職員のより安全避難・確認のためこれら連絡体制を常に強化する必要がある。

### ②避難時の支援体制の整備

本学の体育館は災害発生時には近隣住民の避難所等として活用される。今後は発災に関わる学内連絡体制、住民対応の初動について具体的に検討し、住民と協働作業の中で災害支援に携わるための体制の整備が必要である。

### ③長野県内の医療系(コ・メディカル)大学、学校間のネットワーク作り

近年頻発する災害に鑑み、長野県内の医療系(コ・メディカル)大学や学校が相互に連絡・連携を取りながら、減災・防災・相互支援を行うためのネットワーク作りが必要である。

## 第18節 安全衛生委員会

### 1 所掌事項

- (1) 教職員の危険及び健康障害を防止するための基本となるべき施策に関する事
- (2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事
- (3) 公務災害の原因及び再発防止対策に関する事
- (4) その他教職員の危険及び健康障害の防止並びに健康の保持増進に関する事

### 2 活動と成果

#### (1) 委員会活動

年月日	内容
元.6	ストレスチェック実施
元.7	労働安全衛生月間を周知

元. 8	ストレスチェック結果を配付
元. 10	結果説明会に参加
元. 11	全教職員に「労働者の疲労蓄積度自己診断チェック表」を配信、心身のセルフケアについて啓発
元. 11. 7	職員安全衛生管理規程に基づく第1回安全衛生委員会を開催。学内のストレスチェック結果について委員会内で共有し、職場環境改善策を検討。その他、安全衛生管理体制や教職員の健康管理状況、ACEプロジェクト、年次休暇取得状況及び超過勤務実績状況等について協議、検討。 産業医による職場巡視を実施。職場点検チェックリストを活用した職場巡視実施。
随時	交通労働災害防止等について教授会等で啓発
随時	定期健康診断や人間ドック、各種検診、ACEプロジェクト・ストレッチについて周知、啓発、受診勧奨、精密検査等の事後指導実施。

## (2) 成果

4回目となるストレスチェックが実施され、その結果を踏まえて委員会を開催し、学内の状況を確認、問題点を共有し、今後の対策等を検討する事ができた。

会議には、3年目となるが、産業医に参加していただき、助言を頂く事ができた。また、産業医による職場巡視を実施できた。

## 3 今後の課題

- ・健康障害の防止や健康の保持増進に係ることについて、教職員の啓発や受診勧奨等を継続強化していく。
- ・ストレスチェックの結果、県に比べ全体的に改善が必要な為、挨拶や声掛け等意識して積極的に実施し、必要時に上司に相談や支援を求めやすい環境を整えていく。

## 第19節 研究科委員会教務部会

### 1 所掌事項

長野県看護大学看護学研究科教務部会は、看護学研究科博士前期課程、博士後期課程の大学院教育に関する以下の内容を扱う。

- (1) 看護学研究科カリキュラムに関すること
  - 1) カリキュラムの検討と作成
  - 2) 非常勤講師について（依頼と決定）
- (2) 看護学研究科単位取得に関すること
  - 1) 博士前期課程・後期課程の大学院生の単位取得状況の確認
- (3) 看護学研究科科目履修に関すること
  - 1) 大学院科目履修の決定
  - 2) 科目履修生の選考
- (4) 看護学研究科院生の休学、退学、長期履修などに関すること
  - 1) 休学・退学願、長期履修願、奨学金返済免除者の審査
  - 2) 長期履修希望者の選考

- (5) 看護学研究科修士論文，博士論文の審査及び学位授与に関すること
- 1) 修士論文審査基準と審査方法の見直し
  - 2) 修士論文発表会の進行
  - 3) 博士論文審査委員選出
  - 4) 博士論文審査基準の見直し
  - 5) 博士論文発表会進行
  - 6) 博士論文審査結果公表の手続き等
- (6) 上記1～5に関わる学則の検討
- (7) 看護学研究科院生の大学院生活全般に関すること
- 1) 年1回の大学院生と教務部会委員との話し合いの開催

## 2 活動と成果

### (1) 部会活動

	日時	内容
第1回	4月16日(火) 14:40～15:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程入学生の英語実力試験の結果について</li> <li>・研究科教員一覧(教授のみ教授会による審査結果の反映したもの)の確認</li> <li>・休学願(前期課程1名、後期課程2名)の審議</li> <li>・2019年度博士後期課程学生の論文指導体制</li> <li>・2019年度教務部会年間活動計画の検討</li> </ul>
第2回	5月15日(水) 14:40～15:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休学願(後期課程1名)の審議</li> <li>・令和元年度収支論文テーマ、論文指導、副指導について</li> <li>・履修登録状況の確認</li> <li>・大学認証評価結果について(教務部会担当部分の検討の進め方について)</li> </ul>
第3回	6月19日(水) 14:40～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休学願(後期課程1名)の審議</li> <li>・博士論文審査委員案の検討</li> <li>・博士後期課程における外国人留学生の選抜試験ならびに入学後の教育体制・指導について検討</li> <li>・大学認証評価結果に対する検討(教務部会担当部分)</li> <li>・大学院生との懇談会の日程について</li> </ul>
第4回	9月27日(金) 13:00～14:25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生との懇談会の内容報告</li> <li>・ティーチングアシスタントの実施状況報告</li> <li>・看護理論シラバスの変更について(報告)</li> <li>・休学願(後期課程1名)の審議</li> <li>・長期履修在学期間の短縮願(後期課程1名)</li> <li>・博士後期課程外国人留学生の選抜および教育指導に関するアンケートの検討</li> </ul>
第5回	10月15日(火) 13:00～14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度大学院入学願書提出者における長期履修希望者の審議</li> <li>・博士後期課程学生の学外指導教員願(2件)</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度シラバス、学生便覧作成スケジュールの確認</li> <li>・復学した後期課程学生の論文指導について</li> </ul>
第6回	11月25日(月) 16:20～18:05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度後期博士論文審査体制(案)の作成</li> <li>・論文審査結果報告及び最終試験結果報告書の様式の検討</li> <li>・令和2年度学年暦(案)の検討</li> </ul>
第7回	12月11日(水) 15:00～15:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科教員一覧の変更(報告)</li> <li>・令和元年度修士論文審査体制(案)</li> <li>・科目等履修生規程の改正について</li> <li>・令和2年度科目等履修生募集要項(案)</li> <li>・令和2年度県内大学単位互換履修生募集要項(案)</li> <li>・令和2年度研究生募集要項(案)</li> </ul>
第8回	1月22日(火) 13:00～14:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度大学院入学願書提出者における長期履修希望者の審議</li> <li>・前期課程、後期課程修了予定者の単位修得状況</li> <li>・修士論文発表会(案)</li> <li>・令和2年度大学院非常勤講師(案)</li> <li>・令和2年度大学院時間割</li> <li>・令和2年度大学院教務ガイダンスについて</li> <li>・大学院履修規程の改正について</li> <li>・博士後期課程外国人留学生の選抜・教育に関するアンケートの報告について</li> <li>・大学認証評価結果に対する検討(教務部会担当部分)</li> </ul>
第9回	3月10日(水) 10:00～11:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程ならびに後期課程在学生の単位修得状況</li> <li>・令和2年度科目等履修生、研究生の選考</li> <li>・令和元年度(平成31年度)のティーチングアシスタントの実績</li> <li>・博士後期課程外国人留学生の選抜・教育に関するアンケートの報告について</li> <li>・大学院修了生の学習成果を把握するアンケートについて</li> <li>・令和元年度教務部会活動報告(案)について</li> </ul>

## (2) 成果

- ・博士後期課程外国人留学生の選抜・教育について大学院を担当する教員を対象とするアンケートを実施して報告した。
- ・修士論文ならびに博士論文審査委員会が作成する「論文審査結果報告及び最終試験結果報告書」について、所定の様式として整えた。
- ・大学認証評価結果に対する検討に取り組み、博士前期課程のカリキュラムポリシー、博士後期課程のカリキュラムポリシーについて、教育上の基本的な考えが表現されるよう見直しを行った。

### 3 今後の課題

- (1) 大学認証評価結果に対する検討を継続的に取り組む。今後は、学習成果の把握及び評価のための指標、方法について検討する必要がある。
- (2) 博士後期課程外国人留学生の選抜・教育について検討を継続して行う。

## 第20節 研究科委員会入試部会

### 1 所掌事項

- (1) 入試科目及び期日の選定に関すること
- (2) 合否判定の基礎資料に関すること
- (3) 入試の追跡調査に関すること
- (4) 入試のあり方に関すること
- (5) その他 入試に関すること

### 2 活動と成果

#### (1) 部会活動

	日時	活動内容
第1回	R1年5月9日(木) 16:20~19:10	①入試部会の規程とH30年度活動報告書の確認 ②年間スケジュールと担当役割の確認 ③大学院学生募集要項の検討 ④大学院パンフレットと学報「大学院だより」の検討 ⑤大学院の定員数および受験者確保対策の検討
第2回	R1年6月4日(火) 15:50~17:20	①学生募集要項の確認、募集要項の配布先の検討 ②大学院パンフレットと学報「大学院だより」の確認 ③大学ホームページ内の大学院指導教員の研究内容の更新状況の報告 ④受験者確保に関する方策について、1)大学院説明会、2)大学院公開講義・大学院生との懇談会、3)修士課程の指導資格のある教員が各自広報することになった。 ⑤大学院入試試験作成についてワーキンググループで試験内容を確認することになった。
第3回	R1年7月2日(火) 9:00~10:30	①大学院広報(大学院パンフレット、学報「大学院だより」、大学ホームページの更新状況)について確認 ②大学院説明会の準備状況の確認 ③大学院公開講義・大学院生との懇談会の準備状況の確認 ④大学院入試試験出題の依頼報告
第4回	R1年9月19日(木) 9:00~11:30	①大学院説明会の実施報告 ②大学院の授業聴講と大学院生との交流会についての実施報告 ③事前相談の状況確認 ④入試出題者(領域)の進捗状況の確認 ⑤出願資格審査判定 ⑥入試従事者配置表の確認 ⑦大学院入試試験業務処理要項の確認 ⑧本学の修士課程を修了し引き続き博士課程へ進学する者について、大学院学生便覧を確認しながら意見交換を行った。

第5回	R1年10月4日(金) 13:00~14:10	①大学院入学試験業務処理要領の確認 ②入試作問(小論文、英語、専門科目)の進捗状況の確認 ③大学院2次入試について実施する方向で検討した。
第6回	R1年10月19日(土) 16:30~16:50	①大学院入試、入試部会判定 ②大学院2次募集人数を検討し、大学院2次募集要項は持ち回り稟議とした。
第7回	R1年11月26日(火) 13:00~13:30	①大学院2次募集受験予定者の状況確認 ②入試出題者(領域)の依頼状況の確認 ③募集要項の配布先の検討 ④来年度の入試日程について検討
第8回	R1年12月20日(金) 13:00~14:30	①事前相談の状況確認 ②入試出題者(領域)の進捗状況の確認 ③出願資格審査判定
第9回	R2年1月21日(火) 16:00~17:00	①大学院2次入試出題者の確認 ②大学院2次入試作問(小論文、英語、専門科目)の進捗状況の確認 ③大学院入試従事者配置表の確認 ④大学院入試試験業務処理要項の確認
第10回	R2年2月1日(土) 14:10~14:30	①大学院2次入試、入試部会判定 ②令和3年度大学院入試受験者確保対策は今年度と同様の内容で実施することに決定した。 ③令和元年度自己点検評価報告書(入試部会報告書)は3月にメール稟議とした。

## (2) 成果

- 1) 学報の「大学院だより」の作成とホームページ内「大学院指導教官の研究内容」の更新  
大学院の広報活動の一環として、学報の「大学院だより」に、新任教員の研究活動や院生の学修状況等に関する記事を掲載した。大学院周知のためにも今後も引き続き前学期に1回作成する方向で合意した。
- 2) 受験者確保対策
  - ①大学院説明会の実施  
7月27日(土)のオープンキャンパスで大学院説明会を実施し、修士課程13名、博士課程4名が参加した。また、担当領域の教員との個別相談は1次試験では17件、2次試験では4件であった。
  - ②大学院の授業聴講と大学院との交流会の実施  
9月13日(金)に大学院の授業聴講と大学院との交流会を実施し、授業聴講に3名、交流会に8名(履修生5名を含む)が参加した。今後は、大学院授業聴講と交流の機会を前期の共通科目開講時期に開催することを検討していく。
  - ③大学院指導資格のある教員による広報  
大学院の修士課程の指導資格のある教員が個別に施設訪問を行い、大学院募集の広報と対象者のリクルートを行った。
- 3) 受験者および入学者の確保

大学院出願資格審査について7名の審査を行った。大学院1次試験は10/19に実施し、受験者は修士課程10名、博士課程4名であった。大学院2次試験は1/26に実施し、受験者は修士課程3名、博士課程1名であった。

最終的に、大学院入学手続きを済ませた者は、博士前期課程13名、博士後期課程3名であった。

#### 4) 入試システムの検証と見直し

大学院入試試験作成について、試験問題の適切性、公平性等の観点からワーキンググループを設置し、試験内容を確認した。また随時、大学院募集要項、入試業務処理要領の修正を行った。

#### 5) 本学の修士課程を修了し、引き続き博士課程への進学希望者の入試試験のあり方

本学の修士課程を修了し引き続き博士課程への進学希望者の入試試験のあり方について、大学院学生便覧P.71「長野県看護大学大学院学則」第10条の2を確認し、意見交換を行った。第1項の「大学院が行う進学審査」とは博士課程の入学試験であること、「学長が許可したもの」とは修士課程の修了見込みのものであることを確認した。また、該当者は本学の修士課程在籍中の者であることを併せて確認した。

#### 6) 博士課程入試における外国人特別選抜の入試試験のあり方

博士後期課程入試における外国人特別選抜については、昨年度と同様に大学院教務部会で入学後の教育体制の課題を整理した後に検討する。

### 3 今後の課題

#### (1) 喫緊の課題

- 1) 大学院受験者および入学者の確保として、大学院説明会や大学院公開授業を実施し、大学院指導教員による広報活動を継続する。
- 2) サラスシステム等による遠隔授業の拡大と広報活動に努める。

#### (2) 将来的な課題

- 1) 大学院受験者の動向を踏まえ、受験者および入学者確保の対策を強化し、安定的な大学院入学者確保に努める。
- 2) 本学の修士課程を修了し引き続き博士課程への進学希望者、博士後期課程入試における外国人特別選抜の入試試験のあり方を検討していく。

## 第6章 学生生活及び学生への支援

### 第1節 学生支援活動

#### 1 学生支援体制

##### (1) 目的

学生支援に係る教職員及び健康センターの役割を見直し、学生の学習・生活の両面からの支援の充実・強化を図る他、大学として迅速な対応を行うための体制を整備する。

##### (2) 個人情報の厳正な取り扱い

- ① 相談窓口となる者は、学生のプライバシーの保護に努める。
- ② 相談窓口となる者は、学生個人の権利利益を保護するため、必要な措置を講ずるよう努め適正な取り扱いを行う。

##### (3) 相談窓口及び実施方法

###### ① 学年顧問

- ・各学年に2人の学年顧問を置き、学生の生活・履修・進路・学習面の相談を受ける。
- ・休学、復学、退学、奨学金や就職推薦に係る書類作成及び保護者との連絡・調整を行う。
- ・卒業延期生は卒業まで同じ教員が担当する。

###### ② 保健室保健師

健康管理（精神・身体）全般を扱う。

###### ③ 学生支援員・就職支援員

学生支援員は日常生活全般に係る支援を、また就職支援員は、進路・国家試験に係る支援を行う。

###### ④ 臨床心理士（教員兼務）

臨床心理士として学生からの相談に応じる。

###### ⑤ 健康センター

- ・学生のこころの健康相談に応じる。
- ・窓口は保健室保健師とし、必要に応じて精神看護 CNS や健康センター相談員（外部）の助言を得て対応する。

###### ⑥ ハラスメント相談員

ハラスメント相談マニュアルに基づきハラスメントに関する相談等に対応する。

##### (4) 学生支援の責任者と責務

- ① 責任者は、学部にあつては学部長、研究科にあつては研究科長とする。
- ② 上記（3）の窓口となっている者は、学生から相談を受けた場合、自身で解決出来ないと判断した際は、責任者に相談する。
- ③ 相談を受けた責任者は、対処方法を検討して関係者に指示するものとする。なお、必要があると認めた場合には、学長に相談・報告する。
- ④ 学生支援に関わる者の意識の高揚及び資質の向上を目的として、各委員会の協力を得て教職員の自己研鑽を進める。

##### (5) 学長への報告

責任者は、生命への危険性が高い事案、ストーカー行為を受けている事案、親密な関係にある者から身体的・精神的暴力を受けている事案等の重要な事象について、学長に報告し、学長の指示を受けて対応する。

##### (6) 学生支援会議

長野県看護大学学生支援会議設置規程による。

(7) ハラスメントに当たる事象

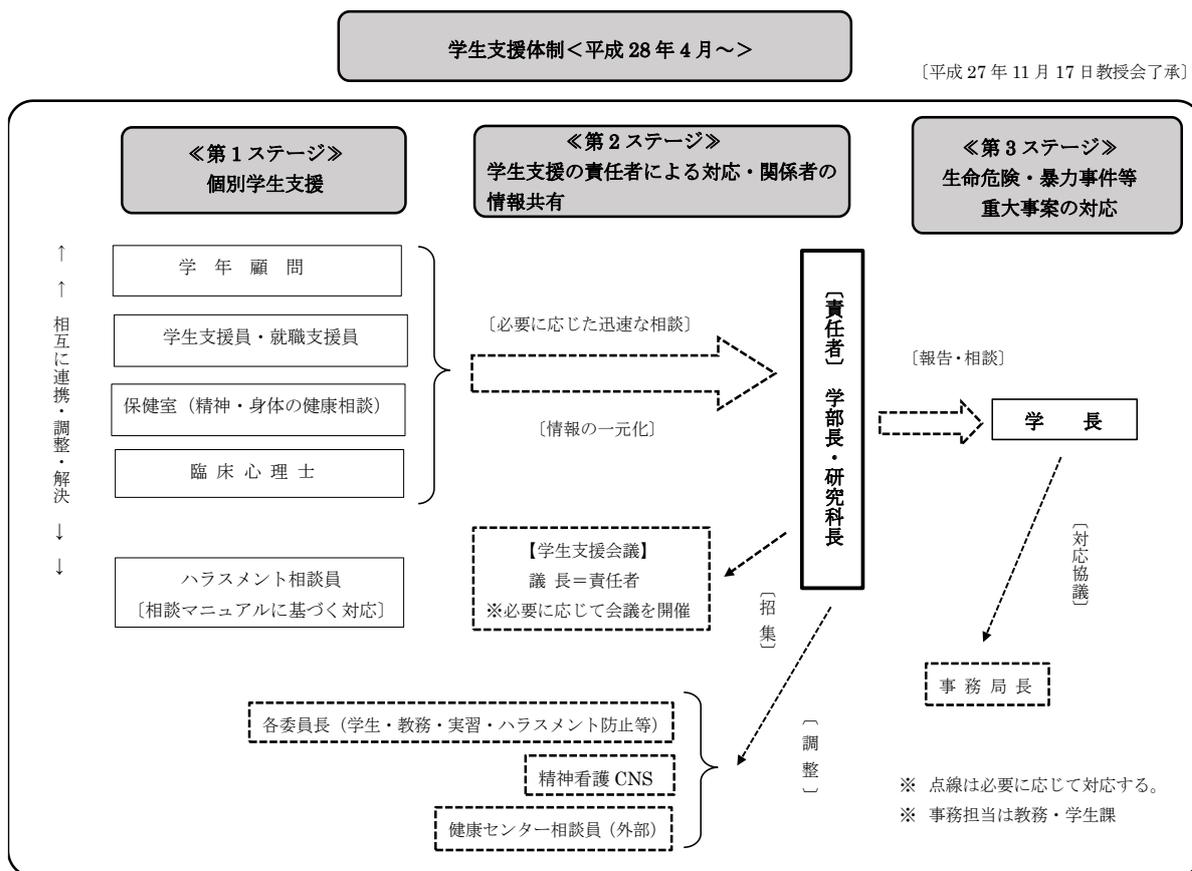
相談窓口となる者は、相談を進めるに伴って学生の抱える問題が明らかになり、ハラスメントにあたる判断できる事象が確認された場合、ハラスメント相談として対応することについて学生の了解を得たうえで、ハラスメント防止委員長に報告する。

(8) 学生支援体制の見直し等

支援体制の見直し等、学生の支援に関することは、教授会の審議を経て学長が決定する。

(9) 事務局

学生支援に係る事務は、教務・学生課が担当する。



## 2 学年顧問

(1) 学年顧問の役割

学年顧問は、学生に身近な存在として学部長の指揮のもと学生の学習や生活に係る相談を受ける。なお、原則として入学から卒業までを同一教員が担当する。

(2) 学年顧問の主な仕事

- ① 学生の生活面の困りごとの相談
- ② 学生の学習面の相談 (履修単位の修得、実習に関すること、休学・退学等)
- ③ 学生の健康面に関する相談
- ④ 学生の進学・就職、国家試験の準備等に関する相談、看護師国家試験不合格時の支援
- ⑤ その他 奨学金の推薦状の作成等
- ⑥ 学生支援会議に出席する

⑦ クラス委員との連絡・調整

(3) 学生からの相談に関して学年顧問が連携する部署／担当者

学生の相談内容や問題となっている事項に応じて、就職支援員、学生支援員、保健室保健師、健康センター長、卒業研究担当教員、教務・学生課等の関係者と連携して対応する。

また、必要に応じて学部長に相談・報告をする。

(4) 保護者との連絡

学生の保護者への連絡が必要な場合は、学部長に相談のうえ、適任者が対応することとする。

また、その結果について学部長に報告する。

令和元年度学年顧問

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
顧問氏名	河内准教授	井村准教授	座馬准教授	高橋講師
	曾根講師	浦野講師	御子柴講師	小野塚講師

※ 卒業延期生の学年顧問は、卒業まで同じ教員が担当

(5) 学年顧問の活動報告

<相談状況>

人数等 相談内容	相談内容別実人数（人） (1人の学生が、複数の相談をした場合は、相談内容毎に1人とカウント)						
	履修・学習	アルバイト	進路・就職	対人関係	健康	家庭環境	その他
1年	3		1	1	1	1	4
2年	5						
3年	6		5	2	2	1	2
4年※	6		10		5	3	

※卒業延期生を除く

<総括>

① 1 学年

多くの学生は、特に問題なく学生生活を送ることができていた。入学直後に保健室保健師・学生支援員らと心身に不安を抱える学生の情報を共有した。数名の学生より心身不調の訴えがあり保健室保健師が主な窓口として対応し、その後の状況や経過を共有しながら、学習面への支援を行った。学習面においては、複数の単位を取得できない学生がいたが面談の結果進路変更の意向であったため学生支援員とともに対応した。また、家庭環境に問題を抱える学生に対しては学生支援員が主に対応し継続した面談を行うことを通して、安心して学習に取り組めるよう環境を整える支援を行った。

今後は、生活環境の変化などから学習生活に支障が出ることの無いよう、学習姿勢や健康面の変化を早期に把握できるよう継続し支援していく。また、休学となった学生に対しては引き続き復学に向けた支援を行っていく。

② 2 学年

多くの学生は順調に学生生活を送ることができ、前年度に単位を落としてしまった数名の学生も、当初は若干自覚が見られない面もあったが、次年度に向けての履修計画の立案などを通して、成長が認められた。こちらからは、次学年においても注意すべき

事項についてあらためて指導を行った。今後、単位の取得等について引き続き支援を続けながら、以前から指摘されている学生の健康面も含めて、問題が大きくなる前に把握できるよう、保健室保健師、教務・学生課職員、学生支援員らと連携してサポートしていく必要がある。

### ③ 3 学年

授業等の学習面については、多くの学生は安定して取り組むことができていた。必修単位を落とした学生については、履修科目の確認を行いながら履修計画の立案を支援した。なかには健康面や学習面の不安から休学を選択する学生もみられ、教務・学生課および保健室保健師と連携しながら対応を行った。

後学期より開始される看護専門領域実習に備え、不安や心配事の相談をするよう学生全体に投げかけ見守ったところ、複数名の学生から健康面や対人関係等についての相談がみられた。相談内容に応じて保健室保健師や実習委員会と情報を共有しながら対応した。実習では、感染症のために欠席、再履修を余儀なくされた学生もいたが、殆どの学生は順調に取り組めていたと思われる。

### ④ 4 学年

卒業予定の多くの学生は順調に実習を終え、国家試験に向け準備を進める事が出来たが、看護専門領域実習後半において、出席できなくなった学生があり、実習担当分野や保健室および教務・学生課と連携を取り対応した。助産選択コースは8名全員が履修を終えることができた。

就職に関しては、ほとんどの学生が希望する職種で内定が得られた。また、養護教諭特別科への進学が1名あった。国家試験の合格率は、看護師 98.8%、保健師 92.9%、助産師 100%であった。

卒業延期生については、それぞれの履修計画を確認するとともに継続的な指導を行った。引き続き指導を継続していく。

## 3 新学期の学生生活ガイダンスの実施等

### (1) 新学期の学生生活ガイダンスの実施

新学期開始直前に、各学年に対して学生生活ガイダンスを実施した。

### (2) 防犯講習会の開催等

新学期開始直後に、すずらん寮に入居する1年生とアパート暮らしを始める2年を対象に、駒ヶ根警察署の警察官を講師に防犯講習会を実施した。また、10月の全国地域安全運動に合わせ、駒ヶ根警察署と伊南防犯女性部に協力し、学生に対しトーカー被害や個人情報の取り扱い、戸締りの徹底等防犯に関する啓発を行った。

### (3) ワーキングセミナー

アルバイトに関するトラブルを未然に防止するため、県労政事務所によるワーキングセミナーを開催した。

## 第2節 キャリア形成支援

### 1 在学時における進路支援

#### (1) 就職・進学に関する支援

- 1) キャリアガイダンスの実施
- 2) 進路希望調査の実施  
4月：求職票の提出（4学年） 12月：進路希望調査票の提出（3学年）
- 3) 個別面談の実施 4月：卒業予定者全員を対象
- 4) 求人票・募集要項等の整備
- 5) 「進路の手引き」（キャリア支援ハンドブック）の作成：全学年および全教員に配布
- 6) 求人等に関する来訪への対応
- 7) 職場体験（インターンシップ）・職場見学等の紹介や斡旋
- 8) 各種進路関係情報の提供（合同説明会の開催等の情報提供、進路情報誌の配布など）
- 9) 大学院等の募集要項の整備
- 10) 大学等からの教員募集要項等の整理
- 11) 応募及び採用試験への支援  
希望者に応募書類作成支援、面接試験個別練習、面接ビデオや関係図書等の整備など
- 12) 公務員・養護教諭等の受験対策  
公務員対策講座への参加斡旋、参考図書等の整備、希望者への個別受験指導など
- 13) 新社会人ワーキングセミナーの開催
- 14) 県内市町村保健師採用合同説明会の開催（9月7日 学園祭時）
- 15) その他  
進路資料室の整備・充実、キャリア支援のあり方についての見直し・検討など

(2) 支援の実施状況・結果

<一年次>

キャリアガイダンスⅠ 5月14日(火)14:40～16:10

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学における進路選択や就職活動等についての基本的な知識を身につける。</li> <li>○本学の卒業時に取得できる免許や資格等を理解する。</li> <li>○卒業生の進路動向等により卒業後の進路の可能性を考える。</li> <li>○卒業後の進路を見通すことによって学習意欲を高める。</li> <li>○学内外の様々な進路選択に関するサポート資源を理解する。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本学の進路指導体制や卒業生の進路先など基本的な事項の説明を行う。</li> <li>○マイナビ講師によるキャリア形成についての講義を行う。</li> </ul>

<二年次>

キャリアガイダンスⅡ（卒業生シンポジウム）7月19日(金)14:40～16:10

ねらい	○複数の卒業生による就職活動や職業生活に関してのシンポジウムに参加し、進路意識を育むとともに看護職のキャリア形成について考えを深める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生による体験等を踏まえたキャリア形成のためのシンポジウムを行う。</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">シンポジスト：齋藤 亮平（順天堂大学医学部附属静岡病院 看護師） 小島 清香（木曾町役場 保健福祉課 保健師） 大野 雅代（伊那中央病院 助産師）</p>

<三年次>

キャリアガイダンスⅢ ①12月16日(月)10:40～12:10

②1月15日(水)13:00～14:30

ねらい	○卒業学年を控えて、希望や個性、特性に応じた進路先を考え、その実現を図るための情報を得るなど就職活動に必要な知識や態度を養う。
内容	<p>①医療現場や自治体の採用状況、及び公務員試験・教員採用試験など、具体的な就職活動について、講義をしていただく。また、3年生にとっての2回目の進路希望調査を行う。</p> <p>講師：松澤 里奈 (㈱マイナビ キャリアサポート担当) 担当：花岡 秀樹 (就職支援員)</p> <p>②職場での管理的業務を担当している講師(看護師・保健師)の方々が、職場の現状や看護大生への期待などについて講義を行っていただく。</p> <p>講師：代田 とみ子 (飯田市立病院副院長兼看護部長) 坂田 典子 (長野県健康福祉部医療推進課看護係)</p>

<四年次>

キャリアガイダンスⅣ 4月5日(金)9:00～9:30

ねらい	○卒業学年として、就職活動・採用試験に必要な知識や手続きを確認する。
内容	○採用試験までの具体的な手順や履歴書(エントリーシート)の書き方、面接試験や小論文等の筆記試験への対応、求職票の提出についてなど、具体的な就職活動を進めるにあたって必要となる事項の説明を行う。

(3) 卒業生の就職・進路状況

- 1) 長野県内への就職者は46名(55.4%)で、昨年度の県内就職率(60.5%)を下回った。県内出身者の県内就職率は78.2%で、昨年度(79.6%)に比べやや下がった。県外出身者の長野県内への就職者が3名あった。
- 2) 看護師は62名(昨年度63名)で、全就職者の74.7%(昨年度82.9%)を占めている。助産師は8名で、昨年度(5名)に比べ増加した。三病院(信州大学医学部附属病院・長野市民病院・伊那中央病院)への就職者は18名で、全病院就職者の25.7%を占めている。
- 3) 行政保健師は県内8名で、昨年度(5名)と比較すると増加した。ほかに健診センターの保健師が1名、その他の保健師が2名であった。
- 4) 養護教諭一種免許状の取得を目指し、養護教諭特別別科への進学が1名あった。



## 2 国家試験の対応状況

### (1) 国家試験への支援の概要

#### 1) 模擬試験の実施

看護師3回、看護師必修1回、保健師2回、助産師2回実施

本学教員に対して模試結果等の関係資料を情報提供

#### 2) 国家試験受験手続説明会の開催

10月 願書の作成について指導、願書の取りまとめ、願書提出(郵送)

2月 受験票の交付及び受験に関する留意事項等の説明

#### 3) 国家試験受験関係業務

受験に必要な書類(願書、修業見込証明書等)の整備・点検および提出

#### 4) 免許申請手続き説明会の開催

2月 免許申請書類の配布及び留意事項等の説明

#### 5) 合格発表後の進路指導

合否状況の確認 不合格者に対する支援

#### 6) 既卒不合格者の受験手続や模試等の支援

#### 7) 国家試験対策補講の実施(1月に実施)

#### 8) 国家試験受験対策ガイダンス(4月と10月に実施)

#### 9) 受験参考書籍等の整備

### (2) 国家試験に関する実績

令和2年2月実施の国家試験では、助産師については全員が合格した。看護師で1名、保健師で6名の不合格者があり、看護師で1名が不採用となったが、残りの卒業生は、全員が希望職種に就職した。

#### <令和元年度国家試験の合否状況>

	総 数				新 卒				既 卒			
	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
第106回保健師	94	94	85	90.4%	85	85	79	92.9%	9	9	6	66.7%
第103回助産師	8	8	8	100%	8	8	8	100%	-	-	-	-
第109回看護師	86	86	85	98.8%	85	85	84	98.8%	1	1	1	100%

### (3) 課題及び方策

1) 受験者全員の合格を目指して、国家試験受験ガイダンスの充実や公開模擬試験および特別補講など今までの取り組みを更に発展・充実するよう努めていく。

2) 助産師資格受験者に対して、十分な受験準備が出来るよう支援していく。

3) 既卒の受験者に対しては、受験手続きの相談に応じるとともに公開模試の受験促進などの支援を継続していく。

## 第3節 保健厚生

### 1 概要

保健室では、学生が心身共に健康で充実した学生生活を送れるよう健康診断や健康相談、傷病等緊急時の応急処置などを行っている。設備は、ベッド、応急セット、衛生用品、

薬品棚、書類保管庫、寝具入れ、車椅子1台、血圧計、身長体重計、視力計などがある。保健室には、常勤保健師1名が配置されている。必要に応じて学校医へ相談し、学生支援員（看護師）、学年顧問らと協力・連携して対応している。

○保健室の役割・業務内容

- ①傷病者の応急処置に関すること
- ②健康診断、健康管理に関すること
- ③保健指導及び健康相談に関すること
- ④教育研究活動中の災害を補償する保険に関すること
- ⑤感染症予防や予防接種に関すること
- ⑥学校行事等の救護
- ⑦その他保健に関すること

## 2 実績

### (1) 保健室利用状況

平成27年度から令和元年度の利用状況を表1に示す。相談内容は、体調不良、怪我、月経に関すること、実習、友人関係、進路、精神的問題に関することなど多岐に渡っている。体調不良や怪我等の状況により、受診同行や保護者への連絡などの支援も行った。

また、令和元年度にはインフルエンザ（疑いを含む）等感染症のため17名の学生が出席停止となった。発症した学生等に対する保健指導、大学全体に向けての注意喚起・予防啓発を行い、その結果、重症化した学生や感染拡大・集団感染はなかった。

表1 保健室利用状況

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
健康相談（身体）	261	295	338	270	259
健康相談（精神）	61	40	90	177	163
相談（その他）	88	98	82	105	244
合計	410	433	510	552	666

### (2) 定期健康診断の項目と受診状況

定期健康診断の項目は、①身体測定（身長と体重）、②血圧測定、③胸部X線検査（間接撮影）、④血液検査（貧血）、⑤尿検査、⑥内科診察の8項目である。平成27年度から令和元年度の定期健康診断の受診状況（学部生）を表2に示す。未受診の未受診項目は、尿検査だった。

定期健康診断の結果、各項目に異常が見られた者や自覚症状のある者には、受診指導や保健指導を行っている。精神的不調の兆候が見られる者には、個別面接を実施し、必要に応じて定期的な面接、受診勧奨などを行っている。

入学年度の定期健康診断ではB型肝炎抗原・抗体検査を実施している。抗原・抗体いずれも陰性であった者に対しては、予防接種を実施している。また、小児ウイルス感染症（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）抗体検査に関しては、入学年度の定期健康診断で実施してきたが、29年度からは、大学入学までに各自で抗体検査を済ませてくることを決定し、該当者には周知している。そして、この検査で抗体陰性及び陽性低値の者には、予防接種を指導（勧奨）している。

表2 定期健康診断受診状況（学部生）

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
健診対象者	341	337	337	343	345
受診者数（全項目を受診した者）	338	325	326	334	341
受診率（%）	99.1	96.4	96.7	97.4	98.8

### 3 今後の課題

学生相談の窓口としては、保健室、学生支援員、学年顧問など複数整備され、学生は相談者を選択することができる。相談対応者は、学生支援会議や個別のカンファレンス等による情報共有や支援の連携が必要であり、その際には本人の同意やプライバシー保護に十分留意することが重要である。

また、受診支援や救急搬送の際には家族への連絡が必要となるが、家族からの支援を受けることが難しい学生もあり、支援体制の検討が必要である。

心身の健康問題が学業に及ぼす影響は大きく、特に科目試験や課題提出が重なる時期や実習期間などには食事の乱れや睡眠不足から体調を崩す傾向がみられる。激しい月経痛などから失神する事例もあるため、学生が日頃からセルフケアできるよう指導していく必要がある。

## 第4節 修学資金等

### 1 資金の種類

事務局で取り扱っている奨学金は「日本学生支援機構奨学金」、「長野県看護職員修学資金」、「上伊那広域連合看護師等修学資金」の3種である。本学独自の奨学金はない。

#### (1) 日本学生支援機構奨学金

大学全体の貸与率は32.9%、学部生では35.9%で3分の1を超える学生が利用している。大学院生の貸与者はいない。

#### (2) 長野県看護職員修学資金

大学全体の貸与率は2.4%と低い。これは、本資金の貸与対象者を「免許取得後（若しくは大学院修士課程修了後）、直ちに県内の返還免除対象施設で就業する意思があること」としているためと考えられる。

<学部生>

・病床数200床未満の病院 ・精神病床を80%以上有する病院 ・過疎地域にある病院（県立木曽病院、飯山赤十字病院） ・診療所 ・介護老人施設 ・指定発達支援医療機関 ・重症心身障害児施設 ・母子健康センター（助産師に限る） ・地域保健法に規定する特定町村（保健師に限る） ・訪問看護ステーション（上記免除施設で3年以上の実務経験が必要）

<大学院生>

・医療法第1条の2第2項に規定する医療施設 ・母子健康センター ・地域保健法に規定する特定町村 ・訪問看護ステーション（医療施設で3年以上の実務経験が必要）

#### (3) 上伊那広域連合看護師等修学資金

上伊那広域連合が、地域医療再生基金を原資として平成23年度に創設した制度で、貸与対象者は、将来上伊那地域において看護職員の業務に従事しようとする者である。

地域を上伊那地域に限定していること、将来返還義務が生じない他の貸与制度との併用ができないことから、貸与率は低い。

なお、平成 29 年度から、養成施設等の最終学年在学学生への一回貸与支援へと制度改正がなされたが、貸与者はいない。

## 2 実績

各修学資金の貸与実績については、次のとおり。

日本学生支援機構奨学金貸与状況（令和元年度実績）

種別	学年	学部生				計	大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年		修士課程	博士課程	
給付				2	1	3			3
第一種		19	22	21	22	84	0	0	84
第二種		11	16	20	9	56	0	0	56
延べ計 (A)		30	38	43	32	143	0	0	143
併用 (B)		4	5	5	4	18	0	0	18
計 (C=A-B)		26	33	38	28	125	0	0	125
学生数 (D)		93	85	85	85	348	19	13	380
貸与率 (C/D)		28.0%	38.8%	44.7%	32.9%	35.9%	0.0%	0.0%	32.9%

長野県看護職員修学資金貸与状況（令和元年度実績）

種別	学年	学部生				計	大学院生		合計
		4学年	3学年	2学年	1学年		修士課程	博士課程	
貸与者数 (A)		3	3	1	2	9	0	0	9
学生数 (B)		93	85	85	85	348	19	13	380
貸与率 (A/B)		3.2%	3.5%	1.2%	2.4%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%

上伊那広域連合看護師等修学資金貸与状況（令和元年度実績）

平成28年度までの制度

新制度

種別	学年	学部生				計	大学院生		合計	学部生 4学年
		4学年	3学年	2学年	1学年		修士課程	博士課程		
貸与者数 (A)		1				1			1	
学生数 (B)		93	85	85	85	348	19	13	380	
貸与率 (A/B)		1.1%				0.3%			0.3%	

## 3 授業料の減免

### (1) 概要

長野県看護大学条例では、経済的理由により授業料を納付することが困難な者、休学等の事情がある者に対して、授業料を減免することができることとしている。

また、希望する者について、年4回（4月、7月、9月、1月）に分納して授業料を納付することができることとしている。

### (2) 経済的理由による減免の実績

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
対象者数	17 人	21 人	19 人
減免額	9,108,600 円	11,073,200 円	9,599,750 円

## 第5節 サークル活動及び大学祭

### 1 サークル活動

正課の授業以外に行う課外活動を行うサークルは、平成30年度は26団体であった。サークル活動は学生の自主性を尊重しつつ、サークル顧問として教職員が関わりサークル活動の相談・支援を行っている。

令和元年度団体・サークル等一覧表

団体・サークルの名称	代表責任者	副代表責任者	顧問	人数
軽音楽サークル	木鋪 日菜	尾坂 円	御子柴 裕子	53
茶道サークル	松澤 美里	下平 綾子	有賀 美恵子	5
ほがらか農園サークル	鈴木 香緒里	杉本 陽香里	細田 江美	21
わらわらサークル	松崎 美優	武村 純奈	島袋 梢	44
美術・文芸サークル	杉本 陽香里	樋口 芽生	御子柴 裕子	17
アカペラサークル	清水 菜央	細田 瑠花	千葉 真弓	11
よさこいサークル	瀧澤 志織	高橋 葵衣	近藤 恵子	36
弓道サークル	安岡 里萌	岡庭 桃花	座馬 耕一郎	8
テニスサークル	鈴木 大悟	和田 宇奏	太田 克矢	30
バスケットボールサークル	松本 真通	磯谷 奈未乃	曾根 千賀子	67
バドミントンサークル	篠崎 明日香	和田 宇奏	森野 貴輝	74
バレーボールサークル	原 菜々子	村松 歩実	酒井 久美子	71
スノーボードサークル	下村 章浩	篠崎 和樹	有賀 智也	25
室内管弦楽サークル	山田 花菜	松澤 美里	千葉 真弓	13
卓球サークル	安坂 綾奈	瀨瀨 実紀	喬 炎	48
剣道サークル	武村 純奈	佐伯 桃香	三浦 大志	3
フットサルサークル	山崎 心汰	安坂 綾奈	三浦 大志	90
写真サークル	江守 真理奈	丸山 桃佳	森野 貴輝	10
Skip サークル	江口 美亜	田中 未来	屋良 朝彦	27
アンサンブルサークル	宮下 織衣	相澤 未来	上條 こずえ	16
いなん 100 km徒歩の旅サークル	佐伯 桃香	平出 有咲	座馬 耕一郎	22
思春期ピアカウンセリングサークル	中井 海里	佐伯 桃香	河内 浩美	28

### 2 長野県看護大学大学祭（名称「鈴風祭」：すずかぜさい）

毎年9月上旬～中旬に2日間の日程で開催している。運営は1・2年生が中心となり、鈴風祭実行委員会を組織し、準備・運営にあたる。令和元年度は9月7日(土)、8日(日)に開催した。好評のハンドトリートメントコーナーや、子どもたちにも喜んでもらえる

ような企画を実施し、多くの方々に賑わった。

また、会場には「大学説明コーナー」を設け、広報・交流委員会のメンバーにより、本学への進学を検討している高校生に対し、進学相談を行った。

○事前の周知活動

- ・PRのための学校訪問 : 小学校6校、中学校3校
- ・パンフレット広告スポンサー: 約100社

○当日の主な催し物

- ・ハンドマッサージ ・市町村保健師採用合同説明会 ・進学相談会
- ・サークル発表(よさこい、アカペラ、室内楽、軽音楽) ・各種模擬店
- ・ゲストによるパフォーマンスショー ・ビンゴ大会等の開催

## 第6節 関係団体の活動

### 1. 大学生協

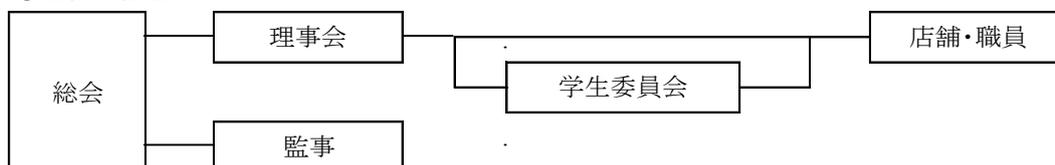
#### 1 概要

##### (1) 組織

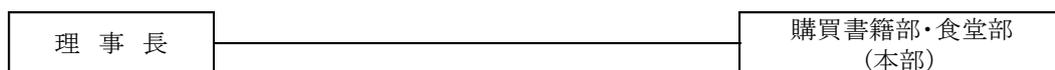
総会で選任された理事を構成員とする理事会の基に、生活協同組合活動を応援する学生からなる学生委員会と教職員及び店舗職員が共同して、各種の学生生活を応援する活動を行っている。また、生協活動および決算等について監査を行う監事についても、総会で選任され、財務等の監査を行っている。

経営は、理事長の指示の元に、主として購買書籍部及び食堂部の職員が信州大学生生活協同組合と連携を図りながら、日々の業務を行っている。

①運営組織図



②経営組織図



##### (2) 業務

看護大学生生活協同組合は、平成10年1月21日に前身の看護大学福利組合から業務を引き継いで運営が開始され、今日に至っている。

その目的は、看護大教職員、学生等の組合員の生活の文化的、経済的な改善向上を目指し、活動に取り組んでいる。

### 2 活動実績

#### (1) 主な日常の業務

大学生協パート職員により、以下の業務を行った。

食堂部: 昼食及び臨時の夜の飲食を提供した。

購買書籍部: 書籍、文具、生活用品及び保管食品を販売した。

#### (2) 総会・理事会等開催

大学生協の理事及び理事等役員(理事：13名、監事：4名)による理事会等を以下のとおり開催した。

項目	開催日	主な議題
第一回理事会 (総会)	元年5月28日	理事長、専務理事の互選について 代表理事の選出
第二回理事会	元年7月12日	3～6月経営状況及び活動報告 夏期営業日程について、借入限度額設定 10月からの食堂税込価格案
第三回理事会	元年9月17日	3～8月経営状況及び活動報告 長野県最低賃金の改定
第四回理事会	元年11月21日	3～10月経営状況及び活動報告 年末年始及び年度末の営業日程
第五回理事会	元年2月13日	3～1月経営状況 2020年度予算確認、生協総会の承認 (日程・選挙管理委員指名・開催公示と期間・役員立候補受付及び締切日の提案ほか)
第六回理事会	2年5月26日	2019年度決算及び活動報告 第22回総会議案及び運営について

※ 看護大学生協の会計年度は3月から翌年2月まで、役員は5月の総会後から、翌年の総会までとなっている。

### (3) 学生委員会による取組

看護大学の学生により、生協の活動をPRするとともに、学生の生活を支援するため、学生委員会を組織し以下の活動を行った。

月	主な活動内容
5月	生協総会(5/28)
6月	七夕装飾
8月	「Nsの☆」制作
9月	鈴風祭模擬店出店(9/7、8)「Nsの☆」完成・発行
12月	売店装飾
2020/3月	お友達企画計画、引っ越しお助け隊

### (4) その他の成果

自動車教習所の取扱いの減等により供給高は前年を下回った。商品管理については、ロス率が年間で0%と非常に高い管理レベルとなっている。

また、食堂の利用者数も引き続き増加傾向となっている。

## 3 課題及び方策

### (1) 喫緊の課題

組合員から概ね支持された食堂運営や購買部の活動がなされ、利用者の増加につながっているが、この活動を維持していく手段が一部のパート職員のみ依存している。そこで、職能給制度を導入するなど、パート職員のモチベーションの向上を図り、働きやすい職場(体制)づくりが最も急がれる課題である。

新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う経営全体への影響に注視する必要がある。

### (2) 長期的な課題

- ・ 正規職員の不在による不安定な運営が持続している。

2007年に正規職員(店長)の退職後、パート職員のみで現場が運営されている。中で

も、歪を理解しないまま「黒字経営状態で健全運営ができている」との認識が広がっているのは、最も大きな問題の1つである。実態は、店長を雇用する余力がない状態であることが、組合員や大学に理解されていない。今後、理事を様々な教職員に経験させるなど、経営の根幹的な問題に直面する機会を増やすとともに、教職員、大学生にこの状態を周知し取り組んでいく必要がある。

- ・学生委員会の活動を旺盛に進め、生協の活動を知らせるよう取り組む必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響が経営にどういった影響与えるか注視していく必要がある

## 2. 後援会

### 1 概要

長野県看護大学の運営に協力援助を行い、もって教育研究の発展に寄与するとともに、学生が豊かで充実した学生生活を送れるよう福利厚生事業等を行うことを目的として、平成7年4月8日に発足したものである。

組織は、総会並びに会員から選出された理事及び監事からなる役員会があり、業務・立案は、理事から選ばれる会長及び副会長と理事により行われている。事務局は、会則に基づき、看護大学事務局総務課に置き、看護大学事務局次長が事務局長として庶務会計の事務を行っている。

主な業務

- ・学生の課外活動に対する援助。
- ・学生の生活指導・厚生等に対する援助。
- ・大学の運営・教育設備の設備充実等に対する協力 等

### 2 活動実績

#### (1) 主な業務

- ①新入生オリエンテーション、学生自治会への補助  
自治会活動（鈴風祭、サークル）へ補助
- ②進路指導や福利厚生のために必要な事業等への補助  
B型肝炎ワクチン予防接種（1年生：3回）、B型肝炎抗体検査（全学年）、国家試験対策ガイダンス経費・進路指導書等購入への補助
- ③卒業式及び卒業生を送る会等、地域との交流等に対しての補助・協力  
送る会経費の補助、町内会費、区費、看住協議会への交付金
- ④後援会だよりの発行  
第22号（440部）の発行

#### (2) 総会・役員会等開催

項目	開催日	主な議題
第1回役員会	31年4月1日	総会議題等について
総会	31年4月2日	・平成30年度事業報告・収支報告書について ・平成31年度事業計画・収支予算、役員選任について
第2回役員会	令和元年9月7日	・令和元年度中間報告、実習補助費、卒業式、就職求人状況等について ・令和2年度役員体提案について

第3回役員会	令和2年3月6日	・令和2年度事業・決算見込みについて ・令和2年度新役員体制の確認等について
--------	----------	---

### 3 課題及び方策

事業内容等について、必要性や有効性の観点から、随時、検討・見直しを図っていく

### 3. 同窓会

#### 1 概要

同窓会「鈴風会」は平成15年、長野県看護大学創立10周年を機に設立された。会の名称は、母校の学園祭「鈴風祭」と同様に、駒ヶ根市を象徴する「すずらん」と「風」をイメージして付けられている。

鈴風会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的として活動しており、その目標は、母校と会員（卒業生・修了生）とをつなぐ架け橋となることである。主な事業は、以下のとおりである。

- (1) 会員名簿の作成及び会報の発行
- (2) 総会、講演会、研修会等の開催
- (3) 母校の後援及び相互の連携に関する事項

会員は、会員（卒業生・修了生等）、準会員（在学中の学生）に分けられる。最高議決機関として総会があり、ここで鈴風会の活動に関する決定がなされる。実務機関として執行部会があり、会長・副会長・会計・庶務の各役員で運営されている。

#### 2 活動実績

##### (1) 令和元年度基本方針

- ・会員同士のネットワーク強化
- ・同窓会活動の充実

##### 【活動内容】

<会員同士のネットワーク強化に関すること>

##### ○ホームページの活用及び会員の参加しやすい活動方法の検討

ホームページには同窓会の活動報告を掲載し、配布物にURLを明記してホームページの周知を図っている。また、行事の案内について郵送に加えてホームページに掲載すること、会員宛の郵送物にQRコードを掲載し登録情報変更手続き方法へのアクセスの簡便化を図ることにより、連絡先不明者対策を行っている。

##### ○学園祭での同窓会活動の発信

学園祭パンフレットへの広告の提出を行った。また、同窓会活動のPR・会員の交流の場となるよう、同窓会ブースの出展を行い、卒業生のメッセージを掲示した。

<同窓会活動の充実に関すること>

##### ○入会者増加のための検討

未入会者が増加しているため、SNS等を利用し入会促進を行った。

##### ○今後の活動方法の検討

入学手続き時の入会案内方法を執行部会にて検討し、通知内容や会則の明示につい

て見直しを図った。

#### ○母校との連携

北山学長に執行部会に参加していただき、大学と同窓会で連携を密にしていきたいと伺った。同窓会としてもできる限り大学の要請に答えていく方針である。

大学図書館へ図書を寄贈の寄贈を行った。

#### (2) 令和元年度活動日程

活動	開催日	主 な 議 題 等
第1回 執行部会	令和元年 5月21日	・未加入者への対応について ・大学への貢献事業について
第2回 執行部会	令和元年 8月1日	・鈴風祭について ・4年生の未加入者について ・同窓会入会のメリットについて
第3回 執行部会	令和元年 12月25日	・今後の大学との関係について ・貢献事業について ・退官記念品贈呈について ・第18回定例総会について
第4回 執行部会	令和2年 2月6日	・第18回定例総会について ・会則の改正について ・役員を選出について ・卒業生・修了生への卒業記念品の進呈について ・2020年度入学生への入会案内について

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、総会の現地開催を中止し、同窓会HPへ資料を掲載した。また、総会の中止に伴い第5回執行部会はメール会議を行った。

### 3 課題及び方策

鈴風会設立以来、新入会員の会費徴収は大学にご協力いただいていたが、平成28年度より徴収方法が変更となったことから、入会者及び会費収入が以前と比べ、約4割以上低下と大幅に減少している。そのため、活動の拡大は困難であるが、入会促進を図るとともに、会員・準会員にとって有意義な活動となるよう検討を進める必要がある。令和2年度の活動方針は以下のとおりである。

#### (1) 会員同士のネットワーク強化

- ・ホームページによる情報発信を継続し、同窓会活動に参加する会員の増加を図る。

#### (2) 同窓会活動の充実

- ・同窓会の活動継続に向け入会者の増加を図るため、新入生や在学生への入会案内方法や会費徴収方法についてさらに検討を進める。
- ・大学祭に合わせ卒業生からのメッセージ展示など、会員が参加できるとともに、在学生への同窓会のPRとなる活動を検討し、実施する。
- ・多くの会員の参加が得られるよう、同窓会パーティーを企画・開催する。
- ・母校の発展に寄与できるよう、本会に対する要請に柔軟に対応していく。

## 第7章 施設の管理運営等

### 第1節 施設の状況

#### 1 施設の全体概要

##### (1) 校地

本学の校地面積は、75,733 m<sup>2</sup>と学生数の割に広大であり、東に南アルプス、西に中央アルプスを望む恵まれた自然環境の中で、古代ギリシャ都市の「アゴラ」に倣って設けた中央広場を中心に、その周りに図書館・教育研究棟・講堂・学生食堂・管理棟を配置している。また、道路を挟んで屋内プール棟・有酸素運動研究コース・語らいの並木が併設されている。

校舎敷地	運動場用地	寄宿舍用地	プール他用地	計
36,951.00 m <sup>2</sup>	15,948.00 m <sup>2</sup>	5,760.00 m <sup>2</sup>	17,074.00 m <sup>2</sup>	75,733.00 m <sup>2</sup>

##### (2) 施設・設備

###### 1) 管理棟 (2,242.13 m<sup>2</sup>)

学長室、事務室、会議室、保健室、食堂、売店が配置されている。食堂については、カフェテリア方式で185席の利用が可能となっており、また、売店が併設され、パン・おにぎりなどの食品や文具等を販売している。両部門とも、長野県看護大学生活協同組合が組織され、経営を行っている。

###### 2) 教育研究棟 (9,079.39 m<sup>2</sup>)

講義室、演習室、実験室、自習室、情報処理教室(パソコン53台)、LL教室(機器50台)、研究室(講師以上は個室、助教・助手は複数人で1室)、大学院生研究室等を配置している。

講義室が大・中・小合わせて8室、実習室が「基礎」「成人」「母性・小児」「地域・老年」など看護領域ごとに6室、その他実験室、自習室などを完備している。その他大学院生用として、大学院生研究室が4室ある。なお、中講義室のうちの1室には、県内8大学を結ぶ遠隔講義システムを導入しており、他大学が配信する授業を自大学で受講することが可能になっている。

###### 3) 講堂 (962.43 m<sup>2</sup>)

511席を配置し、AV設備、音響設備等を備えたもので、ピアノも設置している。

利用は、入学式や卒業式その他、公開講座とともに、学生の音楽系サークル活動(練習、ライブ、コンサート等)にも利用されている。

###### 4) 図書館 (1,200.62 m<sup>2</sup>)

閲覧室80席、教員学習室、グループ学習室、AVルームを設置している。

開館時間は平日、9時～19時。実習期間中は、平日は21時まで、土曜日は10時～16時まで利用可能としている。

###### 5) 体育館 (893.68 m<sup>2</sup>)

木材を多用した造りで、バスケットボール1面、バレーボール2面がとれる。

学生は、鍵の貸与により常時利用可能としている。

###### 6) 学生棟 (802.21 m<sup>2</sup>)

学生ホール、自治会室、クラブ室等を配置し、自治会活動や学生のサークル活動に利用している。

7) 屋内プール棟 (1, 131.64 m<sup>2</sup>)

通年で利用可能な6コース(25m)の温水プールを設置し、そのうち1コースがスロープコースとなっている。また、筋力トレーニング機器を備えた健康増進研究室(ジム)と講義・測定室が併設されている。

学生は常時これらの設備を使用できるほか、温水プールについては、本学主催の高齢者水中運動教室等教育研究活動の一環としても活用されている。

また、長野県障がい者福祉センターの南信地域における拠点である障がい者スポーツ支援センター駒ヶ根として障害者に開放しているほか、地元駒ヶ根市の健康教室、消防署の救助訓練等にも利用されている。

8) グラウンド・テニスコート (15, 948.00 m<sup>2</sup>)

250mトラックが設置可能なグラウンドと、夜間照明を備えた全天候型テニスコートが4面併設されている。

学生は常時利用できるほか、休日にはグラウンド・テニスコートを地域のスポーツ少年団等を中心に開放している。

9) 有酸素運動研究コース (12, 505.00 m<sup>2</sup> [隣接の「語らいの並木」を含む])

コース延長600mの歩経路のほか、地域住民と学生が協働して植付け・管理を行う「ふれあい花壇」、「ほがらか農園」を設置している。

また、大学正面へ続く学園通りを囲んでケヤキ並木の語らいの並木を整備している。

10) 寄宿舍 (2, 504.44 m<sup>2</sup>)

2棟79室(1DK)に学部1年生が入居しており、2年以降は地元のアパートを借りている。

11) 非常勤講師勤宿舍 (328.00 m<sup>2</sup>)

全国各地から非常勤講師を招聘できるよう、1棟8室の宿泊施設を整備している。

また、研究のために帰宅が遅くなる大学院生の宿舍としても活用している。

教育研究棟	管理棟	学生棟	図書館	
9, 079.39 m <sup>2</sup>	2, 242.13 m <sup>2</sup>	802, 21 m <sup>2</sup>	1, 200.62 m <sup>2</sup>	
体育館	講堂	寄宿舍	非常勤講師宿舍	合計
893.68 m <sup>2</sup>	962.43 m <sup>2</sup>	2, 504.44 m <sup>2</sup>	328.00 m <sup>2</sup>	18, 012.90 m <sup>2</sup>

○教育研究棟

教 員 研 究 室	個人研究室	45室
	共同研究室	5室
講 義 室	大講義室	1室
	中講義室	4室
	小講義室	3室
	認定看護師教育課程講義室	2室
演 習 室	演習室	4室
実 験 ・ 実 習 室 等	生化学実験室	1室
	微生物・病理実験室	1室
	基礎看護実習室	1室
	母性・小児看護実習室	1室
	成人看護実習室	1室
	地域・老年看護実習室	1室
	在宅看護実習室	1室
助産実習室	1室	
情 報 処 理 学 教 室	情報処理教室	1室
語 学 学 習 室	LL教室	1室

### (3) 設備機器

#### ○情報処理機器等

学内 LAN は、管理棟、教育研究棟、図書館、非常勤講師宿舎、寄宿舍の全域に配置し、利便性を保つと同時に、教職員使用領域と学生の使用する領域を分離、高度な機密情報の保持を徹底している。

教育研究棟内の情報処理教室にパソコン 53 台を設置し、授業以外の時間は学生に開放し、随時使用できる体制となっている。

LL 教室には、LL 学習システムがインストールされた教員用パソコン及び学生用パソコン 50 台（いずれもヘッドセット付き）を設置し、語学学習等に活用している。

### (4) 課題及び方策

開学から 25 年が経過し、修繕を必要とする箇所が増えることが予想される。

設備の修繕や更新には多大な費用がかかるため、緊急性等を勘案しながら優先順位を付けて、改修計画を策定するとともに、予算の確保に努め、修繕、更新を行っていく必要がある。

また、今後も学内の植栽等を常時整備して、教育研究を行うにふさわしい緑豊かな環境を維持しつつ、一層地域住民から愛され、誇りとされるような大学となるよう努めていく。

## 2 図書館

### (1) 概要

#### 図書館の利用状況

附属図書館は、在学生（学部生・院生）、教員の学習・研究に資するため、図書、雑誌、電子資料などの学術情報の収集、提供を行っている。

#### 1) 図書館施設・設備

閲覧スペースである開架と、閉架書庫に図書・雑誌がそれぞれ配架されているが、利用者はどちらも自由に利用できる。

閲覧席は、個人閲覧席の利用が多い。国試前などの時期によっては席数が不足することもある。通常期は、4 人掛けの閲覧席も含め席数はほぼ充足している。

平成 22 年度に、退館バーの外にソファを設置し、飲食可能スペースとした。

グループ学習室は、グループワークなどに活発に利用されていたが、平成 21 年度に DVD 機器を設置したことで、視聴覚教材のグループ視聴にも利用されるようになった。データベース検索用の端末は 3 台だが、利用が集中する時期は予約・順番待ちで利用することも多い。

蔵書の収容可能冊数は 10 万冊、現在の蔵書は 72,115 冊である。

表 館内面積および設備

閲覧スペース		書庫		事務室		その他	
m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	
閲覧席	席	個人閲覧席	席	教員学習室	室	グループ学習室	AVルーム
席	館内検索用端末	台	データベース検索端末	台	コイン式複写機	台	個人ブース

#### 2) 図書館資料

##### ① 図書

図書は看護学の新刊を中心にシラバスの内容に即したものの、教員・在学生（学部生・院生）からの購入希望、その他関連領域の必要と思われるものを図書館司書が選定し購入している。実習に必要な図書は、利用状況をみながら複本も整備している。

また、国家試験や、就職試験に対応するコーナーを設けるなど学生の資料要求に応えられるよう取り組んでいる。

表 図書館蔵書数の推移

年度	和図書	洋図書	合計
2015年度末	65,717	7,402	73,119
2016年度末	66,627	7,418	74,045
2017年度末	67,750	7,439	75,189
2018年度末	68,802	7,491	76,293
2019年度末	64,370	6,835	71,205

表 蔵書における分野別の割合

年度	看護学		医学		その他一般書		合計 冊数
	冊数	割合	冊数	割合	冊数	割合	
2019	15,954	22.4%	21,175	29.7%	34,076	47.9%	71,205

## ②雑誌・新聞

最新の研究成果や分野における動向を知るために雑誌は欠かせない資料であるが、雑誌高騰から洋雑誌については無料ダウンロードや記事複写依頼で対応することで大幅に減らした。

表 受入雑誌タイトル数の推移

年度	和雑誌（種類）		洋雑誌（種類）		合計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
2015年度	84	271	18	0	373
2016年度	81	302	8	3	394
2017年度	80	183	8	0	271
2018年度	77	194	7	2	280
2019年度	77	85	7	0	169

2019年度契約電子ジャーナル 和雑誌：メディカルオンライン 洋雑誌：CINAHL With Full text  
現在購読している新聞は、全国紙4紙・地方紙3紙である。過去3年分を保存している。

## ③視聴覚資料

表 視聴覚資料数の推移

年度	DVD	VHS	CD	その他	合計
2015年度	432	1,844	125	85	2,486
2016年度	460	1,839	125	84	2,508
2017年度	488	1,839	125	66	2,518
2018年度	487	1,842	125	66	2,520
2019年度	483	1,895	120	56	2,554

## ④文献検索データベース

文献検索のデータベースは「医中誌 Web」「看護索引 Web」「MEDLINE」「CINAHL with Full Text」が利用できる。

検索結果から該当雑誌の当館の所蔵が確認できる OPAC リンクを貼り利便性を高めている。これらは学内 LAN 接続のパソコンであればどこからでも利用できる。

### 3) 利用状況

#### ①開館時間・日数

平日の開館時間は、9時から19時まで、長期休業中は17時までであり、土日祝日は休館である。但し、実習期間である5月から12月については、平日は9時から21時、土曜日は10時から16時まで開館している。

利用対象者は、在学生（学生・院生）、教職員、学外者、2011年度から開講された認定看護師養成課程の受講生である。

2019年度は、前年度より減少している。また、貸出数も減少している。

表 開館日数及び入館者数

年度	平日開館日数	土曜開館日数	開館日数合計	入館者数	1日平均
2015年度	234	23	257	35,910	139.7
2016年度	234	23	259	36,425	139.5
2017年度	235	23	258	37,532	145.5
2018年度	232	20	252	35,181	139.6
2019年度	231	20	251	33,627	134.0

表 貸出条件

	学 生	院 生	認定看護師	教 員	学外者
貸出期間	2週間				
貸出冊数	5	15	15	15	5

表 貸出冊数の推移

貸出冊数	学生/院生	教職員	合計
2015年度	8,612	1,826	10,438
2016年度	10,165	2,220	12,385
2017年度	13,748	2,585	16,333
2018年度	11,602	2,104	13,706
2019年度	11,533	1,954	13,487

### 4) 外部開放

#### ①概要

平成16年度より、18歳以上の一般の人を対象に、図書館を開放している。利用時間は、9時から授業日は19時まで、休業日は17時までとなっており、貸出冊数は5冊、貸出期限は2週間となる。初めて来館した際に身分証明書を提示してもらい、利用証を発行する。2回目以降は、入館の際に利用証提示を求めている。貸出・複写のほか、文献検索データベースの利用も提供している。

#### ②利用状況

入館者数は増加したが、貸出数は減少となった。

表 学外者の入館者数および貸出冊数の推移

区 分 年 度	学外入館者数(概数)				貸出冊数
	医療関係者	他学学生	その他	合計	
2015年度	816	75	352	1,243	2,126
2016年度	840	118	223	1,181	2,264
2017年度	802	132	167	1,101	2,232
2018年度	698	145	130	973	1,956
2019年度	650	84	261	995	1,524

## (2) 成果及び課題

資料費は年々削減されているが、貸出、閲覧、複写などの状況から雑誌や図書の利用動向を把握し、資料選定に反映させている。今後も在学生（学部生・院生）や教員からの購入希望も取り入れ学習・研究に必要な資料要求を満たせる蔵書構築を行っていく。

雑誌については、現在増加しているインターネットで公開されているデジタル化された学術資料へのアクセスを利用者に分かりやすく提示するなど、利用可能な資料を最大限利用できるような工夫に努める。

図書管理システムの更新を行い、利用者用 OPAC の利便性が増した。

入館者数、貸出数は減少傾向である。課題、実習との連携（コーナーの設置、利用者に分かりやすい配架、資料の紹介、カウンター対応の向上、図書館利用の広報など資料活用向上のため努める。

開学して 20 年以上経過し資料的価値が低くなった図書が増加したこと、研究室から移管される図書が増加したことにより、書庫の狭隘化が進んでいる。今後は重複本の除籍など、配架場所確保のための方策をとる必要がある。

以上、今後も、学生・教員の資料要求に応えられる蔵書の構築、資料活用のサポート、設備の充実に努め、学習・研究支援の場としての機能を高めていく。

## 第 2 節 財政の状況

### 1 概要

#### (1) 予算、決算

本学の予算編成は県全体としての予算編成の中に組み込まれており、県の財政担当課から示される予算編成方針等に基づき予算を編成している。したがって大学独自に財政計画を策定する状況にはなく、県全体の緊縮財政の流れの中で、厳しい財政運営を強いられている。

予算執行は、県の条例、規則に基づき事務処理を行い、会計局会計センターによる検査・指導や県監査委員事務局による監査を受けながら、適正な予算執行に努めている。

#### (2) 外部資金の獲得

県全体の緊縮財政の流れの中で、教育を支える研究活動を積極的に行うため、外部競争資金の獲得を図っている。

### 2 実績

#### (1) 予算、決算の状況（令和元年度）

歳入は、大学の自主財源である学生納付金（授業料など）が約 3 割、県の一般財源が約 7 割を占めている。県立大学として、教育研究活動を安定的に遂行するために必要な財政基盤を確立している。

歳出は、教職員及び非常勤講師等の人件費が約 8 割、大学の管理運営に必要な物件費が約 1 割、教育研究に必要な物件費が約 1 割となっている。

(歳入)

財源、歳入科目等			予算額 (円)	決算額 (円)	構成比	
特定財源	自主財源	使用料	授業料	214,024,000	201,368,275	21.7%
			寄宿料	5,451,000	5,138,900	0.6%
			行政財産使用料	36,000	56,762	0.0%
		手数料	入学料	24,939,000	26,141,400	2.8%
			入学審査料	5,259,000	5,355,800	0.6%
			証明事務手数料	38,000	49,600	0.0%
	財産収入	296,000	278,213	0.0%		
	諸収入	1,027,000	1,310,916	0.1%		
	計	251,070,000	239,699,866	25.8%		
	基金繰入金	3,837,000	3,835,000	0.4%		
	計	254,907,000	243,534,866	26.2%		
県債		7,000,000	5,000,000	0.5%		
国庫負担金		0	3,365,000	0.4%		
一般財源		686,170,722	677,769,719	72.9%		
合計		948,077,722	929,669,585	100.0%		

(歳出)

歳出科目等	予算額 (円)	決算額 (円)	構成比
報酬	14,145,000	11,239,916	1.2%
給料	352,032,000	352,031,502	37.9%
職員手当	186,403,000	186,278,757	20.0%
退職金	79,143,784	79,143,784	8.5%
共済費	110,956,870	110,956,870	11.9%
賃金	11,216,754	9,913,932	1.1%
報償費	12,485,000	9,401,324	1.0%
旅費	19,762,788	14,031,417	1.5%
交際費	43,000	0	0.0%
需用費	74,000,285	72,961,001	7.8%
役務費	9,762,000	7,604,273	0.8%
委託料	29,608,000	29,354,465	3.2%
使用料及び賃貸料	21,035,000	20,124,136	2.2%
工事請負費	25,688,000	21,653,500	2.3%
備品購入費	1,514,000	1,497,100	0.2%
負担金・補助金及び交付金	3,341,808	3,341,808	0.4%
公課費	136,000	135,800	0.0%
合計	951,273,289	929,669,585	100.0%

### 3 課題及び方策

- (1) 県予算全体の緊縮傾向が続く中、固定的経費である人件費の割合が高まっているため、物件費の効率的な予算執行が求められている。限られた予算を有効に活用するためには、物品購入等にあたり積極的に競争原理を導入する必要がある。
- (2) 看護の発展に寄与する優秀な人材を確保、育成するとともに、安定的な財源を確保するために、学部生及び大学院生の積極的な募集を行う必要がある。
- (3) 施設、設備の適切な維持管理を行うことは、安全、安心な大学生活を送るために欠かせることができないが、十分な予算が確保できていない。計画的な修繕・改修を行うため粘り強く予算の確保に努める必要がある。
- (4) 教育を支える研究活動を積極的に行うため、更なる外部資金を獲得していく必要がある。

## 第8章 自己点検・評価総括

令和元年度の自己点検・評価を実施した。令和元年度は、大学基準協会による2018(平成30)年度の第3回目の認証評価(受審)における「改善課題」に対する対応等を視野に入れて実施した。特に、「改善課題」の「基準2 内部質保証」、「基準4 教育課程・学修成果」および「基準8 教育研究等環境」に対する対応について、教授会および研究科委員会の全組織の委員長・部会長からなる評価委員会を開催(4/23、7/16)して課題等を整理し今後の行動計画等について検討した。今回、この点も加味した当該報告書の作成を通して、教職員一人一人が本学の特長、現状と課題等を改めて認識し真摯に向き合うための貴重な機会となったことと思う。

令和2年の年初以来、中国由来の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、年度後半の多くの大学運営や学内委員会の活動等が3密回避、県境・県域を跨いだ移動の自粛等から深刻な影響を受けた。しかし、教育改革として全学的に取り組むべき「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」(2017年)に基づく教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備や令和4年度(2022年度)の入学生から適用される改正指定規則(文部科学省と厚生労働省の共同省令である保健師助産師看護師学校養成所指定規則)による新カリキュラムの準備を着実に進める必要がある。

今年度は受審における「改善課題」を踏まえながら、重点課題達成の観点から昨年度に引き続き、認証評価(受審)の他4項目、委員会・部会活動の活性化等の観点から8項目を中心に総括する。

### <重点課題>

#### 1. 認証評価(受審)について

平成30年10月29、30日(公財)大学基準協会の実地調査を経て、「2018(平成30)年度大学評価の結果、長野県看護大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2019(平成31)年4月1日から2026(平成38)年3月31日までとする。」との判定を得て、無事に受審を終えた。その過程で、特に①教育課程の編成・実施方針(Curriculum Policy)の整備が不十分なこと、②内部質保証システムの整備が不十分なことが「改善課題」として指摘された。本学の教育目的について、長野県看護大学条例第2条に「健康と福祉の増進に寄与することを目的として、看護の社会的機能を担うことのできる人材を育成するとともに、看護に関する専門的な知識及び技術を深く教授研究すること」と規定されている。この目的の達成に向けて、基本的考え方、内部質保証推進組織の整備、内部質保証のためのPDCAサイクルの確立及び教育活動状況等の公表、に継続して取り組む必要がある。今後の大学運営にあたり、一昨年度策定した「第3次中期構想指針」を内部質保証システムにどのように連動させていくか等課題が山積しているが、「地域に学び、未来を拓く」の行動理念のもと、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケア力(Caring)」と「英知(Wisdom)」の4つを行動目標とした本

学独自の内実の伴う内部質保証システムを構築していきたい。

## 2.大学の法人化について

平成 30 年度の公立大学法人「長野県立大学」の開学や公立大学の法人化の潮流等に伴い、本学も独立行政法人への移行について情報収集と学内の意見集約が求められる。基本的に現在の県直営が望ましいが、法人化する場合その形態として、①一法人一大学、②一法人二大学、③二法人二大学が考えられるが、本学では③二法人二大学を基本に、今後本庁と協議していくことが大学運営委員会と教授会で確認された。その過程において、教員各人が大学の在り方や教育・研究、社会・地域貢献、大学運営について改めて考えを深め自らの現在の立ち位置を再点検する必要がある。

## 3.「看護管理学・看護教育学」分野の円滑な運営

令和元年度は学部における看護管理学実習の自立的運営や大学院生の積極的受け入れ、令和2年度に実施される「看護教員養成事業」計画の策定等の中心的役割、円滑な分野運営に取り組んだ。

## 4.看護実践国際センターの部門の再編

令和2年度に「看護教員養成事業」を実施することから、看護実践国際センターに「看護教員・看護管理者教育部門」を新たに創設するとともに、令和元年度をもって「認定看護師教育部門」を廃止した。今後、県内の看護系大学との差別化を推進するために、来年度「継続教育」に重点化した部門の創設を視野に取り組みたい。

## 5.海外看護系大学との学術交流の推進

本学の開学以来の教育目標のひとつとして、「国内外の教育研究機関との共同研究や看護実践活動をとおしてグローバルな視野を持った人材を育成し看護学全体の発展に寄与すること」を掲げている。平成30年6月7日揚州大学看護学院、平成30年8月21日サモア国立大学とそれぞれMOU(Memorandum Of Understanding)を締結して、これまでの交流により培われた相互信頼と国際交流の重要性を改めて確認した。令和元年5月25,26日、中国の江蘇省揚州市のShangri-la Hotel 揚州にて「2019 老年看護国際フォーラム」(International Forum on Geriatric Nursing 2019)が開催された。フォーラムは揚州大学看護学院が主催し本学が共催となった。参加者は米英や香港、韓国など10ヶ国と地域から多数の老年看護専門家が集まり、本学からも5名の大学教授が参加・発表した。フォーラムでは急速に進んでいる高齢化社会の直面する看護の課題について、現場からの豊富な経験をもとに各国の専門家たちが多視野から活発に議論し大変有意義なフォーラムとなった。来年度以降も、本学の行動理念・行動目標のもと、中国・東南アジア諸国等の看護系大学との学術交流を推進していきたい。

## <委員会・部会活動>

### 1.教務委員会

文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」が報告され、日本看護系大学協議会からもコンピテンシーに基づいた卒業時到達内容の見直しが提示されて説明会が開かれている。加えて、日本学術会議でも看護学教育の基準が提示された。このように、「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した参照基準が新たに作成されたことを受け、これら参照基準と本学の学部教育について自己点検・評価を行う必要がある。委員会活動として、前年度新たに作成したシラバス作成要領に基づき、各回の学修内容、評価方法を明記するよう取り組み、今年度より新シラバスによる教育活動を実施した。なお、教務委員会と実習委員会のより緊密な連携を意図して、来年度から教務委員会と実習委員会を統廃合して「教務・実習委員会」を設ける組織改革を行った。

### 2.入試検討委員会

高大接続システム改革会議の「最終報告書」を受け、本学においても大学入学者選抜の改革について検討してきた。この「最終報告書」により新たに導入される入学者選抜は令和2(2020)年度から実施することが求められており、新たな大学入学者選抜について、本県内及び近隣県の高等学校を対象とした説明会を、昨年度と同様に本学をはじめ松本市と長野市の、合わせて3つの会場で実施した。本学では編入学試験を平成26(2014)年度まで行ってきたが、現在はその試験区分による学生の募集を停止している。今回新たに導入される入学者選抜を契機に、各選抜試験区分にかかる募集定員数の配分見直し等の検討を行ない、早期に編入学試験の廃止に向けた準備と手続きを開始する必要がある。

### 3.学生委員会

学生委員会が推進している「市町村保健師採用合同説明会」については、特に近年中山間地域の市町村に入職を希望する者が減少しており、行政保健師確保に困難な市町村が増加している現状を踏まえながら、保健師確保支援の場を継続して提供していくため、自治体のニーズを検討しつつ、当該事業を継続する必要がある。新入生に対して、「新入生オリエンテーション」を学内（おもに体育館）で滞りなく実施し、新入生オリエンテーションの目的である新入生どうし、新入生と在学生および教職員の交流を図り、新たな学生生活への移行と適応を支援することができた。加えて、1年生～3年生には医療機関や自治体から管理者や本学卒業生を招いてキャリアガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲを開催して、計画通り学年毎にほぼ全員の参加を得て実施した。今後、「新入生オリエンテーション」に、**First Exposure**として「新入生の地域からの学び」の企画を検討したい。

#### 4. ネットワーク推進委員会

近年、教育機関への標的型の攻撃等インターネット関連の脅威が増大しており、管理・運用にセキュリティ対策の充実が求められている。平成30年度を受審でも保守に精通した実務的処理担当者または委託先の選任が改善課題として挙げられた。その対応として、今年度は管理体制の状況確認を行った。その結果、DHCP サーバー・ファイアウォール等の機器が旧式化し、また購入後のサポート期間が終了していたため、機器の更新を行う必要性が確認された。そのため、今後は、インターネット関連機器について、これまでの買い取り形式をやめ、業者と関連機器についてリース契約を結び、管理に関して業者から全面的にサポートしてもらう体制をとることとした。大学評価への対応としてはさらに日常の管理運営やセキュリティ面についても、サポート契約において、常時必要な助言を得るほか、障害発生時には即座に対応を委託する体制を構築することとした。

#### 5. FD・SD委員会

本学の第3次中期構想指針においても、若手教員への研究支援の必要性を挙げていることから、次世代を担う若手教員への研究支援・環境作りが求められている。そこで、本学教授による若手教員に対する研究支援研修会や教員相互による授業参観等の企画・実施を行った。研究集会については、新型コロナウイルス流行のため中止した。

#### 6. 防災委員会

防災・減災への取り組みは本学の最重要課題のひとつである。防災訓練については、毎年市内消防署の協力を得て【消防避難訓練】を実施している他、【情報伝達訓練】、【安否確認訓練】を行ってきたが、今年度も昨年度に引き続き地域防災連携会議（委員会が協力）を通して、本学周辺の町内会と合同防災訓練を実施した(8/25)。近年増加の一途をたどる災害に対し、減災や防災への意識啓発として、学内で防災週間を設け、研修会や防災グッズ・ポスターの展示等、学生や教職員の意識啓発を行ったり、災害発生時には「非常召集、警戒宣言発令伝達の緊急連絡体制」を活用したりして、学生および教職員のより安全な避難・確認のためこれら連絡体制を常に強化するなどの必要がある。今後も教職員の意識啓発や本学周辺の町内会との合同防災訓練等を通して、防災・減災への取り組みを強化していきたい。

#### 7. 研究科委員会教務部会

大学認証評価結果を受けて、博士前期課程のカリキュラムポリシー、博士後期課程のカリキュラムポリシーについて、教育上の基本的な考えが表現されるよう見直しを行った。今後は、学修成果の把握及び評価のための指標、方法について検討する必要がある。

学位規程の「論文博士」について、実施する方向で引き続き検討することとなった。こ

のことによって、国内外から本学の研究生や大学院生を目指す者が増えることや、特に本学の博士後期課程の単位取得済の者の博士取得が可能になるものと期待している。

#### 8. 研究科委員会入試部会

本学における特に博士前期課程受験者数の確保は喫緊の課題のひとつである。今年度は、オープンキャンパスにおける大学院説明会の実施、大学院の授業聴講と大学院との交流会の実施、教員による個別の施設訪問と広報、対象者のリクルート等を行った。その結果、博士前期課程 13 名、博士後期課程 3 名の入学予定者の成果が得られた。また、本学の修士課程を修了し、引き続き博士課程への進学希望者の入試試験のあり方(「長野県看護大学大学院学則」第 10 条の 2)や博士後期課程入試における外国人特別選抜については、大学院教務部会で入学後の教育体制の課題を整理するとともに引き続き検討することとした。

以上の総括評価の他に、令和 2 年の年初以来、中国由来の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴うオンライン授業における学内や学生・教職員の Wi-Fi 等環境整備・財政的支援が喫緊の課題となっている。コロナ禍を奇貨として、決して誰一人取り残さない(No one will be left behind)を合言葉に、本学の底力(resilience)を涵養したい。また、開学 26 周年目に入り中長期的な視点から施設や備品の老朽化に伴う修繕・更新等についても、本庁と適時協議を進めたい。

長野県看護大学長 北山秋雄

自己点検・評価報告書（令和元年度分）

2020年10月発行

編集 長野県看護大学 評価委員会

発行 長野県看護大学

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1694

TEL 0265-81-5100 FAX0265-81-1256

印刷 株式会社宮澤印刷



長野県看護大学